



Title	嘘の理解の発達と嘘をつく行為
Author(s)	上宮, 愛
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第12079号
Issue Date	2016-03-24
DOI	10.14943/doctoral.k12079
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/64842
Type	theses (doctoral)
File Information	Ai_Uemiya.pdf



[Instructions for use](#)

平成 27 年度 博士論文

嘘の理解の発達と嘘をつく行為

北海道大学大学院文学研究科

人間システム科学専攻

上宮 愛

目次

第1章 序論	
第1節 問題	1
第2節 本研究の目的と本論文の構成	21
第2章 研究1 幼児による嘘の概念理解と嘘をつく行為	
第1節 目的	24
第2節 方法	25
第3節 結果	30
第4節 考察	48
第3章 研究2 児童期における信念に基づく嘘の概念理解の発達	
第1節 目的	52
第2節 方法	54
第3節 結果	58
第4節 考察	79
第4章 研究3, 4 場面や発話内容の違いが嘘の判断に及ぼす影響	
第1節 大学生を対象とした調査(研究3)	86
第2節 中学生とその保護者を対象とした調査(研究4)	109
第3節 発話内容の違いが嘘の判断に及ぼす影響についての再分析	137
第5章 総合考察	
第1節 本研究のまとめ	145
第2節 本研究の応用的な意義	150
第3節 本研究の限界と今後の課題	155
引用文献	158
謝辞	166
資料	168

第1章 序論

第1節 問題

1-1. はじめに

人はどのようなときに発話を“嘘”と判断するのだろうか。国語辞典によれば，“嘘”とは，“本当でないこと”，“事実でないこと”，“真実でないこと”である。しかし，事実でなくとも，話者があることを事実だと思って話したのであれば，“嘘”とは判断されないこともある（例，雨が降り出したことを知らずに“雨は降っていない”という；佐藤，1996）。また，事実でないことを，事実でないと知りつつ話したとしても，“嘘”ではなく，“冗談”だと解釈される場合もある。相手を事実以上に賞賛することや，自分を事実以上に卑下することも時には“嘘”と判断されない（お世辞，謙遜など）。これらの例に基づいて考えると，“嘘”は，単に聞き手を欺く行為ということに留まらず，他者とのコミュニケーションにおける道具としての一面をもつ。また，嘘の理解と他者の“心”の理解を切り離して考えることはできない。

先行研究によれば，他者の心の状態（心的状態）を理解するために必要となる，“心の理論（theory of mind）”を獲得するのは4歳頃であるといわれている（Wimmer & Perner, 1983）。心の理論の獲得を調べる課題として“誤信念課題”があげられる。誤信念課題では，主人公であるマキシが場所 A に入れたチョコレートをお母さんがマキシの知らないうちに場所 B に移動させる。参加者の子どもには，戻ってきたマキシがどこを探すかを尋ねる。その結果，4歳以下の子どもは，マキシの心的状態を考慮できず，“場所 B”を探す傾向があり，“マキシはチョコレートが場所 A にあると間違っ理解している”という“誤信念”を理解できない。このように，“Aさんは〇〇だと思っている”という信念を“一次的信念”と呼び，一次的信念が理解できるようになるのは4歳以降であるといわれている。嘘とは，単に事実や信念に反する発話というだけではなく，“事実とは異なる

情報を聞き手に信じ込ませること”である。このように、話者（嘘をつく人）や聞き手（嘘をつかれる人）の信念を含めた嘘の概念理解が可能になるのは、一次的信念の理解が可能になる4歳以降であると考えられる。一方、他者との関係性の維持や利他的行為を目的とした虚偽の発話には、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”などがある。単に事実と反する発話を“嘘”と定義したならば、これらの発話も同様に“嘘”と分類されてしまうだろう。しかし、これらの虚偽の発話は、年齢が上がるにつれ“嘘”とはまた別のものとして理解されるようになる。これらの発話が理解できるようになるためには、“私は〇〇だと思っていると、Aさんは理解している”のように、“二次的信念”の理解が必要になる。一般的に、子どもの頃には、嘘は悪いことで、嘘をつけば罰せられることを大人から教わる。しかし、年齢があがるにつれ、“今は嘘をついた方がいいのだろう”と思う場面に遭遇し、他者との関係性の維持や利他的な目的で嘘をつく体験をするようになる。嘘の概念理解において、これらの虚偽の発話と嘘を弁別できることは重要である。嘘の概念理解には、発話が“事実”や“信念”と一致するか否かといった認知的な要因を含めた理解に加え、どのような文脈／場面で、どのような内容の発話がなされたか、その発話がどのような結果（印象）をもたらすかなど、社会的な要因も大きく影響すると考えられる。

子どもの嘘の概念理解に関する先行研究では、これまで、様々な課題が開発され、あらゆる発達段階の子どもを対象に研究が進められて来た。課題の例としては、①嘘や本当の項目を同定させる（同定課題）、②嘘と本当を定義させる（定義課題）、③嘘と本当の違いを説明させる（弁別課題）、④善悪判断をさせる（善悪判断課題）、⑤（信念に基づく発話と信念と反する発話を検討するため）嘘と誤りを弁別させる（嘘、間違い課題）、⑥実際に嘘をつかせる（行動課題）などが挙げられる（Bussey, 1992; Peterson, Peterson, & Seeto, 1983; Siegal & Peterson, 1996, 1998; 杉村・古野・平木, 1998）。しかし、これらの課題間の関連は未だ明確に示されておらず、各課題が嘘の概念理解のどのような側面を測定しているのかについての整理はなされていない。また、発達的な考察を行う上で、用いる課題の影響について考えることは重要である。例えば、同定課題や善悪判断課題は簡単であ

り、年少の子どもを対象とした場合に適しているといえる。その一方で、これらの課題は、“信念”や“意図”などの内的な要因を含む嘘の概念理解を検討するには不十分である。行動課題では、実際に相手を騙すような嘘がつけるか、子どもがどのような行為を“嘘”と理解しているのかを知ることができる。この課題は、言語能力に左右されず、言葉では説明できないとしても、“信念”や“意図”などの内的な要因を含めた嘘の理解を行動によって測定する事が可能である。その他にも、嘘と間違いを弁別させる課題では、他者の心の動きを含めた嘘の理解を検討する事ができるが、これらの課題は難しく、年少の子どもを対象とした検証には適さないといえる。このように、対象者の年齢によって、用いることができる課題の種類が大きく変わる。これは、発達的な問題に加えて、“嘘”という抽象的な概念の特性によるものでもあると考えられる。例えば、大人であれば、“嘘も方便”といった嘘の理解もある。しかし、年少の子どもにみられるような“善悪判断”を基準とした嘘の理解とは大きく矛盾する。そのため、大人による嘘の理解を基準として作成された課題を、年少の子どもを対象とした調査で用いることは適切ではない。その一方で、大人に対して、年少の子どもに用いられるような同定課題、善悪判断課題を行ったとしても、正確に大人の嘘の概念理解を測定できているとはいえない。以下に、それぞれの課題を用いた先行研究を概観し、発達的な問題について示す。

1-2. 嘘の概念理解に関する研究で用いられる様々な課題と発達

嘘の概念理解に関する初期の研究として、Piaget (1932/1997) によるものがあげられる(楯・新井, 2004)。Piaget (1932/1997) は道徳性の発達に関する一連の研究の中で、“嘘”を題材として取り上げ、嘘の定義(嘘とはどういうことか)について、子どもに直接質問し、得られた回答を3つの発達段階に分けて考察を行った。

まず、“嘘とはどのようなものか(What is a lie?)”と尋ねると、6歳児の多くが“悪い(ふざけた)言葉(naughty words)である”と答えた。さらに、“ある男の子がコップを壊したが、彼は壊していないと答えた。これは、嘘ですか。”や、“ここにいる男性は 39

歳ですと言ったらこれは嘘ですか（本当は36歳であると子どもに教える）”という質問に対して、“嘘である”と答えた（Piaget, 1932/1997）。第一段階にある子どもは、“事実と異なる内容の発話は嘘である”と理解している。しかし、“悪口”、“汚い言葉づかい”、“呪い”など、大人から禁じられていることを口にするのも同じく“嘘”であり、嘘も“悪い言葉”も、どちらも言葉による反道徳的な行為であるため、2つを同じこととして理解している可能性が高いと Piaget は考察している。Piaget により提唱された、子どもの認知発達に関する発達段階説では、2歳から6歳頃までを前操作期と呼ぶ。この時期の子どもは、ごっこ遊びなどにみられるように、表象を心の中で“操作”することが可能になり始める。しかし、その能力はまだ不十分で、知覚的な情報の影響を大きく受け、直観的であるといわれている（直観的思考）。例として、誤信念課題において、前操作期の子どもは、自分が見たこと（知っていること）と、主人公のマクシの見たこと（知っていること）が“異なる”ということを踏まえた判断ができない。第一段階の子どもは、直接目には見えないような内的な要因は考慮できず、具体的に理解できる“よい”、“悪い”という善悪判断のレベルや、発話が事実と一致するか否かなどの事実との単純な照合に基づいて、嘘を理解しているといえる。

次に、第二段階にある子どもに、“嘘とはどういうことか”を尋ねると、“本当ではないことを言う”と答える。さらに、“ $2 + 2 = 5$ とある男の子が言ったらそれは嘘ですか”と聞くと、“嘘”と答える。しかし、“その男の子は間違えたと思いますか”と尋ねると、“間違えた”と答え、“もしも間違いなら、その子は嘘をついていることになりますか”と尋ねると、“嘘をついている”と答えるといったやり取りがみられる。第二段階では、具体的な質問に対しては、嘘と単なる間違いを弁別することができる一方で、発話が事実とは異なるか否かという点で判断した場合には単なる間違いも“嘘”とラベル付けされてしまう。6歳から11歳頃の具体的操作期になると、実際に物を動かしたり、具体的に質問したりすることで理論的に理解する事ができるようになるといわれている。第二段階の子どもは、具体的な質問を行えば、間違いを“間違いである”と同定できる一方で、抽象的な質問に

は“嘘”と“間違い”を同じものとして分類してしまう。

第三段階では、大人に近い形で、嘘は相手を騙すという意図を持った行為であることが理解できるようになる。10歳の子どもに嘘と間違いの違いについて尋ねると、“嘘をつくときはわざとやるけど、間違いの場合は自分で気が付いていない”と答えた。第三段階では、話者の内的な要素である“意図”について、言及するようになる。11歳以降の形式的操作期になれば、目に見えないものも頭の中で“操作”し、理論的に考えることができる。これにより、抽象的な概念である“嘘”についても、目には見えない“心の状態”を考慮し、話者や聞き手の“信念”や“意図”を含めた定義ができるようになるといえる。Piagetは、第一段階は6歳頃、第二段階は8、9歳頃、そして、第三段階の理解が可能になるのは10歳から11歳頃であることを示した (Piaget, 1932/1997)。

しかし、Piaget (1932/1997) が用いた、子どもに直接嘘の概念について尋ねるような方法は、その子どもの言語能力に大きく依存する。例えば、Pipe & Wilson (1994) は、6歳児と10歳児に、1) 嘘と本当の違いについて説明させる、2) 嘘の発話を同定させる (もし私が、あなたは12歳ですと言ったら、嘘をついていますか。本当のことを話していますか。), 3) 嘘をつくことの結果について説明させるなどの課題を行った。その結果、1) 嘘と本当の違いを説明できたのは、6歳児では8%、10歳児では31%であった。また、2) 嘘の発話の同定については、6歳児では78%、10歳児では全ての参加者が正しく発話を“嘘”であると答えることができた。さらに、3) “嘘をつくとなくなるか”という質問に対しては、10歳児の60%が“罰”について言及したのに対して、6歳児では46%にとどまった。

同じく、Lyon & Saywitz (1999) は、4歳から7歳までの、(虐待事件の被害などにより) 法廷で証言するために出廷を待っている子どもを対象に嘘や本当の理解に関する課題 (同定課題、弁別課題、定義課題など) を実施した。その結果、発話を同定させる課題では4歳児の67%、5歳児の87%、6・7歳児の90%が正しく回答することができたのに対して、“嘘”と“本当”の違いや定義を説明させる課題では、7歳以下の子どもは、例を挙

げたり、事実に基づいて具体的な説明をすることは殆どできなかった。これらの研究の結果が示すことは、“嘘”や“間違い”という2つの抽象的な概念の違いを問う質問や、Piaget (1932/1997) が用いたような嘘の定義を求めるような課題は、言語発達の側面から考えても、10歳以下の子どもには難しいということである。

課題の中でも、同定課題や善悪判断課題は、幼児など年齢の低い子どもを対象とした研究に適していると考えられる。この課題では、発話例をいくつか子どもに示し、どのような発話が嘘と判断されるのか、また、そのような発話を行うことはよいか、悪いかの判断を求める。例えば、Peterson *et al.* (1983) は、Piaget (1932/1997) の課題は複雑かつ抽象的であることを指摘し、5歳児、8歳児、9歳児、11歳児、そして、大人の参加者に、主人公が虚偽の発話を行うという物語をビデオテープによる映像を用いて提示した。物語の内容は、主人公が意図的な嘘、誤り、推測、悪口、冗談、お世辞、誇張などの発話を行うというものであった。参加者は、物語の最後に主人公の発話が嘘か否かの判断を行なった。その結果、意図的な嘘では、全ての年齢群において、高い割合で発話が“嘘”と判断された。一方、悪口（財布を落として拾おうとしていると車にクラクションを鳴らされ、ののしるなど）では、5歳児の38%、8歳児の12%、9歳児の8%、11歳児の15%、そして、大人の2%が発話を“嘘”と判断した。また、“嘘をつくのは常に悪いことですか。それとも、時には嘘をつくのはよい場合もありますか。”という質問に対しては、5歳児の92%、8歳児の88%、9歳児の78%が“常に悪い”と答えたのに対して、11歳児では72%の参加者が“常に悪いとは言えない”と解答している。さらに、“嘘をつくとうどうなりますか？”という質問に対しては、5歳児の80%、8歳児の70%、9歳児の75%が“罰”について言及したのに対して、11歳児では22%が“罪悪感”、48%が“信頼関係の崩壊”について言及を行なった。年少の子どもは、善悪、事実/反事実、大人による評価（罰を与えるなど）を基準として嘘を判断しているといえる。特に、5歳児では、Piaget (1932/1997) の研究でもみられたように、その38%が“悪口”も“嘘”と分類するという結果が得られた。それに対して、11歳頃には、嘘をついたことによる罪悪感や他者との信頼関係の崩壊

について言及するなど、内的な要因に基づいた定義が可能になり、嘘は“常に悪いとは言えない”という、嘘の社会的な側面についての理解もみられるようになる。Petersonら（1983）の研究は、Piaget（1932/1997）が用いた課題を、より年齢の低い子どもに適した形に改定し、その結果を再現できたといえる。

その他にも Bussey（1992）は、就学前児（4-5歳）、2年生（7-8歳）、5年生（10-11歳）に、ルールを破る、物を盗む、物を壊すなどの物語を提示し、主人公の発話が嘘か、本当かを判断させた。また条件として、発話を行なった結果、主人公が罰を受けた場合と罰を受けなかった場合の2つが設けられた。その結果、発話を正しく同定できた参加者の割合は、2年生で98%、5年生で99%であったのに対して、就学前児では71%と他の年齢群に比べ低いことが示された。また、道徳判断では、どの年齢群でも“嘘”の発話は“本当”の発話に比べて悪いと評価された。さらに、罰の有無については、就学前児は罰がある条件では、ない条件に比べて発話をより悪いと評価したのに対して、年長の子どもたちは罰の有無による発話の評価の違いはみられなかった（類似した結果に Bussey & Grimbeek, 2000）。

これらの研究で用いられた同定課題や善悪判断課題は、課題をより具体的、かつ、年齢の低い子どもの発達に適したものに改良し、特に、Piaget（1932/1997）の第一段階や、第二段階のレベルでの嘘の概念理解を検討するのに適していると考えられる。その一方で、Piaget（1932/1997）の第三段階でみられるような、“信念”、“意図”などの内的な要因を踏まえた嘘の理解を検討するには不十分である。“信念”や“意図”といった、話者や聞き手の心的状態を踏まえた嘘の概念理解について、年齢の低い子どもを対象とした検証は難しい。しかし、言語的な説明ができなくても、4歳頃になれば心の理論が獲得され、他者の信念を理解できるようになる（Wimmer & Perner, 1983）。その点で、行動課題は、言語能力に依存せず、行動を測定することで嘘を子どもがどのように理解しているのかを調べる事ができる。例えば、子どもが事実には反しているが、すぐにばれてしまうような嘘をついた場合には、聞き手の信念を考慮した嘘の理解はできていない可能性が高い。反

対に、相手を騙すような内容の嘘がつけたならば、聞き手の信念を理解したうえで嘘をついていることがわかる。定義課題にうまく答えることができなかつた年少の子どもであっても、行動課題では他者の信念を考慮した嘘つき行動ができる可能性もある。

Lewis, Stanger, & Sullivan (1989) は、子どもの嘘つき行動について検討を行っている。3歳児に、実験者が部屋に戻るまで背後にあるおもちゃを見ないようにと教示し、部屋を後にする。実験者が部屋に戻り、子どもにおもちゃを見なかったかどうか質問すると、38%の子どもが“見なかった”と嘘をつき、38%が見たことを認めた。また、24%の参加者は質問に対して何も回答しなかった。結果から、4歳以下の子どもであっても、嘘がつけることが示された。杉村・古野・平木(1998)の実験では、日本の3,4歳児を対象に、Lewisら(1989)と同様のおもちゃ課題を用いた実験を行なっている。その結果、3歳児では73%、4歳児では72%の子どもがおもちゃを見てしまう。その後、“見なかった?”と尋ねると、3歳児ではおもちゃを見てしまった子どもの61%が、4歳児では87%が“見なかった”と答えた。つまり、3歳児に比べ、4歳児では嘘をついた参加者の割合が多く、年齢に伴い嘘つき行動が増加することが示された。さらに、杉村ら(1998)の実験では、実験者が部屋から出て行った後も、参加者の様子を監視していること伝える条件と、伝えない条件が設けられた。先生条件では、実験者が部屋を出た後も、設置されたビデオカメラをとおして、別室で幼稚園の担任の先生が子どもの様子を見ていることを伝えた。ぬいぐるみ条件では、部屋の棚に置かれたくまのぬいぐるみが、子どもがおもちゃを見ないかどうかを見はっている事を伝えた。そして、統制条件では何も伝えなかった。その結果、各条件で年齢による違いはみられなかったものの、3,4歳児合わせて、先生条件では62%が、ぬいぐるみ条件では71%が、そして、統制条件では94%の参加者がおもちゃをみなかったと嘘をついた。統制条件では、他の2つの条件に比べ、嘘をついた参加者の割合は有意に高く、監視されている事を伝えると、嘘つき行動が抑制されることが示された。先生条件や、ぬいぐるみ条件において嘘つき行動が抑制されたという点について杉村は、幼児であっても、事実を知っている人に対して、事実と異なる情報を与えた場合には嘘は成

立しないという事を理解している可能性がある」と考察している。しかし、自分の行動が相手に見られていると分かっていたとしても、半分以上の子どもが嘘をついたことになる(類似した結果に功刀・松澤・森山, 2003)。これらの点から考えると、4歳以下の子どもは“自分がおもちゃをみたことを知っている”他者の心的状態を考慮して行動することができず、すぐにばれてしまうような嘘をつくといえる。

しかし、これらの研究の問題点として Polak & Harris (1999) は、子どもが 1) おもちゃを見たと自分で認識していない, 2) おもちゃを見たことを忘れている, または, 3) おもちゃをみたことを正式に“見た”と言う行動に分類していない可能性をあげている。つまり、子ども自身が“嘘をついている”という認識を持っていない可能性がある。これらの点を踏まえ、Polak & Harris (1999) は、3歳と5歳の子ども対象に、実験者がおもちゃの家の中に動物を隠し、その動物の鳴きまねをして、子どもが家の中に隠された動物が何であるかをあてるというゲームを実施した。その際に、“見てもよい”という許可を与える統制群を設けた。問題点としてあげた3つの可能性が正しければ、統制条件でも実際には見ているのに、“見なかった”という回答がみられるはずである。ゲームの途中で実験者は、豚の人形を隠し、アヒルの鳴きまねをして、子どもが家の中を確認する前に部屋から退出する。退出する際に、統制条件では実験者が部屋にいない間に家の中を見てもよいという許可を与え、禁止条件では実験者が帰ってくるまで家の中を見てはいけないと子どもに伝える。実験者が戻ってきた後に、子どもは 1) 家の中を見たかどうか, 2) 家の中には何が入っていると思うかを質問される。統制条件では、全ての子どもが家の中を見たことを認めたのに対して、禁止条件では家の中を見た子どものうち 84%が見たことを否定した。その子どものうちの 65%が、質問 2) では、誤って自分が見てしまった動物を(例: 豚)を答えてしまった。誤信念課題との関連を検討したところ、質問 1) に対して家の中を見たことを否定することと誤信念の理解との間に関連が見られた。しかし、質問 2) に対して、家の中身について知らないふりをする 것과誤信念の理解との間に関連は見られなかった。就学前の子どもは、軽度の違反行為の場面において、嘘をついているという認

識を持って、嘘をつくことができる。しかし、自分の知っている事実に関する情報を抑制し、無知のふりをすることはできない。このように、単に自分は“家の中を見ていない”など、事実と異なる内容を述べる、もしくは、見たことを否定するだけであれば、一次的信念の理解があれば可能となる。一方、自分の知っている事実について“無知のふりをする”ことができるようになるには、二次的信念の獲得が必要であると考えられる。これらの点から、年齢の低い子どもがつくようなその場しのぎの嘘は一次的信念が獲得された段階で可能となるが、より高次の聞き手を騙すような嘘は、二次的信念が獲得される年齢にならなければ難しい可能性が高い。

例えば、Talwar & Lee (2002) は、同じように3から7歳の子どもにおもちゃ課題を実施し、その結果、3歳児の半分がおもちゃを見てしまったことを告白した。一方、7歳児のほとんどが嘘をついた。その後、子どもの反応を録画したビデオ映像を大人の評定者が見て、子どもが嘘をついているかどうかの判断を行った。その結果、非言語的な手がかりでは嘘をついている子どもと、本当の事を話している子どもを区別することはできなかったのに対して、言語的な手がかりを元にすれば、嘘をついている子どもを判別することが可能であった。結果より、7歳以下の子どもたちは相手を完全に騙せるような嘘がつけないということが示された。言語的な手がかりにより、子どもが嘘をついているか否かを判別する事が可能であったという点から、聞き手を騙すような嘘がつけるためには、嘘の内容（どのような内容の嘘をついたか）が大きく関連する可能性もある。

以上の研究をまとめると、7歳以下の子どもは、事実とは異なる内容を言うことはできても、“おもちゃを見てしまった事を知っている”という聞き手の信念を考慮して、相手を騙すような内容の嘘をつくことはできない。特に年齢の低い子どもは、自分の置かれている危機的な状況を回避するためのすぐにばれてしまうようなとっさの嘘をつく傾向があるといえる。行動課題を用いた研究の結果からも、7歳以下の子どもは、聞き手の信念を考慮した嘘をつくことができないことがわかる。しかし、例えば、Piaget (1932/1997) の研究などで用いられた“その男の子は間違えたと思いますか”というような具体的な質問

や、誤信念課題のように信念について直接問うような質問など、信念に注意を向けさせる手続きを含むような課題を用いた場合には、年齢の低い子どもであっても内的な要因を含めた嘘の理解を示す可能性はないだろうか。

Wimmer, Gruber, & Perner (1984) は、正直に話す意図を持った話者が結果的に聞き手に事実とは異なる情報を伝えてしまった場合と、騙す意図のある話者が意図せず本当のことを伝えてしまった場合に、それぞれの発話に対して、罰を与えるか、報酬を与えるかを検討した。その結果、子どもは、意図に基づいて発話を評価している（報酬を与えるか、罰を与えるか）ことが示された。しかし、多くの子どもが、正直に話す意図を持った話者が意図せず行った嘘の発話に対しては、報酬を与えると判断したにも関わらず、その発話を“嘘”であると判断した。Wimmer *et al.* (1984) では、発話の評価においては意図や信念といった内的な要因が考慮される一方で、その発話の分類（嘘か否かの判断）においては、事実・反事実といった外的な要因が重視される傾向が見られた。

この現象について、さらに詳しく検討するため、Wimmer, Gruber, & Perner (1985) は、4歳から5歳の子どもを対象に実験を行った。参加者に、主人公が本当のことを話そうとする意図があるのに、彼自身の理解が間違っていたために事実と違うことをいってしまうという内容の物語を提示した。物語は2種類あり、1つは、主人公が別の誰かに騙されて間違った信念を持ってしまった場合と、もう一方は、予期せぬ事態（事故的に）が起こり間違った信念を持ってしまったという内容であった。参加者は、Wimmer *et al.* (1984) と同様に、発話が賞賛されるべきか、罰せられるべきかを判断し（道徳的判断）、さらに、主人公の発話が嘘であるかどうかを判断した（語彙判断）。参加者の半分は語彙判断をはじめに行い、残りの参加者は道徳的判断を最初に行った。その結果、道徳的判断を先に行った場合には、発話は報酬を与えると評価されるにも関わらず、嘘と判断された（46%）。それに対して、語彙判断を先に行った条件では、これらの矛盾した判断は6%しか見られなかった。語彙判断を先に行った条件では、発話が嘘と判断され、罰を与えると評価された割合は54%であった。これらの回答パターンは、道徳判断を先に行った条件では29%

であった。これらの結果を踏まえ、Wimmer *et al.* (1985) は、年少児では、語彙判断より先に道徳判断が可能になると結論付けている。また、子どもの嘘の語彙判断は、意図や信念を考慮した主観的な道徳判断に基づくものではなく、発話がよいか、悪いかという道徳判断に基づいている可能性が示唆された。

Wimmer らが誤信念課題をもとにした課題を用いたのに対して、彼らとはまた異なる方法で、信念の理解を含む嘘の判断について検討した研究がある。Strichartz & Burton (1990) は、嘘を規定する要因として 1) 発話が事実と一致しているか否か (事実性 factuality : F), 2) 発話が話者の信念と一致しているか否か (信念 belief : B), 3) 話者は真実を言おうと意図しているか否か (意図 intention : I) を挙げ、これらの 3 つの要因を組み合わせて 8 つの小劇を作成した。例を Table1-1 に示す。例えば、Table1-1 の①では、話者の発話 (“リーは家出した”) が事実 (リーが家出する) と信念 (リーは家出した) の両方と一致し、話者の意図とも一致している (本当のことを言おう) (F+B+I+)。一方⑧では、発話 (“財布は寝室にある”) が事実 (財布を椅子の下に隠した) と信念 (財布を椅子の下に隠した) の両方と異なり、話者の意図にも反する (本当の事を言わない) (F-B-I-)。彼らは、3, 4, 6, 10 歳児、大人を対象に、主人公の発話を “嘘”, “本当”, “それ以外” から判断させた。その結果、3 歳児で明確な判断ができたのは全体の 47%のみであった。4, 6 歳児では事実と一致する発話は “本当”, 反事実の発話は “嘘” と判断し、事実性に基づいた判断を行う傾向が見られ、“信念” や “意図” については考慮されなかった。これに対し 10 歳児では、“信念” を考慮した判断を行うようになり、大人は、“事実性” や “意図” よりも “信念” を重視した判断を行った。10 歳児の判断は、年少児と大人の判断の間の過渡期のような傾向を示していた。この Strichartz & Burton (1990) では、事実、信念、意図の 3 つの要因を含めた検討を行ったが、“意図” は嘘の判断に影響を与えておらず、大人になるにつれ嘘の判断においては、“信念” が重視されるという結果が示された。

日本の子どもを対象とした研究に、伊藤 (1996, 1998, 1999) による一連の研究が挙げられる。伊藤 (1996) は、Strichartz & Burton (1990) の実験材料における “意図”

Table 1-1 発話タイプ Strichartz & Burton (1990)より

発話が事実と一致している (F+)		発話が事実と一致していない (F-)	
発話を事実だと思っている (B+)	発話を事実ではないと思っている (B-)	発話を事実だと思っている (B+)	発話を事実ではないと思っている (B-)
①F+B+I+	②F+B-I+	⑤F-B+I+	⑥F-B-I+
事実: リーが家出する	事実: 母親の財布が椅子の下にある	事実: スポットがカップを倒す	事実: スポットが家出する
信念: リーは家出した	信念: 母親の財布は寝室にある	信念: 私がカップを倒した	信念: スポットが家出した
意図: 本当の事を言おう	意図: 本当の事を言おう	意図: 本当の事を言おう	意図: 本当の事を言おう
発話: 「リーは家出した」	発話: 「財布は椅子の下にあるよ」	発話: 「私がこぼした」	発話: 「スポットは犬小屋にいる」
心の声: これが言いたかったんだ	心の声: これは言いたくないことじゃない	心の声: これが言いたかったんだ	心の声: これは言いたくないことじゃない
③F+B+I-	④F+B-I-	⑦F-B+I-	⑧F-B-I-
事実: リーがカップを倒す	事実: スポットが家出する	事実: リーがカップを倒す	事実: 母親の財布を椅子の下に隠す
信念: リーがカップを倒した	信念: スポットは犬小屋にいる	信念: 私がカップを倒した	信念: 母親の財布を椅子の下に隠した
意図: 本当の事を言わない	意図: 本当の事を言わない	意図: 本当の事を言わない	意図: 本当の事を言わない
発話: 「リーがこぼした」	発話: 「スポットは家出した」	発話: 「私がこぼした」	発話: 「財布は寝室にあるよ」
心の声: これは言いたくないことじゃない	心の声: これが言いたかったんだ	心の声: これは言いたくないことじゃない	心の声: これが言いたかったんだ
騙す意図がない (I+)		騙す意図がある (I-)	

の提示状況の不自然さを指摘し、“意図”を含まない形で類似した実験を行った。伊藤（1996）では、ミッキーマウスがターゲットを場所 A に隠した後、知らない間にそのターゲットが場所 B へと移動されてしまうという内容の物語を、6 歳児、9 歳児と大学生に示した。ミッキーマウスは後で、ミニーマウスにターゲットの隠し場所を告げるが、その際に、A であると答える場合 (F-B+) と、B と答える場合 (F+B-) の 2 条件が設けられた。その結果、F-B+ では、6 歳児の 46% が発話を“嘘”であると判断したのに対して、9 歳児では 0%、大人では 7% であった。F+B- の発話では、6 歳児の 14% が発話を“嘘”と判断したのに対して、9 歳児では 68%、大人では 66% という結果が示された。つまり、6 歳児では“事実”に基づいた判断がなされているのに対して、9 歳児や大人では“信念”を重視した判断が行われたといえる（類似した結果に、伊藤、1998, 1999）。これは、Strichartz & Burton (1990) の研究結果と一致する。

これまでの研究の結果に鑑みれば、6 歳以下の子どもは、信念を考慮した嘘の理解が難しいことがわかる。嘘の理解には、少なくとも心の理論や一次信念の理解が必要となる可能性が高い。では、心の理論や一次信念の理解が可能になる前の 4 歳以下の子どもは、信念を含めた嘘の理解は全くできないのだろうか。

Siegal & Peterson (1996) は、3 歳から 5 歳の子どもを対象とし、嘘と単なる誤りを区別できるかどうかを検討した。参加者には、2 匹のくま（テディーベア）を提示した。1 匹目のくまは、パンにカビが生えているのを見た。もう一匹のくまはパンにカビが生えていることを知らなかった。くまは 2 匹とも、友達にそのパンは食べても大丈夫だと知らせた。参加者は、2 匹のくまが嘘をついているか、単に間違っているだけなのか（嘘をついているか、嘘をついていないか）を判断するよう求められた。嘘を正しく同定できたのは、3 歳児で 67%、4 歳児で 73%、5 歳児では 78% であった。また、単なる誤りを“嘘ではない”と同定できたのは、3 歳児で 59%、4 歳児で 68%、5 歳児で 71% であった。Siegal & Peterson (1996) では、3 歳児であっても 60% に近い割合で、話者の信念を考慮し、嘘と単なる誤りを区別できたといえる（類似した結果に Siegal & Peterson, 1998）。これは、

回答に“嘘ではない”という選択肢を含めたことと、彼らを用いた課題は、適応の上で非常に優先度の高い“食べ物”に関する場面（例、汚れた食べ物を“食べても大丈夫”という）であったためと思われる。その一方で、食べ物に関する事柄以外の場面では“信念”、“意図”を含む嘘の正確な同定は困難であることが示されている（Gilli, Marchetti, Siegal, & Peterson, 2001; Seigal & Peterson, 1996; 1998）。年齢の低い子どもであっても、生活に密着した題材に基づき、具体性が高い内容の課題を用いた場合には、信念を考慮した判断が可能になると考えられる。

以上のように、信念に関する情報を明確に示すような手続きを用いた先行研究の中には、3歳児であっても信念に基づいて嘘と間違いを区別できるとしている研究もある。しかし、それは進化論的にも重要だとされる食べ物に関する場面でのみでみられ、それ以外の場面では“信念”、“意図”を含む嘘の正確な同定は困難であった。その後、4から6歳頃までは“事実性”が嘘の理解においては重要視され、9歳、10歳頃には“信念”を重視した大人の判断に近づくことが示されている（類似した結果に Wimmer *et al.*, 1984; 1985 など）。このように、信念に基づく判断として、嘘と単なる間違いの弁別は一次的信念の理解があれば、6歳頃には可能になる。しかし、例えば“冗談”などのその他の虚偽の発話と嘘の弁別は、二次的信念の理解がなければ難しい可能性が考えられる。

例えば、林（2002）は、物語を用いて嘘と冗談を区別させる課題を行った。物語では、主人公が部屋を片付けるよう母親に言われる。嘘の物語では、部屋が片付いていないことを知らない母親に対して“部屋を片付けた”といい、冗談の物語では、主人公が母親に片付いていない部屋を見せながら“部屋を片付けた”という。参加者は、どちらの物語が冗談を言っている物語であるかを判断した。さらに、主人公がお母さんに部屋が片付いていないことを知ってほしいか、知ってほしくないかを判断する、“二次的意図”について検討する質問も行った。その結果、9歳ごろには嘘と冗談をほぼ区別できることが示された。また、二次的意図に関する質問に正答した参加者の多くが冗談と嘘を区別できたのに対して、二次的意図を理解できなかった参加者は嘘と冗談を区別することができなかった。林

(2002) は、嘘と冗談を区別できるようになるためには、単に話者の心的状態を理解できるだけでは不十分であり、二次的意図や二次的信念の理解が必要であるとしている（類似した結果に Sullivan, Winner, & Hopefield, 1995）。

ここまで様々な課題を用いた研究の結果について概観してきた。これらの結果から、嘘の概念理解の発達を検討する上で、どのような課題を用いるのかということは重要な問題であることがわかる。例えば、Strichartz & Burton (1990) や林 (2002) 等で用いられた課題は、一次的信念の理解ができない年少の子どもには適さないといえる。一方で、Peterson *et al.* (1983) などに代表される同定課題や善悪判断課題は、7歳以降の子どもには簡単すぎて、その子どもの持つ嘘の概念理解を適切に測定できない可能性が高い。同様に、Lewis *et al.* (1989) などが用いたおもちゃ課題（行動課題）も、おもちゃを見ることを抑制できるような年齢の高い子どもには適さない。また、嘘の概念理解には“事実”、“善悪（道徳）”、“信念”、“意図”、など、様々な要因が関連しており、年少児（4歳頃）では“事実”や“善悪”が、そして、年齢が上がるにつれ“信念”や“意図”が考慮されるといったように、各発達段階でその理解に影響する要因が異なる可能性が高い。それに加えて、“冗談”などのように、社会的な機能を果たすような虚偽の発話は、二次的信念の理解が必要となる（林, 2002 ; Sullivan *et al.* 1995）。特に、これらの虚偽の発話と嘘の弁別では、“事実性”や“信念”の理解などの認知的な要因に加え、その発話がなされた“文脈／場面”の理解などといった社会的な要因が重要となる。この点を踏まえて、次に、嘘の概念理解における、“文脈／場面”などの社会的な要因の影響について示す。

1-3. 嘘の概念理解における社会的要因

ここまでに取り上げてきた研究では、様々な課題を用いて嘘の認知的な側面（事実性、信念など）について検討がなされてきた。しかし、これらの研究では、嘘の社会的・文化的な側面がほとんど考慮されていない。“嘘”には本来、他者との関係性の維持や利他的な行為を目的とした社会的な機能もあると考えられる。

嘘の定義に関する初期の理論研究では、嘘は命題的アプローチ（propositional approach）により説明されてきた。このアプローチでは、1) 話者が聞き手に対して真面目な発話を行う、2) 話者は発話を事実であるとは思っていない、3) 話者は聞き手がその発話を事実であると信じることを意図している、これらの3点全てを満たした場合にのみ発話が“嘘”と判断される（Chisholm & Feehan, 1977）。この命題的アプローチは、3項目全てに該当するかどうかで、嘘か否かが判断されるため、しばしば、“チェックリスト的”な理論であると説明される。さらに、発話が“嘘か、否か”という二分法の判断がなされる点が特徴としてあげられる。嘘の概念理解の研究の多くは、この命題的アプローチに基づいていると言われている（Lee & Ross, 1997）。命題的アプローチの研究には、Peterson *et al.* (1983) や Piaget (1932/1997) などがあげられる（Lee & Ross, 1997）。

一方、命題的アプローチのような二分法の判断では、嘘を充分説明できないとして、典型性アプローチ（prototypical approach）と呼ばれる考え方が出てきた。典型性アプローチでは、1) 発話の内容が事実と異なる、2) 話者が発話を虚偽であると信じている、3) 話者に聞き手を騙す意図がある、これらの3つの要素が揃えば揃うほど、“嘘”と判断されやすくなると考える。命題的アプローチでは、嘘か嘘以外かの二者択一的な判断であったのに対して、典型性アプローチでは、“どの程度嘘であるか”という判断がなされる。その際に、1) “事実 (factual falsity)”, 2) “信念 (belief)”, 3) “意図性 (intent to deceive)” の3つの項目はそれぞれ重みづけが異なり、“信念”, “意図性”, “事実”の順で重要視されると言われている（Coleman & Kay, 1981）。典型性アプローチの研究には、Strichartz & Burton (1990) によるものがあげられる（Lee & Ross, 1997）。

しかし、これら2つの理論では、嘘の社会的・文化的な側面が全く考慮されていないとして、Sweetser (1987) は、民俗学モデル (folkloristic model) を提唱した。このモデルでは、嘘の理解は、文化的規範や道徳的な評価などの影響を大きく受けるとされる。Sweetser (1987) は、嘘は命題的な現象であるが、発話の言語的な要素の有無（例、信念、事実、意図など）によってのみ決まるのではなく、どのような“文脈/場面”でその発話

が行われたかによって決まると考えている (Lee, Cameron, Xu, Fu, & Board, 1997 ; Lee & Ross, 1997)。

このモデルでは、発話がなされる状況が情報伝達 (informational) 場面と礼儀 (politeness) 場面の2種類に分けられる。情報伝達場面では、情報を正しく伝達することが主要な目的となるため、情報伝達ルール (informational rule ; Grice, 1975) が優先され、事実と異なる情報を伝達した場合に発話は嘘と判断される。一方の礼儀場面では、関係性の維持が主要な目的となるため、ポライトネス・ルール (politeness rule) が情報伝達ルールよりも優先され、事実と異なる発話を行ったとしても嘘とは判断されないような場合が生じる。さらに、それぞれの場面で動機が“助ける (help)”ことを目的としているか、“傷つける (harm)”ことを目的としているかに分けられる。動機が“助ける”ことを目的としている場合は、“傷つける”ことを目的としている場合に比べ、事実と異なる発話であっても嘘と判断される割合が低いと考えられている。このように、Sweetser (1987) の理論では、単に発話が事実と反するか否か、信念と反するか否かだけではなく、嘘の判断には、語用論、文脈/場面、対人関係などの社会的な要因が大きく影響すると考えられている。

Lee & Ross (1997) は、12, 16, 19歳の参加者を対象とし、Sweetser (1987) のモデルを検証している。Lee & Ross (1997) は、1) 情報伝達場面で傷つける事を目的とする (情報/傷つける), 2) 礼儀場面で傷つける事を目的とする (礼儀/傷つける), 3) 情報伝達場面で助ける事を目的とする (情報/助ける), そして、4) 礼儀場面で助ける事を目的とする (礼儀/助ける) 4種類の場面を設定した。4種類の発話は、1) 友人のひどい髪型に対して、友人を傷つけないために“素敵な髪型だね”と言う (礼儀/傷つける), 2) ダイエットに成功した友人を羨ましく思い、傷つける目的で“太っているね”という (礼儀/助ける), 3) 患者が副作用について知ると治療を拒否する可能性があると考え、医師が患者に“副作用はない”と伝える (情報/助ける), そして、4) 友人に40ドルする教科書の値段を聞かれ、友人が教科書を買えなくするために“30ドル”と伝える (情報/傷

つける)であった。各場面での主人公の発話を、“嘘である”と判断することにどの程度同意するかを7件法で参加者に尋ねた。その結果、4種類の場面全てで発話が“嘘”と判断された。しかし、礼儀場面は、情報伝達場面に比べて“嘘”と判断される程度が低いことが示された。同時に、動機についても、“助ける”場合は、“傷つける”場合に比べ、“嘘”と判断される程度が低かった。また、12歳の参加者は、他の参加者に比べ、発話を“嘘”と判断する程度が低いことも示された。

これらの結果は、Sweetser (1987) のモデルを支持するものであった。“事実性”は発話が嘘であるか、否かの判断に影響する一方で、社会的、文化的な要因は、その発話が“どの程度嘘であるか”という判断に影響することが示された (Lee & Ross, 1997)。これにより、典型性アプローチでみられる Strichartz & Burton (1990) の用いた課題のように、嘘は“発話”、“事実”、“信念”の3つの要因の組み合わせで説明できるものではなく、そこに“文脈/場面”という社会的な要因が関連する事が示された。

“文脈/場面”に留まらず、社会的な要因には、“発話内容”が聞き手に与える印象なども含まれる。佐藤 (1996) は、大学生を対象に、“パーティーに出席しようと思っていたある人が‘パーティーに欠席する’と行って出席した”場合と、“パーティーに欠席しようと思っていたある人が‘パーティーに出席する’と行って欠席した”場合の、構造としてはどちらも事実と信念の両方に反している発話が、同じように判断されるかどうかについて検討を行った。その結果、“欠席する”と行って出席した場合と“出席する”と言って欠席した場合について、前者を“嘘”と判断したのは68%であったのに対し、後者では89%であった。もしも、“事実”や“信念”などの認知的な要因のみに基づきで嘘の概念的理解がなされるのであれば、佐藤 (1996) で用いたこれらの2つの発話は同じように判断されるはずである。一方で、Sweetser (1987) のモデルの情報伝達場面でこれらの2つの発話がなされたならば、どちらも正しい情報が伝わっていない点では同じであるため、同じように“嘘”と判断されなければならない。一方、礼儀場面でこの2つの発話を捉えたならば、“欠席する”と行って出席した場合は、聞き手を“驚かせてやろう”というサブ

ライズの要素が含まれると考えれば、動機は“助ける”ことを目的としていると分類され、“嘘”とは判断されにくい可能性がある。一方で、“出席する”と言って欠席した場合に、“相手をはっきりさせてやろう”という要素がある場合は、動機が“傷つける”ことを目的としていると分類され、“嘘”と判断されやすくなる可能性がある。このように、“発話内容”は、話者の動機や意図性を推測する上で重要な情報となる。その点では、“文脈／場面”に比べ、“発話内容”に基づいた嘘の理解は、年齢の低い子どもには難しい可能性もある。いずれにせよ、“事実”や“信念”という要素で考えれば、同じ構造を持つ発話であっても、“文脈／場面”や、“発話内容”によっては、嘘と判断される割合が異なる。

これまでに示したように、“嘘”という抽象的な概念の理解がどのように発達するのかという問題は複雑であり、用いられる課題や、関連する要因（事実性、信念、文脈／場面、発話内容など）など、様々なものの影響を受ける。また、先行研究においては、課題間、要因間の関連性や、嘘の社会的な側面についての検討はまだまだ不十分である。これらの問題点を踏まえ、次に本研究の目的と本論文の構成について示す。

第2節 本研究の目的と本論文の構成

第1節では、嘘の概念理解研究で用いられる課題の特性と発達の問題について取り上げた。さらに、これまでの研究では焦点が当てられてこなかった、嘘の概念理解の社会的な側面についても先行研究を概観し、問題点を示した。第1節で示した内容を踏まえ、以下に本稿の目的と構成を示す (Figure 1-1)。

本研究では、主に3つのことを目的とする。1つ目に、心の理論を獲得する境目の時期となる幼児期の子どもを対象とし、初期の嘘の概念理解の特徴について様々な課題を用いて探索的な検討を行う。加えて、検討に用いた課題間の関連性についても明らかにする。その中でも、幼児期において、他者の信念を考慮した嘘の理解がいつ頃から可能になるのかという点、また、嘘をつく行為と概念知識との間の関連性に着目する。この1つ目の目的については、本論文の第2章で取り上げる。

2つ目に、心の理論獲得後の児童期以降の嘘の概念理解において、認知的な要因に加え、“文脈/場面 (どのような場面でその発話がなされたか)”といった社会的な要因との関連について検討を行う。嘘の理解に関わる、“事実性”、“信念”などの認知的な要因に加えて、“文脈/場面”といった社会的な要因が、児童期以降のどの時期から重視され、考慮されるようになるのかについて明らかにする。本論文の第3章では、児童を対象とし、典型的な嘘の場面に加えて、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”などの場面を設定し、それぞれの場面の虚偽の発話を子どもがどのように判断するのかを検討する。先行研究では、その他の虚偽の発話として“冗談”が取り上げられてきたが、“冗談”以外にも、“お世辞”や“謙遜”、“利他的な目的での嘘”など、典型的な嘘とは異なる虚偽の発話の弁別がいつごろから可能になるのかを検討する。

3つ目に、第4章では、これらの“事実性”、“信念”、“文脈/場面”に加えて、“発話内容”を含む嘘の理解について検討する。佐藤 (1996) にならい、事実や信念に反するという点で、同じ構造をもつにも関わらず、発話の内容によって、嘘と判断される割合に違い

がみられるかどうかを調べる。これらの要因は、より高度な推論、言語理解を要すると考え、中学生（12歳）以降の参加者を対象とし、認知的な要因と、社会的な要因が嘘の判断の発達過程でどのように関連し、発達のどの時期から大人と類似した嘘の理解が可能になるのかについて調べる。最後に、第5章の総合考察では、第2章、3章、4章の結果をまとめるとともに、本研究の意義、限界、そして、今後の課題について考察を行う。

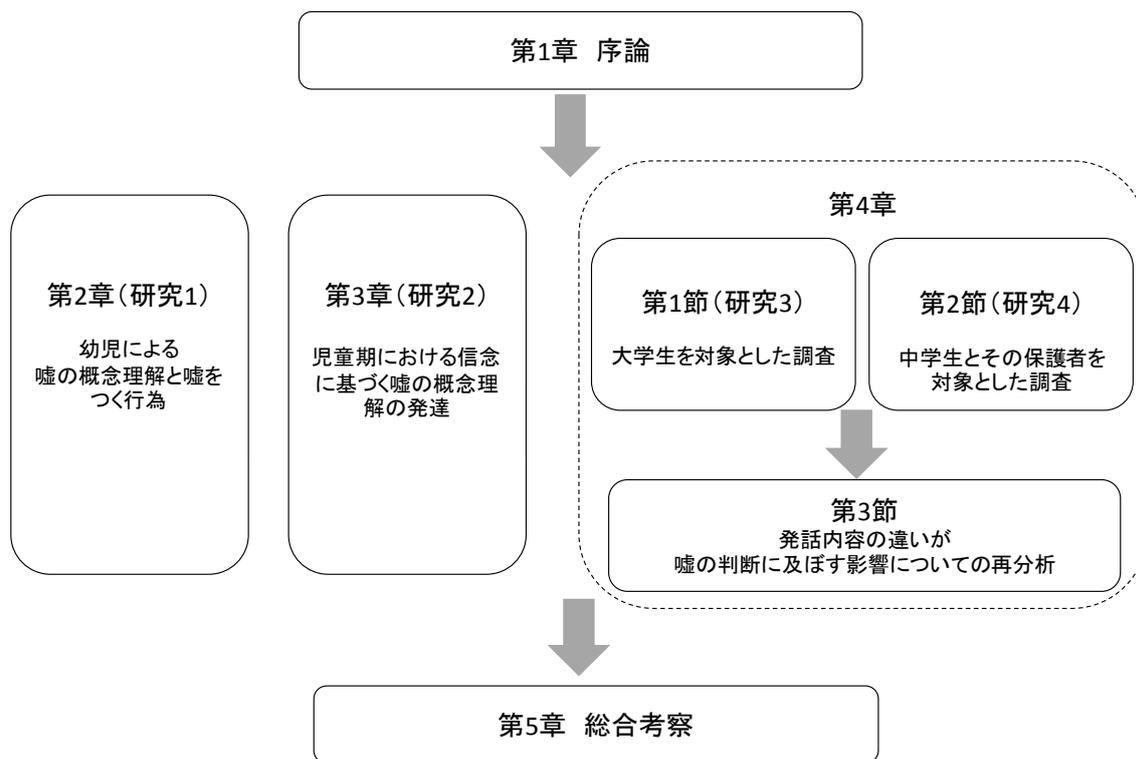


Figure 1-1 本論文の構成

第2章 幼児による嘘の概念理解と嘘をつく行為

第1節 目的

本章の目的は、心の理論を獲得する境目の時期となる幼児期の子どもを対象とし、初期の嘘の概念理解の特徴について調べることである。第1章でも示したように、子どもは、4歳頃には発話が事実と一致するか否かの“事実性”に基づいて嘘と本当の同定、同異判断を行うことができ（Bussey, 1992; Lyon & Saywitz, 1999），“嘘は悪いことである”という善悪を基準とした理解も可能になる（Bussey, 1992; Peterson *et al.* 1983）。さらに、自分の行った違反行為を隠すための嘘をつくことができる（杉村ら 1998）。これに対し、嘘や本当の定義や違いの説明、話者や聞き手の信念や意図を考慮した嘘の理解は、年齢の低い子どもにとっては困難である（Pipe & Wilson, 1994; Lyon & Saywitz, 1999）。これまで先行研究で用いられてきた嘘の理解について検討するための課題を整理すると、①同定課題、②弁別課題、③定義課題は、嘘や本当に関する概念的知識を調べる課題として位置づけられる。一方、④善悪判断は価値に関わる判断を反映する課題、⑤嘘と単なる間違いを弁別する課題は、心の状態を含む嘘の理解を反映する課題として捉えられるだろう。しかし、これらの課題が相互にどのように関連しているのかについては、十分な知見が示されていない。特に、発達的な問題によってその能力が制限される幼児を対象として、“嘘”という抽象的な概念について検討する際には、用いる課題が対象者の年齢に適したものであるのか十分に考慮する必要がある。この点から、各課題の特性、難易度、そして、相互の関連性について示すことは重要な問題であるといえる。

第2章では、第1章で取り上げた、①同定課題、②弁別課題、③定義課題、④善悪判断課題、⑤嘘と間違いを弁別する課題、そして、⑥行動課題の6つの課題を用いて、各側面から初期の嘘と本当の理解を調べることを第一の目的とする。第二に、①から⑤の概念知識を問う課題に対する反応が、⑥の嘘をつく行動を測定する課題とどのように関わってい

るかを明らかにする。言語能力に依存しない行動課題では、幼児が相手を騙すことを目的とした意図的な嘘がつける場合には、例え言葉で説明できなくても、大人に近いレベルで嘘を理解しているということがいえるだろう。また、行動課題では、倫理的な問題に配慮し、パペットが虫歯にならないように意図的に嘘をつく（箱の中にお菓子があるという事実を偽る）という課題を用い、子どもが実際に嘘をつけるかを検討する。ここでの嘘は、単なる反事実でもなく、ソースモニタリングの失敗に由来する現実の誤認識（例えば上原，1998）でもない。相手の心の状態を変化させ、その後の行動までも変化させるような嘘が、嘘と本当の様々なレベルにおける理解のあり方とどのように関わっているかを問題にする。

さらに、第2章では以下の点に留意して研究を進める。第一に、各課題で“嘘”についてのみ検討するのではなく、“本当”についても同様に項目を設け検討を行う。その際、嘘と本当は理解の発達の順序が異なる可能性があるという指摘（Lyon & Saywitz, 1999）を受け、嘘の理解と本当の理解を区別して検討する。

第二に、中立的な課題を用いて嘘と本当の理解を検討することである。Bussey（1992）をはじめとする多くの研究が、ルールを破る、物を壊すといった“悪事”を題材とした刺激を用いている。このような課題で善悪判断を求めた場合、悪事自体がいけないのか嘘をつくことがいけないのか、判断が何を反映しているのか確定できない可能性がある（Aldridge & Wood, 1998/2004）。そこで第2章ではできるだけ中立的な題材を用いることとした。

第2節 方法

2-1. 参加者

実験参加者は、関西の幼稚園園児、男児36名、女児44名の計80名であった。そのうち、参加者の要望により7名が途中で実験を中断した（年少児4名、年中児2名、年長児1名）。そのため、分析対象としたのは、年少児20名（男児6名、女児14名； $M=4$ 歳2か月、

$R = 3$ 歳7か月～4歳8か月), 年中児28名(男児15, 女児13; $M = 5$ 歳1か月, $R = 4$ 歳6か月～5歳5か月), 年長児25名(男児13, 女児12; $M = 6$ 歳1か月, $R = 5$ 歳6か月～6歳6か月)の計73名であった。事前に幼稚園を通じて保護者より参加の承諾を得た(付録1)。

2-2. 材料

面接の様子を録画, 録音するためのビデオとレコーダーを用いた。また, パペット人形(幅約20cm, 高さ約35cm), および刺激材料としてびっくり扉, 紙芝居, カード, 小箱, おもちやのアメを用いた。

2-3. 手続き

実験は個別形式で行われた。実験者と参加者はテーブルを挟んで向かい合う形で椅子に座り, ビデオを参加者の後ろ姿が映るよう, 実験者に向けて設置した。これは, 顔は映らないようにしてほしいとの依頼が幼稚園側からあったためである。まず参加者に, 名前, 年齢, 誕生日を可能な限り回答してもらい, その後, 実験者が自己紹介を行って, パペットのヤン君を紹介した(付録2, 3)。参加者には, 面接が苦痛に感じられるようであれば中断してもよいこと, 実験の状況をビデオで録画することを伝えた。次に予備課題として, 本課題で提示する動物を含む動物の絵を示し, 何が描かれているかを尋ね, これらの動物の名称を知っていることを確認した(付録4)。

本課題では1) 同定課題, 2) 弁別課題, 3) 定義・善悪判断課題(同じ刺激を用いるため, 定義と善悪に関わる課題を一連の課題とする), 4) 嘘の基準を明確化する課題, 5) 行動課題を, この順で行った。1)～3)はLyon & Saywitz (1999)を, 4)は誤信念課題を元に, Wimmer & Perner (1983)や嘘と冗談について検討している林(2002)を参考に作成した。1)～3)のうち同定, 弁別, 定義の3課題は, 嘘や本当に関する概念的知識を反映すると考えられる。3)の善悪判断課題は価値に基づく判断を反映すると考えら

れる。ここでは、善悪判断だけでなく、嘘をつく／本当のことを言うとうなるか、大人はどう思うかの推論や判断も含めた。4) は信念の理解と関わる課題、5) は意図的な嘘がつけるかどうかを調べる課題であった。これらの課題の所要時間は30分程度であった。以下、各課題の概要を述べる。

1) 同定課題 (A)

同定課題では、ある発話が嘘か本当かを同定できるかどうかを検討する。ここでは厚紙で作ったびっくり扉を用いる(付録5)。扉の中には動物のイラスト(例:犬)が描かれている。まずヤン君がびっくり扉の中を覗き、中に何が描かれているかを告げる(例:“ライオン”)。その後、参加者が扉の中を調べ、ヤン君が本当のことを言っているか嘘をついているかの二者択一の判断を求めた。その際“ヤン君は時々本当のことを言ったり、嘘をついたりするので気をつけてね”と教示した。課題は、人形が嘘をつく“嘘項目”2、本当のことを話す“本当項目”2の計4項目であった。

2) 弁別課題 (B, C)

弁別課題にはB.嘘と本当の異同判断、C.嘘と本当の違いの説明が含まれる。練習では、参加者に2つのびっくり扉に何が描かれているか尋ね、両者が同じか否かを尋ねる(例:一方にニワトリ、他方にネコが描かれている)(付録6)。そして“違う”と反応した場合には、どう違うのかを説明するよう求めた。B.嘘と本当の異同判断では、子どもa、子どもbが描かれているびっくり扉を示し、“この子(a)は嘘をついていて、この子(b)は本当のことを話しているのだけれど、嘘と本当は同じ?それとも違う?”と尋ねる。参加者が“違う”と回答した場合、C.嘘と本当の違いの説明を求めた。a,bはともに同じ絵を用いた。これは、異なる絵を用いると、嘘と本当の違いを答えているのか絵の違いを答えているのかが判別できないからである。

3) 定義・善悪判断課題 (D, E, F, G)

定義・善悪判断課題では、嘘と本当のそれぞれについて D. 定義, E. 善悪判断, F. 結果の予測 (嘘をつく／本当のことを言うとうなるのか), G. 大人の反応 (嘘をつく／本当のことを言うとき大人は怒るか喜ぶか) を尋ねた。

D. 定義では嘘, 本当の定義ができるかどうかを検討する。母親, 先生, または警察官が描かれたカードを示し, “ヤン君のお母さん／先生／おまわりさんは, ヤン君が公園でお友達と何をしていたか知りたがっているの。そしてヤン君は嘘をついたの／本当のことを言ったの” と告げ, “嘘／本当ってどういうこと?” と質問した (付録7)。E. 善悪判断では嘘／本当のことを言うのはよいことか悪いことかを二者択一で尋ね, なぜそう思うのか説明を求める。F. 結果の予測では嘘／本当のことを言ったらどうなるか尋ね, G. 大人の反応では “お母さん／先生／警察の人は, ヤン君が嘘／本当のことを言ったと知ったら怒るかな, それとも喜ぶかな” と質問した。D. 定義は A.～C.と同様, 概念的な知識を反映するものと考えられる。E.～G.は善悪に関わる判断・予測を反映するものとして捉えることができるだろう。なお, お母さん, 先生, 警察は Lyon ら (1999) の課題にならい, 権威者を代表するものとして用い, どの人物を用いるか, また, 嘘と本当のどちらから質問するかについてはカウンターバランスをとった。

4) 嘘の基準を明確化する課題 (H. 真実未知条件, I. 真実既知条件)

この課題は, 特定の発話が “嘘” といえるかどうか (単なる誤りである可能性もあるかどうか) を尋ねる課題である。事実と反する発話であっても, それが話者の信念に反しているか否かにより, “嘘” と判断される場合と “嘘とはいえない” と判断される場合があるかどうかを調べる。

H. 真実未知条件では, 誤信念課題により登場人物の信念を推定させ, 登場人物の発話が嘘といえるかどうかを判断させる。まず, 次のような物語を紙芝居で提示する (付録8)。花子さんがぬいぐるみを丸い箱の中に入れ, 立ち去る。その後ケンちゃんがぬいぐるみを

四角い箱に移動する。その際、①“戻ってきた花子さんは、丸と四角、どちらの箱にぬいぐるみが入っていると思っていますか？”，②“実際にはどちらの箱に今ぬいぐるみが入っていますか？”と尋ねる。ここまでは従来の誤信念課題と同じである。花子さんはケンちゃんがぬいぐるみを移動したことを知らないので、①では“丸い箱”，②では“四角い箱”が正答である。このようにして花子さんの信念について確認した後、③“花子さんがもし‘ぬいぐるみは丸い箱に入っている’と言ったら、花子さんは嘘をついていることになりますか？”と尋ねる。花子さんの信念に基づけば、“嘘ではない”が正答となる。

I. 真実既知条件は林（2002）や Siegal & Peterson（1996, 1998）にならい、花子さんの信念を変更させたものである。手続きは H. 真実未知条件と同様だが、ケンちゃんがぬいぐるみを四角い箱に移動するところを花子さんが目撃する。この課題では①“戻ってきた花子さんは、丸と四角、どちらの箱にぬいぐるみが入っていると思っていますか？”，②“実際にはどちらの箱に今ぬいぐるみが入っていますか？”の両方で“四角い箱”が正答となる。続いて③“花子さんがもし‘丸い箱に入っている’と言ったら、花子さんは嘘をついていることになりますか？”と尋ねる。ここでは“嘘をついている”が正答となる。

I. 真実既知条件では、参加者は花子さんと同じ心の状態に置かれるので、判断が容易であると予想される（林，2002）。また、I. 真実既知条件では反事実の発話は“嘘”となるので、事実か反事実かだけで発話が嘘か否かを判断することができる。H. 真実未知条件は“信念を考慮した嘘の判断”を、I. 真実既知条件は“事実・反事実に基づく嘘の判断”を反映するものといえる。

5) 行動課題 (J, K)

行動課題における J. 行動, K. 嘘の内容は意図的な嘘がつけるかどうかを調べる課題である。参加者に“大事な話があるのでヤン君にはしばらく向こうに行ってもらおうね”と告げ、ヤン君が退場した後、アメが1個ずつ入っている2つの小箱を提示した。そして、“ヤン君が戻ってきて〇〇ちゃん（参加者）に箱の中に何が入っているのか尋ねたら、一つの

箱の中身は本当のことを教えてあげてもよいけれど、もう一つの箱の中身は嘘をついてね。ヤン君が2つともアメを食べてしまったら虫菌になってしまうかもしれないからね。”と嘘をつくよう依頼した。参加者が拒んだ場合には、嘘をつくことを強要しなかった。その後ヤン君が戻ってきて、参加者に箱の中身について尋ねた。

2-4. 回答の分類とデータ分析

記録した音声および映像から、参加者ごとに各課題に対する反応の逐語録を作成した。回答の分類が必要な課題については、分類基準を Table 2-1 に示した。分類が必要な課題では、全てのデータに対して、2人の評定者が独立に分類を行い、分類の信頼性を算出した。分類のカテゴリと信頼性については、各課題の結果で示す。

第3節 結果

以下、各課題の結果を述べ、次に、各課題の成績と行動課題の成績との関連を調べる。表示された残差は全て調整されたものである。

3-1. 同定課題 (A)

同定課題は、ヤン君の発話を正しく“嘘”あるいは“本当”と同定できるか否かを調べる課題であった。Table 2-2 に同定課題における各年齢群の平均正答数を示す。本当項目2項目、嘘項目2項目について、年中、年長児のほとんどが嘘、本当の両項目に正答していることが平均値からも分かる。そこで年中児と年長児を同質のものと考え、合わせて分析を行った。嘘と本当の各2項目について両方とも正答した場合と、1つでも不正解であった場合の度数を Table 2-3 に示す。年齢の主効果を検討するため、本当項目2項目、嘘項目2項目の全てに正答した場合と、1つでも不正解であった場合について年齢の効果を検討した。

第2章 幼児による嘘の概念理解と嘘をつく行為

Table 2-1 各課題のカテゴリの分類表

課題	カテゴリー	例
C. 弁別課題 D. 定義課題	レベル3	“事実/反事実”への言及 子:嘘って言うのが、本当に人がやってんのに後で人がきた時、やってない、やってないって言うのが嘘。 面:うーん。本当は何やった？ 子:本当は僕そいうことしたよって言うこと。(年中 男 5)
	レベル2	“善悪”への言及 子:嘘言ったらあかんから、閻魔大王さんに舌抜かれるから。 面:おおー、そっかあ。本当は？本当は？ 子:本当はね、いいこと言ったら閻魔大王さんに舌抜かれへん。(年少 男 4歳)
	レベル1	“嘘は嘘”“本当は嘘じゃないこと” など言葉の繰り返し 子:嘘は、あの、本当じゃないってこと。 面:ああ、ほんまあ。嘘は本当じゃないってこと？ 子:うん 面:本当は？ 子:本当は、嘘じゃない。(年長 女 6)
	レベル0	不適切な反応・DK 子:頭とか、お口とか、お目目とか、お耳 面:頭とか、お口とか、お目目とか、お耳？ 子:(うなづく) 面:ほかに何か、絵に描いてなくてもいいよ。なんかある？ 子:(首をかしげる) (年少 女 3)
F. 結果の予測	社会的な評価	“友達ができなくなる”など社会的な 評価についての言及 (嘘つく)とお友達がなくなる。(年中 男 5) 本当の事話したら、友達が教えてくれてありがとって。(年長 女 6歳)
	権威者による評価	“母親/先生/神”など権威者による 評価についての言及 (嘘つく)先生とかに怒られる。おうちでついたらお母さんに怒られる。(年中 男 5) 本当の事話たらって言ったら、怒られへん。(年中 女 5)
	善悪への言及	善悪についての言及 (嘘つく)悪いことしている。(年少 女 4) (本当のこと言うと)いいことになる。(年中 女 5)
	その他	不適切な反応・DK 嘘ついたら手が半分について、手が壊れる。(年少 男 4) (本当のこと言うと)迷子になる。(年少 男 3)
	K. 嘘の内容	現実的な嘘
不適切な嘘		虫歯の原因になり得る食べ物 チョコ・キャラメル・ごはんなど
非現実的な嘘		提示した箱に入らない非現実的な 事物 車・キリンなど
沈黙・DK		1つの箱には「飴」と回答し、もう一方に対して沈黙する、もしくは「わからない」と回答

注. 例の()内には学年, 性別, 年齢を示す。

Table 2-2 各課題における回答の度数

課題			年少	年中	年長	課題間の比較	
1 同定	A. 同定課題の平均正答数	嘘項目	1.30 (0.87)	2.00 (0.00)	2.00 (0.00)	—	
		本当項目	1.60 (0.60)	1.96 (0.19)	1.96 (0.20)	—	
	()内はSD						
2 弁別	B. 嘘と本当の異同判断	正答	実測値	15 (.75)	23 (.82)	25 (1.00)	—
			残差	-1.73	-0.82	2.46	
		誤答	実測値	5 (.25)	5 (.18)	0 (.00)	×
			残差	1.73	0.82	-2.46 *	
		<i>n</i>	20	28	25	—	
	C. 嘘と本当の違いの説明	レベル3		1 (.07)	3 (.13)	3 (.12)	○
		レベル2		2 (.13)	2 (.09)	5 (.20)	○
		レベル1		0 (.00)	0 (.00)	3 (.12)	○
		レベル0		12 (.80)	18 (.78)	14 (.56)	×
			<i>n</i>	15	23	25	

注1. 同定課題以外の課題における()の値は反応の割合(%)である。

注2. 「課題間の比較」では、○=正解・×=不正解と分類しFigure 1, 2の分析を行った。—は重複部分。

第2章 幼児による嘘の概念理解と嘘をつく行為

Table 2-2 各課題における回答の度数(つづき)

課題			年少	年中	年長	課題間の比較	
D. 定義	嘘	レベル3	1 (.05)	6 (.23)	9 (.38)	○	
		レベル2	3 (.15)	2 (.08)	4 (.17)	○	
		レベル1	2 (.10)	3 (.12)	1 (.04)	○	
		レベル0	14 (.70)	15 (.75)	10 (.42)	×	
	本当	レベル3	2 (.10)	6 (.23)	4 (.17)	○	
		レベル2	1 (.05)	1 (.04)	1 (.04)	○	
		レベル1	2 (.10)	4 (.15)	7 (.29)	○	
		レベル0	15 (.75)	15 (.58)	12 (.50)	×	
E. 善悪判断	よい	実測値	3 (.15)	2 (.08)	0 (.00)	×	
		残差	1.61	0.14	-1.68		
	嘘 悪い	実測値	14 (.70)	24 (.92)	24 (1.00)	○	
		残差	-.309 **	0.76	2.17 *		
	その他	実測値	3 (.15)	0 (.00)	0 (.00)	×	
		残差	2.80 **	-1.36	-1.28		
	3 定義・善悪判断	よい	実測値	13 (.65)	23 (.88)	24 (1.00)	○
			残差	-3.13 **	0.50	2.47 *	
		本当 悪い	実測値	6 (.30)	3 (.12)	0 (.00)	×
			残差	2.71 **	-0.25	-2.32 *	
		その他	実測値	1 (.05)	0 (.00)	0 (.00)	×
			残差	1.59	-0.77	-0.73	
F. 結果の予測	社会的な評価	実測値	0 (.00)	1 (.04)	1 (.04)	○	
		残差	-0.91	0.38	0.46		
	嘘	権威者による評価	実測値	5 (.25)	18 (.69)	20 (.83)	○
		残差	-3.96 **	1.03	2.72 **		
	善悪への言及	実測値	2 (.10)	1 (.04)	0 (.00)	○	
		残差	1.49	-0.14	-1.28		
	その他	実測値	13 (.65)	6 (.23)	3 (.13)	×	
		残差	3.83 **	-1.16	-2.46 **		
	G. 大人の反応	本当	社会的な評価	0 (.00)	1 (.04)	2 (.08)	○
			権威者による評価	3 (.15)	9 (.35)	9 (.38)	
		その他	善悪への言及	3 (.15)	5 (.19)	0 (.00)	○
			その他	14 (.70)	11 (.42)	13 (.54)	
嘘 怒る	喜ぶ	実測値	4 (.20)	1 (.04)	0 (.00)	×	
	残差	2.64 **	-0.82	-1.68			
その他	実測値	14 (.70)	24 (.92)	23 (.96)	○		
	残差	-2.71 **	0.99	1.57			
G. 大人の反応	その他	実測値	2 (.10)	1 (.04)	1 (.04)	×	
		残差	0.98	-0.52	-0.4		
G. 大人の反応	本当 怒る	喜ぶ	実測値	10 (.50)	19 (.73)	21 (.88)	○
		残差	-2.51 *	0.23	2.15 *		
	その他	実測値	6 (.30)	3 (.12)	1 (.04)	×	
		残差	2.38 *	-0.5	-1.74		
	その他	実測値	4 (.20)	4 (.15)	2 (.08)	×	
		残差	0.86	0.2	-1.03		
		n	20	26	24		

注1. 同定課題以外の課題における()の値は反応の割合(%)である。

注2. 「課題間の比較」では、○=正解・×=不正解と分類しFigure 1, 2の分析を行った。-は重複部分。

Table 2-2 各課題における回答の度数(つづき2)

課題			年少	年中	年長	課題間の比較
H. 真実未知条件 (誤信念課題を含む)	全て正答	実測値	1 (.05)	3 (.16)	8 (.44)	○
		残差	-2.11 *	-0.74	2.89 **	
	①②だけ正答	実測値	2 (.11)	6 (.32)	5(.28)	×
		残差	-1.61	1.06	0.56	
	②のみ正答	実測値	15 (.79)	7 (.37)	3 (.17)	×
		残差				
	①のみ正答	実測値	0 (.00)	1 (.05)	0 (.00)	×
		残差				
	誤答 全て誤答	実測値	1 (.05)	2 (.11)	2 (.11)	×
		残差	3.11 **	-0.29	-2.86 **	
4 嘘の基準を明確化	全て正答	実測値	6 (.32)	12 (.63)	10 (.56)	○
		残差	-1.98 *	1.41	-0.57	
	①②だけ正答	実測値	7 (.37)	1 (.05)	6 (.33)	×
		残差	1.47	-2.44 *	0.99	
	②のみ正答	実測値	2 (.11)	0 (.00)	1 (.06)	×
		残差				
	①のみ正答	実測値	3 (.16)	6 (.32)	1 (.06)	×
		残差				
	誤答 全て誤答	実測値	1 (.05)	0 (.00)	0 (.00)	×
		残差	0.81	0.81	-1.65	
	<i>n</i>		19	19	18	

注1. 同定課題以外の課題における()の値は反応の割合(%)である。

注2. 「課題間の比較」では、○=正解・×=不正解と分類しFigure 1, 2の分析を行った。-は重複部分。

Table 2-2 各課題における回答の度数(つづき3)

課題		年少	年中	年長	課題間の比較	
J. 行動	正答	実測値	5 (.25)	24 (.86)	22 (.88)	—
		残差	- 5.13 **	2.33 *	2.44 *	
	誤答	実測値	15 (.75)	4 (.14)	3 (.12)	×
		残差	5.13 **	-2.33 *	- 2.44 *	
		<i>n</i>	20	28	25	
	5 行動	K. 嘘の内容	現実的な嘘	3 (.60)	13 (.54)	11 (.50)
不適切な嘘			1 (.20)	5 (.21)	9 (.41)	×
非現実的な嘘			0 (.00)	4 (.17)	1 (.05)	×
沈黙・DK			1 (.20)	2 (.08)	1 (.05)	×
<i>n</i>			5	24	22	

注1. 同定課題以外の課題における()の値は反応の割合(%)である。

注2. 「課題間の比較」では、○=正解・×=不正解と分類しFigure 1, 2の分析を行った。—は重複部分。

Table 2-3 各年齢群における嘘・真実項目に対する正答者数

項目		年齢群	
真実	嘘	年少	年中・年長
正答	正答	9 (.45)	51 (.96)
正答	誤答	4 (.20)	0 (.00)
誤答	正答	2 (.10)	2 (.04)
誤答	誤答	5 (.25)	0 (.00)
<i>N</i>		20	53

注1. ()の値は反応の割合(%)である。

2 (年齢群：年少，年中・年長) × 2 (反応：全ての項目に正答，1つでも不正解) の正確確率検定を行ったところ，分布に有意な偏りがみられた ($p = .01$)。“全ての項目に正解”した割合は年少児では 45%，年中・年長児では 96%であった (残差，年少：-5.10, $p < .01$ ；年中・年長：5.10, $p < .01$)。項目の主効果を検討するため，本当，嘘項目それぞれにおいて2項目とも正解した場合と，1つでも不正解であった場合について検討した。2 (項目の種類：本当，嘘) × 2 (反応：2つとも正答，1つでも不正解) のマクネマーの検定を行ったところ，分布に有意な偏りはみられなかった。

3-2. 弁別課題 (B, C)

弁別課題では，B. 嘘と本当の同異判断を求め，嘘と本当は“違う”とした場合には，C. 嘘と本当の違いの説明を求めた。

B. 嘘と本当の同異判断

ここでは“違う”を正答，“同じ”を誤答とした。Table 2-2 に弁別課題での各年齢群の反応度数を示す。度数 5 以下のセルが多いことから，度数の分析においては Fisher の正確確率を用いることとした¹。3 (年齢群：年少，年中，年長) × 2 (反応：正答，誤答) の正確確率検定を行ったところ，分布に有意な偏りがみられた ($p = .02$)。“嘘と本当は違う”とする正答の割合は，年長児では 100%と高いことが示された (残差，年長：2.46, $p < .05$)。

C. 嘘と本当の違いの説明

Lyon & Saywitz (1999) にならい，レベル 0 (不適切反応，“わからない (DK)”)，レベル 1 (“嘘は嘘” “嘘は本当じゃないこと” など言葉の繰り返し)，レベル 2 (“よい／悪い” などの善悪への言及)，レベル 3 (“事実／反事実” への言及など) に分類した (Table

¹結果の部分では度数 5 以下のセルが多く見られたため正確確率の検定を用いた。その結果，分布に有意な偏りがみられた場合は残差の検定を行った。しかし，度数が 5 以下のセルが多いため，残差の検定の結果の解釈，考察については慎重に行なうことを念頭におく。

2-1)。その反応のみでは意味が理解できない場合は、レベル0の“不適切な反応”のカテゴリに分類した。全てのデータに対して、2人の評定者が独立に分類を行い、分類の信頼性を算出した結果、その信頼性は高かった ($\kappa = .86$)。不一致の項目については協議により決定した(分類を行う場合、以下も同様の手続をとる)。Table 2-2に各年齢群の反応度数を示す。3(年齢群) × 4(レベル: 0, 1, 2, 3)の正確確率検定を行ったが、分布に有意な偏りはみられなかった ($p = .45$)。

3-3. 定義・善悪判断課題 (D, E, F, G)

ここでは嘘と本当の D. 定義, E. 善悪判断, F. 結果の予測(嘘/本当のことを言うかどうか), G. 大人の反応(大人は怒るか喜ぶか)を尋ねた。課題を中断した年中児2名, 録音に失敗した年長児1名を分析対象から除外した。

D. 定義

嘘, 本当の定義を C. 嘘と本当の違いの説明と同じ4つのレベルに分類した(Table 2-1)。定義の分類の信頼性は, 嘘 ($\kappa = .84$), 本当 ($\kappa = .80$) ともに高かった。Table 2-2に各年齢群の反応度数をレベルごとに示す。嘘と本当の各レベルの度数について 3(年齢群) × 4(レベル)の正確確率検定を行ったが, 嘘, 本当とも, 分布に有意な偏りはみられなかった(嘘: $p = .17$; 本当: $p = .57$)。

E. 善悪判断

善悪判断の結果を Table 2-2に示す。子どもの回答で, “よい”, “悪い”以外の回答を“その他”とした(例, わからない, えらい, 悪い事じゃないなど)。嘘, 本当のそれぞれについて 3(年齢群) × 3(反応: よい, 悪い, その他)の正確確率検定を行ったところ, 嘘, 本当ともに分布に有意な偏りがみられた(嘘: $p = .006$; 本当: $p = .004$)。嘘は“悪いこと”であるとする回答は年少児では 70%, 年中児では 92%, 年長児では 100%であった(残

差, 年少: $-3.09, p < .01$; 年長: $2.17, p < .05$)。また, “その他” の回答は, 年少児では 15% と他の年齢群に比べると高い (残差: $2.80, p < .01$)。また, 嘘を “よいこと” とする回答が, 年長児では 0% であった。嘘は “悪いこと” と理解している度合いは年長児では高く, 年少児は他の年齢群に比べて低いといえる。

一方, 本当のことを話すのは “よい” と回答した割合は, 年少児では 65%, 年中児では 88%, 年長児では 100% であった (残差, 年少: $-3.13, p < .01$; 年長: $2.47, p < .05$)。また, 本当のことを話すのは “悪い” と回答した割合は, 年少児では 30%, 年中児では 12%, 年長児では 0% であった (残差, 年少: $2.71, p < .01$; 年長: $-2.32, p < .05$)。本当のことを話すのは “よいこと” と理解している度合いは, 年長児では高く, 年少児は他の年齢群に比べて低い可能性が示唆される。

F. 結果の予測

嘘をつく／本当のことを言うときの内容を, 探索的に 4 つのカテゴリに分類した (Table 2-1)。第一のカテゴリは “社会的な評価” への言及 (例: “友達ができなくなる”), 第二のカテゴリは “権威者による評価” (例: “お母さんに怒られる”), 第三は, “善悪への言及” であり, 第四は “その他 (不適切反応, DK)” であった。嘘 ($\kappa = .73$), 本当 ($\kappa = .73$) の分類の信頼性は高かった。結果を Table 2-2 に示す。嘘, 本当の各カテゴリの度数について 3 (年齢群) \times 4 (反応: 社会的, 権威者, 善悪, その他) の正確確率検定を行った結果, 嘘の分布においてのみ有意な偏りが見られた (嘘: $p = .001$; 本当: $p = .08$)。嘘をつくときとどうなるかという質問への回答では, “権威者による評価” への言及の割合が年少児では 25%, 年中児では 69%, 年長児では 83%, であった (残差, 年少: $-3.96, p < .01$; 年長: $2.71, p < .01$)。また, “その他” の回答は年少児では 65%, 年中児では 23%, 年長児では 13% であった (残差, 年少: $3.82, p < .01$; 年長: $-2.46, p < .05$)。嘘をつくときとどうなるかの質問では, 年長児は “権威者による評価” への言及が多く, 年少児は適切に回答できないと考えられる。

G. 大人の反応

嘘をつく／本当のことを言うと大人は怒るか喜ぶかについての結果を Table 2-2 に示す。反応に対し 3 (年齢群) × 3 (反応: 喜ぶ, 怒る, その他) の正確確率検定を行ったところ, 嘘の分布においてのみ有意な偏りが見られた (嘘: $p = .05$; 本当: $p = .08$)。嘘をつくとき大人は“怒る”と回答した割合は年少児では 70%, 年中児では 92%, 年長児では 96%であった (残差: 年少: -2.71 , $p < .01$)。また, 嘘をつくとき大人は“喜ぶ”と回答した割合が年少児では 20%, 年中児では 4%, 年長児では 0%であった (残差, 年少: 2.64 , $p < .01$)。年少児は, 他の年齢群に比べて, 嘘をつくとき大人は怒るという理解があまりできていない可能性がある。

3-4. 嘘の基準を明確化する課題 (H. 真実未知条件, I. 真実既知条件)

反応が記録できなかった, または, テープやビデオから反応が判断できなかった年少児 1 名, 年中児 9 名, 年長児 7 名を分析から除外した。よって, 分析対象は年少児 19 名, 年中児 19 名, 年長児 18 名の計 56 名である。

H. 真実未知条件

この条件では, ① “戻ってきた花子さんは, 丸と四角, どちらの箱にぬいぐるみが入っているか”に “丸い箱”, ② “実際にはどちらの箱に今ぬいぐるみが入っていますか”に “四角い箱” という反応が得られれば, 誤信念課題に通過したことになる。誤信念課題に通過した上で, ③ “花子さんがもし ‘丸い箱に入っている’ と言ったら, 花子さんは嘘をついていることになりますか” に対し “嘘とは言えない” という反応がなされた場合を正答とした。結果を Table 2-2 に示す。全て正答 (①②③に正答), ①②だけ正答 (誤信念課題に正答), 誤答 (②のみ正答, ①のみ正答, 全て誤答の合計度数) の 3 種類の反応について 3 (年齢群) × 3 (反応: 全て正答, ①②だけ正答, 誤答) の正確確率検定を行ったところ, 分布に有意な偏りが見られた ($p = .006$)。全てに正答した割合は年少

児では5%、年中児では16%、年長児では44%であった（残差，年少： -2.11 , $p < .05$ ；年長： 2.89 , $p < .01$ ）。また，誤信念課題に通過しない（誤答）年少児は84%、年中児は53%、年長児は28%であった（残差，年少： 3.11 , $p < .01$ ；年長： -2.86 , $p < .01$ ）。年少児は誤信念課題に通過できないといえる。

I. 真実既知条件

この条件では，花子さんはケンちゃんがぬいぐるみを移動する場面を目撃する。従って，①に“四角い箱”，②に“四角い箱”という反応がなされ，その上で③に“嘘をついている”という反応がなされた場合を正答とした（Table 2-2）。H. 真実未知条件と同様に3（年齢群）×3（反応）の正確確率検定を行った結果，分布に有意な偏りが見られた（ $p = .05$ ）。①②③の全てに正答した割合は，年少児では32%、年中児では63%、年長児では56%であった（残差：年少： -1.98 , $p < .05$ ）。また，①②だけ正答した割合は，年少児の37%、年中児では5%、年長児33%と年中児では他の年齢群に比べてその割合が低いことが示された（残差：年中： -2.44 , $p < .05$ ）。H.真実未知条件と同様に，年少児は信念を考慮した嘘の同定ができない可能性がある。

3-5. 行動課題（J, K）

J. 行動では，一方の箱について本当のことが言えるか（“アメが入っている”），また，他方の箱については嘘がつけるか（例えば“〈アメ以外のもの〉が入っている”）を検討した。また，嘘がつけた場合，K. 嘘の内容を分析した。

J. 行動

1つの箱については本当のこと，もう一方について嘘が言えた場合を正答とした。両方の箱に対して嘘をつく，本当のことを言う，“わからない”と回答する，両方の箱を開けてしまう（両方の箱の中身を見せてしまう）などの場合を誤答とした。また，年少児では嘘

をつくことを拒否した参加者が3名いた。“怒られたくない(2名)”“嘘をつきたくない(1名)”などがその理由であった。このような反応は年長児には見られなかった。これらの反応は、両方の箱の中身を教えるなどの反応とは質的に異なる可能性がある。しかし、独立のカテゴリにするには数が少なく、また、指示とは一致しない反応であることは否めない。そのため、ここでは指示通りの反応を便宜的に“正答”、指示と一致しない反応を“誤答”として分析した。年齢ごとの行動を Table 2-2 に示す。3 (年齢群) × 2 (行動: 正答, 誤答) の正確確率検定を行なったところ、分布に有意な偏りが見られた ($p = .01$)。正答の割合は年少児では 25%, 年中児では 86%, 年長児では 86%であった (残差, 年長: 2.44, $p < .05$; 年中: 2.33, $p < .05$; 年少: -5.13, $p < .01$)。年長, 年中児は指示に従い嘘をつくことができ、年少児は嘘がつけない可能性が示唆される。

K. 嘘の内容

参加者がどのような内容の嘘をついたのかを検討するため、参加者のついた嘘の内容を探索的に分類した (Table 2-1)。その結果、“現実的な嘘 (虫歯にならないようにという目的に沿い、箱に入る大きさの現実的な事物に言及: “おもちゃ” など), “不適切な嘘” (虫歯の原因になり得る食べ物に言及: “チョコ” など), “非現実的な嘘” (箱に入らない非現実的な事物に言及: “キリン” など), “沈黙/DK” に分類することができた。分類の信頼性は高かった ($\kappa = .94$)。年齢群ごとの各カテゴリの度数を Table 2-2 に示す。3 (年齢群) × 4 (反応: 現実的な嘘, 不適切な嘘, 非現実的な嘘, 沈黙/DK) の正確確率検定を行なったが、分布に有意な偏りは見られなかった ($p = .53$)。

3-6. 課題間の比較

各課題の正答率を Figure 2-1 に示す。ここでは、B. 嘘と本当の異同判断の“誤答”, C. 嘘と本当の違いの説明と D. 嘘/本当の定義の“レベル 0”, E. 嘘/本当の結果の予測の“その他”以外の反応を正答とした。嘘の基準を明確化する課題 H, I では“①②③の

質問全てに正答”した場合、K. 嘘の内容では“現実的な嘘”のみを正答とした (Table 2-2)。

全体を比較すると、A. 同定課題、B. 嘘と本当の異同判断、E. 善悪判断、G. 大人の反応など、二者択一式課題の正答率は高い (Figure 2-1)。これに対し、C. 嘘と本当の違いの説明、D. 定義など自由報告を求める課題の成績は低い。しかし、二者選択式でも H. 嘘の基準を明確化する課題 (真実未知) の成績は低く、自由報告でも F. 結果の予測の成績は比較的高い。

各課題への反応と嘘をつく行為との関連を調べるため、A. 同定課題 (嘘①・本当②)、C. 嘘と本当の違いの説明③、D. 定義 (嘘④・本当⑤)、E. 善悪判断 (嘘⑥・本当⑦)、F. 結果の予測 (嘘⑧・本当⑨)、G. 大人の反応 (嘘⑩・本当⑪)、H. 嘘の基準を明確化する課題 (真実未知) ⑫、I. 嘘の基準を明確化する課題 (真実既知) ⑬、K. 嘘の内容⑭の 14 課題の成績について数量化Ⅲ類の分析を行った。A. 同定課題では、嘘、本当項目それぞれ 2 項目とも正答した場合を正解とし、その他の課題では、Figure 2-1 と同様の回答分類を行った (Table 2-2, 2-4 参照)。ここでは全ての課題に参加した参加者を対象とするため、分析対象は 54 名であった。

結果を Figure 2-2 に示す。解析の結果、固有値は順に解 1 で 0.12、解 2 で 0.10、解 3 で 0.07 となった。それぞれのまとまりを矛盾なく解釈できることから解 1 と解 2 を採用した。課題は 1) 弁別課題③、2) 定義課題 (④⑤)、3) 結果の予測 (⑧⑨⑪)、4) 二者択一式課題 (①②⑥⑦⑩⑬)、5) 誤信念課題⑫、6) 嘘つき行動⑭の 6 つの要素に分類することができた。

1)、2)、5)、6) は各課題の特徴を反映した要因であると考えられる。3) 結果の予測は、F. 結果の予測 (嘘⑧・本当⑨) と G. 大人の反応での”本当のことを言うと大人は怒るか、喜ぶか⑩”から成る。これらの課題は、嘘、本当を話すことの結果を問う課題である。幼児の生活では、”嘘をつく”と怒られる”ということが約束事のように理解されていると考えられる。そのため、G. 大人の反応における”嘘をつく”と大人は怒るか、喜ぶか⑩”は比較的容易な 4) 二者択一式課題 (①②⑥⑦⑩⑬) と近いものになったのかもしれない。

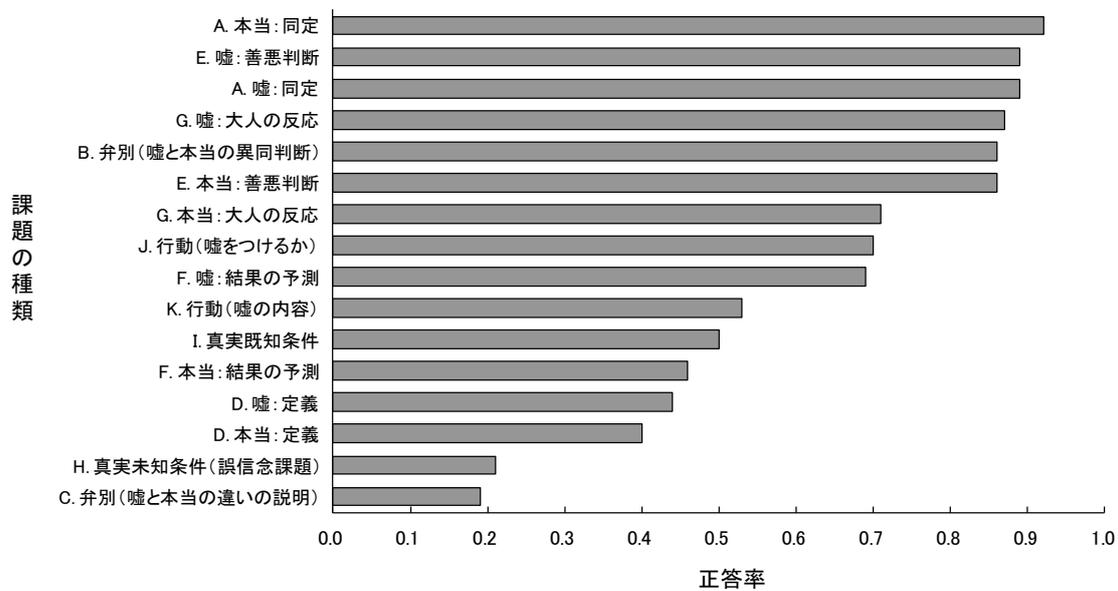


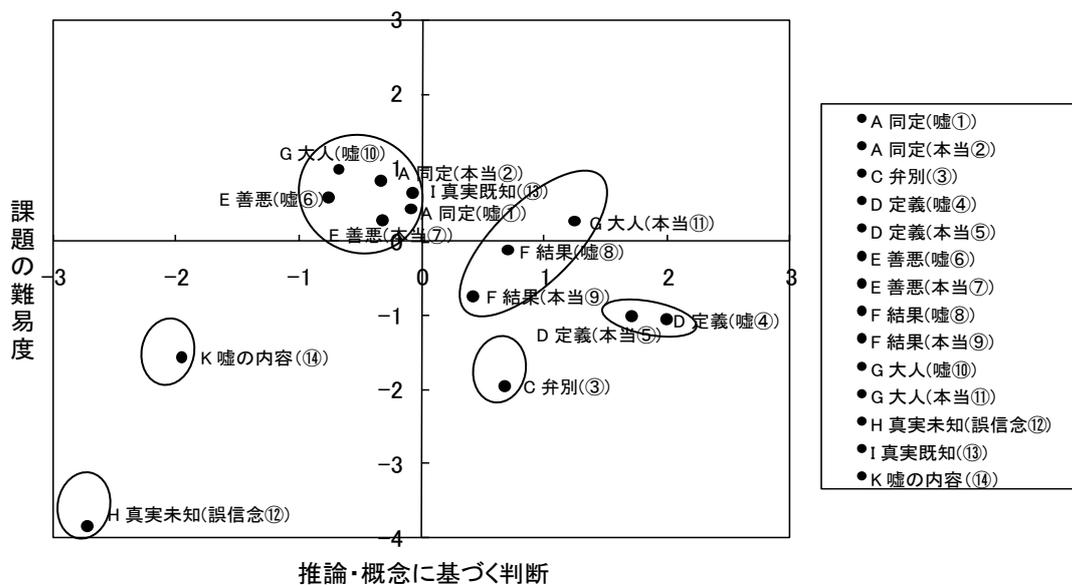
Figure 2-1 各課題の正答率

Table 2-4 数量化Ⅲ類における各回答分類の度数

		年少	年中	年長	<i>n</i>
A 同定(嘘①)	誤答	8 (.15)	0 (.00)	0 (.00)	8
	正答	11 (.20)	18 (.33)	17 (.31)	46
A 同定(本当②)	誤答	7 (.13)	1 (.02)	1 (.02)	9
	正答	12 (.22)	17 (.31)	16 (.30)	45
C 弁別(③)	誤答	16 (.30)	14 (.26)	9 (.17)	39
	正答	3 (.06)	4 (.07)	8 (.15)	15
D 定義(嘘④)	誤答	13 (.24)	10 (.19)	9 (.17)	32
	正答	6 (.11)	8 (.15)	8 (.15)	22
D 定義(本当⑤)	誤答	14 (.26)	10 (.19)	9 (.17)	33
	正答	5 (.09)	8 (.15)	8 (.15)	21
E 善悪(嘘⑥)	誤答	6 (.11)	1 (.02)	0 (.00)	7
	正答	13 (.24)	17 (.31)	17 (.31)	47
E 善悪(本当⑦)	誤答	7 (.13)	1 (.02)	0 (.00)	8
	正答	12 (.22)	17 (.31)	17 (.31)	46
F 結果の予測(嘘⑧)	誤答	12 (.22)	4 (.07)	2 (.04)	18
	正答	7 (.13)	14 (.26)	15 (.28)	36
F 結果の予測(本当⑨)	誤答	13 (.24)	5 (.09)	8 (.15)	26
	正答	6 (.11)	13 (.24)	9 (.17)	28
G 大人の反応(嘘⑩)	誤答	6 (.11)	0 (.00)	0 (.00)	6
	正答	13 (.24)	18 (.33)	17 (.31)	48
G 大人の反応(本当⑪)	誤答	10 (.19)	4 (.07)	3 (.06)	17
	正答	9 (.17)	14 (.26)	14 (.26)	37
H 真実未知条件(⑫)	誤答	18 (.33)	15 (.28)	10 (.19)	43
	正答	1 (.02)	3 (.06)	7 (.13)	11
I 真実既知条件(⑬)	誤答	13 (.24)	6 (.11)	8 (.15)	27
	正答	6 (.11)	12 (.22)	9 (.17)	27
K 嘘の内容(⑭)	誤答	16 (.30)	8 (.15)	11 (.20)	35
	正答	3 (.06)	10 (.19)	6 (.11)	19

注1. 数量化Ⅲ類では全課題に参加した参加者を対象とする。

注2. ()の値は反応の割合(%)である。



注. “推論・概念に基づく判断”は+方向は概念的な判断が要求され、-方向では推論に基づく判断が要求される。

Figure 2-2 数量化Ⅲ類による各課題の分類

Table 2-5 課題間の比較におけるロジスティック回帰分析の結果

		係数	オッズ比	Wald	df	p値
ステップ1	5)誤信念課題(12)	-1.51	0.22	4.48	1	0.03
	定数	0.56				

注1. ステップ1: Cox & Snell $R^2 = .08$, Nagelkerke $R^2 = .12$

これに対し、“本当のことを言うと大人は怒るか、喜ぶか⑨”は、本当のことを言う場合は、ほめられる場合、当然であるとされてほめられない場合、悪い行為をして本当のことを話すと怒られる場合もあって、結果の予想がより困難であったのかもしれない。

以上の1)と5)については正答数、2), 3), 4)については各課題の正答数合計を合成変数としたもの、これに“年齢(年少, 年中, 年長)”を加えた6変数を説明変数とし、6)嘘つき行動を目的変数として変数増加法によるロジスティック回帰分析を行った。その結果、5)誤信念課題⑩が採用された($\chi^2(1, N=54) = 4.71, p = .03$) (Table 2-5)。

第4節 考察

第2章の目的は、様々な課題を用いて幼児による嘘と本当の理解の度合いを調べ、課題間の関係、および課題への反応と嘘をつくという行為との関連を調べることであった。以下各課題の結果を概観した上で、考察を行う。

A. 同定課題では、年中・年長児は嘘と本当の項目をそれぞれ正しく同定できた。また B. 嘘と本当の異同判断でも、年長児は、嘘と本当を“違う”と理解していることが示された。しかし、C. 嘘と本当の違いの説明、D. 定義課題では反応のレベルに年齢差は見られず、“レベル0”の反応が多くみられた。6歳頃になれば、嘘と本当を同定でき、異なるものとして認識してはいるが、違いについて説明する、定義することは難しいといえる。この結果は、Lyon & Saywitz (1999) や Pipe & Wilson (1994) の結果を支持するものである。

E. 善悪判断では、年長児と比べると割合は低いものの、年少児でも70%が“嘘は悪いことである”と理解できていることが示された。また年長児では、F. 結果の予測において、“権威者による評価”への言及が多かった。この発話カテゴリは、Piaget や Kohlberg の道徳的判断の第一段階で見られる“規則は大人や神によって申し渡されたものであり、変更できない絶対的なものである”という考え方 (Crain, 1981/1984) に通じる。

さらに、F. 結果の予測では、“嘘”については年齢差が見られたのに対し、“本当”では年齢差は見られず、どの年齢群でも“その他”のカテゴリの反応が多かった。Saywitz, Jaenicke, & Camparo (1990)によれば、幼児は嘘に比べて本当の理解のほうが困難であるという。本実験でも、同定課題において“本当”と回答する代わりに“嘘じゃない”と答える幼児が多かった。正答／誤答に関わらず、同定課題全体(計4項目)を見てみると、“嘘じゃない”と回答した割合は年少児で25% (20名)、年中児で6% (7名)、年長児で8% (8名)であり、全体では12% (35名)であった。一方、“本当じゃない”と回答したのは、年中、年長児で各1名ずつであった。事実通りの本当よりも、事実と異なる嘘の方が概念としては明確であり、“本当であるかどうか”よりも、“嘘でないかどうか”という基準が用いられている可能性がある。

信念の理解が反映されると考えられるH. 嘘の基準を明確化する課題(真実未知)では、年長児で、“嘘とはいえない”と正しく判断する割合が高かった。また、行動課題では年中、年長児は、適切な嘘をつけることが示された。6歳頃になると、定義課題や違いの説明などで求められるような言語的な反応はできなくても、話者の信念を察知し、嘘か否かの判断に活かすことができる可能性が示唆された。それに対して、I. 嘘の基準を明確化する課題(真実既知)では、年少児は他の年齢群に比べて正答率が低かった。同定課題での結果も含め、年少児では、他の年齢群に比べ“嘘”を事実・反事実に基づいて同定、判断することも難しいと考えられる。この結果は、嘘や道徳的な判断が結果論から動機論へと変化していくという先行研究の知見(仲・上宮, 2005; 楯・新井, 2004を参照)を支持するものである。

課題全体をみると、二者択一式の課題は正答率が高く、自由報告を求める課題は困難である傾向が見られる。しかし、二者択一式でも信念に関わる判断は難しい。心の理論の獲得を前提とする推論や判断は児童期であっても難しい(林, 2002)。話者の信念を考慮した判断は、就学前から児童期を通じて発達すると予想される。

一方、自由報告を求める課題であっても善悪に基づく推論はある程度可能であることが

示された。これまで多くの先行研究が、幼児であっても嘘は悪いという善悪判断ができるとしている (Bussey, 1992; Lyon & Saywitz, 1999)。これらの課題では悪事が題材とされることが多かったが、本研究のように中立的な課題を用いても、年長児は、嘘は“悪い”，本当は“よい”と理解していることが確認できた。ただし、相手を傷つけないための、必ずしも悪いとはいえない嘘も存在する。たわいのない嘘 (white-lie) や冗談などを検討した研究 (Bussey, 1999) でも、年長児は4歳児に比べ、本当と嘘を正しく同定できることが報告されている。このような、より複雑な嘘や嘘以外の虚偽の発話の判断については、次の第3章において検討を行う。

第2章の結果をまとめると、年長児 (6歳頃) は、言語的に説明できないにせよ、嘘、本当を、信念を含んだレベルで理解できている可能性が示唆された。対して、年少児 (3, 4歳児) では、“嘘と本当は違うもの”，“嘘は悪いこと”，“嘘をつくと大人は怒る” というレベルで嘘を理解している可能性が示された。

課題間の関連性については、同定課題は容易であり、子どもの能力を過大評価する可能性がある。また、定義課題は困難であるため、子どもの能力を過小評価する可能性がある。各課題と行動課題との関連をみたロジスティック回帰分析の結果でも、概念的な知識について説明させる課題や二者択一式の課題では“嘘をつく”行動を予測することはできなかった。しかし、年齢や誤信念課題を含んだ H. 嘘の基準を明確化する課題 (真実未知) は、ある程度行動を予測できることが示唆された。嘘をつくには、自分の知っている事実に関する知識を抑制し、相手に事実とは異なる知識を示す必要がある。つまり、嘘をつくには、認知的な推論をはじめ、作動記憶や抑制能力なども関わっていると考えられる (楯・新井, 2002)。さらに、行動課題において、6歳頃になれば相手を騙すような意図的な嘘をつけるということは、例え言葉では説明できなくても、嘘の概念を大人と同様のレベルで適切に理解できるということである。

第2章の結果から、心の理論獲得時期の幼児期においては、6歳頃には行動レベルや誤信念課題に基づいて“信念”を考慮した嘘の理解が可能になることが示唆された。しかし、

これらの“信念”の理解はまだ潜在的なものであるといえる。それでは、明確に信念に基づいた嘘の理解が始まるのはどの時期からであろうか。第3章では、より体系的な課題を用いて、児童期の子どもを対象とし、“事実性”や“信念”などの認知的な要因に基づく嘘の理解について検討を行う。また、前述したように、これまでの幼児を対象とした研究で用いられてきた課題の多くは、悪事を題材としたものがほとんどである。一方で、たわいのない嘘（white-lie）、冗談、お世辞などのように、相手との関係性を維持するために活用される虚偽も存在する。これらの虚偽と嘘を弁別するには、どのような状況でその発話がなされたかといった“文脈／場面”など、嘘の社会的な側面についての理解が必要となる。これらの社会的な要因を含めた嘘の理解は、第2章の幼児が示すような信念に基づく嘘の理解に比べ、より高次で複雑なレベルでの“嘘”の理解となる。この点について、第3章では、心の理論獲得後の児童期以降の子どもを対象とし、“事実性”や“信念”などの認知的な要因に加えて、“文脈／場面”といった社会的な要因の影響について検討を行う。

第3章 児童期における信念に基づく嘘の概念理解の発達

第1節 目的

第2章では、心の理論を獲得する時期となる幼児期の子どもを対象とし、初期の嘘の概念理解の特徴について様々な課題を用いて探索的な検討を行った。その結果、発話を嘘と同定できるようになる、嘘についての善悪判断が可能になるのは4歳頃であることが示された。また、嘘と本当の違いを説明させる、嘘を定義させるような課題は、6歳児であっても難しいことが示された。さらに、相手を騙すような嘘がつけるかどうかは、誤信念の理解によって一部予測できる事が示された。このように、発話が事実と一致しているか否を基準とした理解がはじまり、心の理論を獲得後の6歳以降には、弁別課題や定義課題などの言語能力に依存するような課題には適切に答えられないとしても、行動のレベルでは聞き手の信念を考慮した嘘をつくことが可能であるといえる。幼児期の心の理論の獲得に境に、明確に説明できなかつたとしても、潜在的に他者の心的状況の理解を含めた嘘の理解が可能になり始める。それでは、幼児期以降、信念に基づく嘘の概念理解はどのように変化していくのだろうか。

第1章でも示した通り、嘘の理解において、“事実性”よりも“信念”が重視されるようになるのは9歳以降であるといわれている（伊藤, 1996, 1998, 1999 ; Strichartz & Burton, 1990）。また、9歳以降には、“信念”を含めた判断に加え、嘘とその他の虚偽の発話（冗談、たわいのない嘘（white lie）など）を弁別する事が可能になる（林, 2002 ; Sullivan *et al.* 1995）。それに伴い、嘘の理解において、どのような“文脈／場面”でその発話がなされたかといった嘘の社会的な要因も考慮されはじめる（Lee, 2000 ; Lee *et al.* 1997 ; Lee & Ross, 1997）。

本章では、児童期の子どもを対象として、嘘の理解における認知的な要因（事実性、信念の理解）、そして、社会的な要因（文脈／場面の理解）の両方について検討を行う。それ

それぞれの要因が、児童期以降の嘘の理解においてどのように関連しているのかを調べる。

方法としては、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”、“利己的な嘘”、“利他的な嘘”の5つの場面において、事実や信念に反する発話を参加者に示し、判断を求める。手続き的な問題として、先行研究では、参加者に“主人公は嘘をついていますか、本当のことを言っていますか”と二者択一の判断を求めた結果、場面に沿った判断がなされず、“嘘”と判断される割合が多かったという結果を得ている (Bussey, 1992, 1999 など)。そこで、本章では、発話を判断させる際に、“冗談”、“間違い”など児童期の子どもが理解できる範囲で、“嘘”、“本当”以外の選択肢も含めて検討を行った。

予測としては、先行研究と同様に、“事実”、“信念”の両方に反する発話は“嘘”と判断されやすいだろう。しかし、聞き手にとって、有益な発話となるようなお世辞場面では、発話が“事実”や“信念”に反していたとしても、“嘘”とは判断されない可能性がある。謙遜場面では、話者自身の不利な情報をあえて提示し、相手に脅威を与えないという意味で人間関係の維持に役立つだろう。この場合も“嘘”とは判断されず、“嘘以外”と判断されることが予想される。冗談場面でも、聞き手が現実とのギャップに面白みを感じれば、“嘘”とは判断されないかもしれない。しかし、この場面では、事実でないことに驚かされたことを不快に感じるなどの不利益が生じた場合は“嘘”と解釈される可能性もある。このように、反事実、反信念という意味では全て“嘘”であると考えられる発話であっても、自己や他者の利益、不利益により“嘘”と判断される度合いに差異がみられるものと予想される。また“事実”と一致していても“信念”に反する発話は、“嘘”とは判断される可能性がある。しかし、この発話の場合も、自分を卑下する、相手を賞賛するなどの発話は、必ずしも“嘘”とは判断されないと考えられる。年少の子どもは、“お世辞”、“謙遜”“冗談”などの発話も“嘘”と判断する可能性もある。しかし、先行研究では、このような場合、善悪判断では発話は必ずしも“悪い”とは判断されなかった (Bussey, 1992, 1999; Lee *et al.* 1997, Peterson *et al.* 1983)。本章でも、それぞれの発話についての善悪判断を求める手続きを含めて、この点について検討する。

第2節 方法

2-1. 参加者

都市部の小学校2校より、1年生、3年生、5年生の220名が参加した。回答に不備があった1名、日本語を母語としない9名のデータは分析より除外した。よって、分析対象者は1年生74名（男児43，女児31； $M=7$ 歳6ヶ月， $R=6$ 歳9ヶ月～7歳10ヶ月），3年生71名（男児34人，女児37人； $M=9$ 歳6ヶ月， $R=8$ 歳9ヶ月～9歳10ヶ月），5年生65名（男児37，女児28； $M=11$ 歳5ヶ月， $R=10$ 歳9ヶ月～1歳10ヶ月）の計210名であった。

2-2. 材料

本調査では、嘘か否かの判断を求める発話に関し、2つの要因を設けた。1つは、“発話タイプ”である。事実にのみ一致する発話（F+B-）、信念にのみ一致する発話（F-B+）、事実、信念のどちらとも一致しない発話（F-B-）を作成した（Table 3-1）。発達的な問題から、課題の量を減らすため、発話 F+B+は割愛した。2つ目の要因は、場面であった。まず、F-B-の発話において、主人公の意図が1) 利己的な嘘、2) 利他的な嘘（他者をかばう）、3) お世辞、4) 謙遜、5) 冗談となるような場面を作成した。各場面の事実を、1) 主人公が窓を割った（利己的な嘘）、2) 相手がお金を盗んだ（利他的な嘘）、3) 相手の作ったクッキーはまずい（お世辞）、4) 主人公の足は速い（謙遜）、5) 相手の背中に葉っぱが落ちた（冗談）と設定した。たとえば、発話タイプ F+B-や F-B-では、主人公の信念は、1) 窓を割っていない、2) 盗んでいない、3) クッキーはおいしい、4) 足は遅い、5) 蜘蛛が落ちたとなる（Table 3-1 参照）。具体例として、1) 利己的な嘘場面の発話 F-B-を示す（事実、信念、発話を下線で示す。）

Table 3-1 調査で用いた場面と発話タイプ

場面	物語	F-B-	F-B+	F+B-
1) 利己的な嘘	りょうちゃんは、教室でボール遊びをして遊んでいました。 りょうちゃんは間違って、ボールを窓ガラスに当てて割ってしまいました。 先生に誰が窓を割ったのかを聞かれて、りょうちゃんは…	割った	割った	割った
		信念	割ってない	割ってない
		発話	割ってない	割った
2) 利他的な嘘	よっちゃんはりょうちゃんと買い物に出かけました。 2人はお店に入りましたが、店員さんはいませんでした。 カウンターにはお金が置いてありました。 よっちゃんはそれを盗ってポケットの中に入れました。 店の奥から店員さんがやってきて、お金がなくなっているのに気づき、おまわりさんを呼びました。 りょうちゃんは、よっちゃんがお金を…	盗った	盗った	盗った
		信念	盗ってない	盗ってない
		発話	盗ってない	盗った
3) お世辞	りょうちゃんはクッキーを焼きました。 そのクッキーはまずい味でした。 りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーをあげました。 そして、りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーはどうか聞きました。 よっちゃんは…	まずい	まずい	まずい
		信念	まずい	おいしい
		発話	おいしい	まずい
4) 謙遜	よっちゃんは運動会で一等賞になりました。 よっちゃんは一等賞になれたことをとても嬉しく思いました。 よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね。」と言いました。 よっちゃんは…	速い	速い	速い
		信念	速い	遅い
		発話	遅い	速い
5) 冗談	よっちゃんは、お父さんと一緒に庭にいました。 すると、葉っぱがお父さんの背中に落ちました。 よっちゃんは…	葉っぱ	葉っぱ	葉っぱ
		信念	葉っぱ	蜘蛛
		発話	蜘蛛	葉っぱ

りょうちゃんは、教室でボール遊びをして遊んでいました。りょうちゃんは間違っ
てボールを窓ガラスに当てて割ってしまいました（事実：F）。先生に誰が窓を割ったのか聞か
れて、りょうちゃんは窓を割ったと思っている（信念：B）のに、先生に「私は、窓を割
っていません。」（事実にも信念にも一致しない発話：F・B-）といました。

2-3. 質問紙

“発話タイプ”と“場面”をラテン方格状に組み合わせ、参加者に5種類の“場面”に
対して、それぞれ1種類の“発話タイプ”が割り当てられる質問紙を作成した（Table 3-2
参照）。例えば3）お世辞場面においてF+B-の発話が割り当てられた参加者は、4）謙遜場
面ではF-B-の発話、5）冗談場面ではF-B+の発話を与えられるなど、一人の参加者がF+B-、
F-B+、F-B-の発話を1つないし2つ判断する配置となるようにした。

2-4. 手続き

調査は集団で行った。クラスごとにラテン方格法により割り当てた条件を用いた。実験
者は、各場面の“事実”，“信念”，“発話”について、教室の前方でA0サイズの用紙に印刷さ
れた絵を示しながら参加者に物語を読み上げた（付録9）。絵は、教室の前方で示すのみで、
参加者には解答用紙のみ配布された。はじめに、F+B+の発話タイプを用いて練習問題を
実施した。その後、練習問題と同様に、各場面について実験者が絵を示して物語を読み上
げ、回答方法について説明しながら、一斉に回答を行う形で調査を進めた（付録10）。参
加者は、各場面の発話を“本当”，“嘘”，“冗談”，“間違い”，“その他”の5つの選択肢の
どれに当てはまるかを判断し、発話の善悪について、1“悪い”～5“よい”の5段階で評
価した。本調査では、“謙遜”，“お世辞”という用語は、児童にとっては難しいだろうとい
う、小学校教諭の指摘により、選択肢を“本当”，“嘘”，“冗談”，“間違い”，“その他”の4種
類とした。また、学年に応じて、回答用紙の漢字の部分をひらがなで表す、ルビを振るなど
の工夫を行った（付録11）。

Table 3-2 ラテン方格法によるグループ分け

	F+B-	F-B+	F-B-
お世辞	A	B	C
謙遜	B	C	A
冗談	C	A	B
利己的な嘘	A	B	C
利他的な嘘	B	C	A

第3節 結果

3-1. 全体的傾向

まず、各発話タイプの全体的傾向を示す。はじめに、練習問題で用いた、発話が“事実”と“信念”の両方と一致している発話タイプ F+B+での参加者の回答について分析した。発話タイプ F+B+を“本当”以外に分類したものを“その他”とし、3（学年：1年，3年，5年）×2（回答：本当，その他）のカイ二乗検定を行ったところ、分布に有意な偏りがみられた（ χ^2 （2, $N=210$ ）= 10.38, $p < .01$ ）。発話タイプ F+B+を“本当”と分類した割合は、1年生では59%、3年生では76%、5年生では83%であった（残差, 1年生：-3.09, $p < .01$ ；5年生：2.32, $p < .05$ ）（Table 3-3）。

次に、F-B-, F-B+, F+B-の各発話タイプについての結果を示す。Table 3-3に、各場面の発話タイプについての最頻値を下線で示した。発話タイプ F-B-では、5) 冗談場面の5年生を除く全ての場面で“嘘”が最頻反応となった。このことから、発話が“事実”と“信念”の両方に反する場合には、“嘘”と判断される傾向があるといえる。発話タイプ F-B+では、1) 利己的な嘘, 4) 謙遜場面では“嘘”, 5) 冗談場面では“間違い”と判断される割合が多い。3) お世辞場面では、1年生, 3年生の最頻値が“嘘”であるのに対して、5年生では“本当”が多い。また、2) 利他的な嘘場面においては、1年生では“嘘”が多いのに対して、3年生と5年生では“間違い”が多い傾向がみられた。最後に、発話タイプ F+B-では、1) 利己的な嘘, 2) 利他的な嘘, 5) 冗談場面において“本当”と分類される割合が多かった。

3-2. 各場面における発話と学年についての検討

次に、各場面の発話タイプごとに、学年による反応の違いを検討する。検定は発話ごとに、“嘘”と、嘘以外の“その他”の判断に対して、3（年齢：1年，3年，5年）×2（回答：嘘，その他）のカイ二乗検定を行った。また、発話を“嘘”と判断した参加者のみを

Table 3-3 発話タイプごとの各回答カテゴリの度数

場面	発話タイプ	学年	嘘				p値	
			嘘	本当	冗談	間違い		その他
	F+B+	1年生	12 (.16)	<u>44 (.59)</u>	9 (.12)	5 (.07)	4 (.05)	74
		3年生	6 (.08)	<u>54 (.76)</u>	3 (.04)	3 (.04)	5 (.07)	71
		5年生	6 (.09)	<u>54 (.83)</u>	1 (.02)	3 (.05)	1 (.02)	65
	F-B-	1年生	<u>17 (.68)</u>	5 (.20)	1 (.04)		2 (.08)	25
		3年生	<u>26 (1.00)</u>					26
		5年生	<u>18 (1.00)</u>				18	
利己的な嘘	F-B+	1年生	<u>22 (.88)</u>			3 (.12)		25
		3年生	<u>13 (.62)</u>		1 (.05)	6 (.29)	1 (.05)	21
		5年生	<u>9 (.45)</u>		1 (.05)	8 (.40)	2 (.01)	20
	F+B-	1年生	6 (.29)	<u>11 (.50)</u>	2 (.10)	1 (.05)	1 (.05)	21
		3年生	3 (.13)	<u>18 (.75)</u>	1 (.04)	2 (.08)		24
		5年生	3 (.11)	<u>21 (.78)</u>			3 (.11)	27

注1. ()内は割合を示した
 注2. 各行における最頻値を下線で示した
 注3. ** $p < .01$

Table 3-3 発話タイプごとの各回答カテゴリの度数(つづき)

場面	発話タイプ	学年	嘘				n	p値	
			本当	冗談	間違い	その他			
利他的な嘘	F-B-	1年生	22 (.85)	1 (.04)	2 (.08)	1 (.04)	26		
		3年生	19 (.90)	1 (.05)		1 (.05)	21	n.s.	
		5年生	19 (.95)		1 (.05)		20		
	F-B+	1年生	18 (.81)	1 (.05)	2 (.09)	1 (.05)	22		
		3年生	10 (.42)		12 (.50)	2 (.08)	24	**	
		5年生	8 (.30)	2 (.07)	15 (.56)	2 (.07)	27		
	F+B-	1年生	6 (.23)	15 (.58)	2 (.08)	1 (.04)	26		
		3年生	4 (.15)	16 (.62)	1 (.04)	1 (.04)	26	n.s.	
		5年生	3 (.17)	10 (.56)	1 (.06)	3 (.17)	18		
	F-B-	1年生	12 (.46)	6 (.23)	4 (.15)	3 (.12)	26		
		3年生	21 (.81)	1 (.04)	3 (.12)	1 (.04)	26	**	
		5年生	16 (.89)			2 (.11)	18		
	お世辞	F-B+	1年生	8 (.31)	5 (.19)	7 (.27)	1 (.04)	26	
			3年生	8 (.38)	5 (.23)	4 (.19)	3 (.14)	21	n.s.
			5年生	8 (.40)	10 (.50)	1 (.05)	1 (.05)	20	
F+B-		1年生	5 (.23)	2 (.09)	13 (.59)	2 (.09)	22		
		3年生	12 (.50)	3 (.13)	8 (.33)	1 (.04)	24	n.s.	
		5年生	12 (.44)	3 (.11)	11 (.41)	1 (.04)	27		

注1. ()内は割合を示した
 注2. 各行における最頻値を下線で示した
 注3. ** p < .01

Table 3-3 発話タイプごとの各回答カテゴリの度数(つづき2)

場面	発話タイプ	学年	嘘			n	p値
			本当	冗談	その他		
謙遜	F-B-	1年生	23 (.88)	1 (.04)	1 (.04)	26	
		3年生	11 (.52)	3 (.14)	3 (.14)	21	**
		5年生	11 (.58)	1 (.05)	4 (.21)	19	
	F-B+	1年生	11 (.50)	4 (.18)	2 (.09)	22	
		3年生	11 (.46)	5 (.21)	7 (.29)	24	n.s.
		5年生	11 (.41)	1 (.04)	4 (.15)	27	
	F+B-	1年生	11 (.42)	3 (.12)	2 (.08)	26	
		3年生	9 (.35)	6 (.23)	2 (.07)	26	n.s.
		5年生	6 (.33)	2 (.11)	3 (.17)	18	
	F-B-	1年生	13 (.59)	2 (.09)	1 (.05)	22	
		3年生	12 (.50)	10 (.42)	2 (.08)	24	n.s.
		5年生	7 (.26)	18 (.67)	2 (.07)	27	
	冗談	1年生	5 (.21)	1 (.04)	9 (.38)	24	
		3年生	3 (.12)	1 (.04)	22 (.85)	26	n.s.
		5年生	1 (.06)	4 (.22)	13 (.72)	18	
F+B-	1年生	2 (.08)	14 (.54)	3 (.12)	26		
	3年生	3 (.14)	8 (.38)	4 (.19)	21	n.s.	
	5年生	4 (.21)	8 (.42)	4 (.21)	19		

注1. ()内は割合を示した
 注2. 各行における最頻値を下線で示した
 注3. ** p < .01

対象とし、善悪判断について、3（学年：1年，3年，5年）×3（発話：F-B⁻，F-B⁺，F+B⁻）の分散分析を行った。

1) 利己的な嘘（窓）

この場面では、回答が未記入だった1年生1名を除外して分析を行った。嘘の判断では、発話タイプ F-B⁻、F-B⁺において、分布に有意な偏りがみられた（F-B⁻： $\chi^2(2, N=69) = 15.93, p < .01, \text{Cramer's } V = .48$ ；F-B⁺： $\chi^2(2, N=66) = 9.56, p < .01, \text{Cramer's } V = .38$ ）（Figure 3-1）。発話タイプ F-B⁻（窓を割って、割ったとっていて、“割ってない”）を“嘘”と判断した者は、1年生では68%、3年生、5年生では100%と高かった（残差，1年： $-3.99, p < .01$ ；3年： $-2.34, p < .05$ ）。発話タイプ F-B⁺（窓を割って、割ってないとっていて、“割ってない”）を“嘘”とした者は、1年生で88%、3年生では68%、5年生では45%であった（残差，1年： $2.87, p < .01$ ；5年： $-2.46, p < .05$ ）。F+B⁻（窓を割って、割ってない）とっていて、“割った”）では、分布に有意な偏りはみられなかった（ $\chi^2(2, N=72) = 3.04, n.s., \text{Cramer's } V = .21$ ）。

発話の善悪判断では、発話タイプの主効果がみられた（ $F(2, 108) = 70.11, p < .01, \eta^2 = .56$ ）（Figure 3-2）。HSD法による下位検定の結果、F+B⁻（ $M = 3.33; SD = 0.18$ ）に比べて、F-B⁻（ $M = 1.01; SD = 0.08$ ）、F-B⁺（ $M = 1.18; SD = 0.10$ ）の数値が低かった（ $p < .01$ ）。利己的な嘘の場面では、事実と一致していない発話 F-B⁻、F-B⁺は、事実と一致している発話 F+B⁻に比べて“悪い”と評価された。学年の主効果はみられなかった（ $F(2, 108) = 1.55, n.s., \eta^2 = .01$ ）。一方、発話タイプ×学年の交互作用がみられたが（ $F(4, 108) = 2.69, p < .05, \eta^2 = .04$ ），下位検定の結果、どの発話タイプにおいても年齢の有意な差はみられなかった。

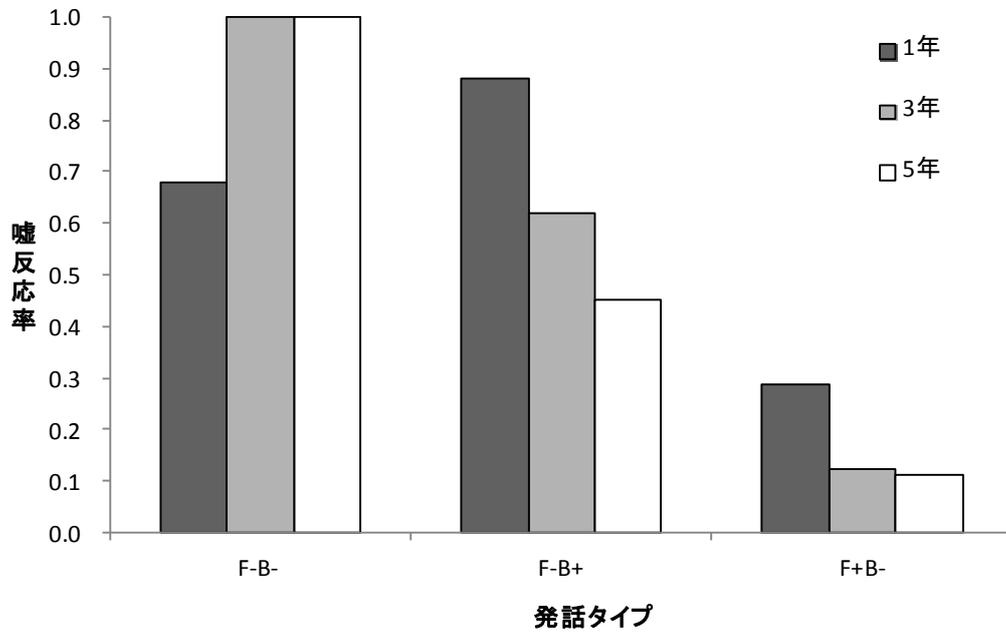


Figure 3-1 利己的な嘘場面(窓)における嘘反応率

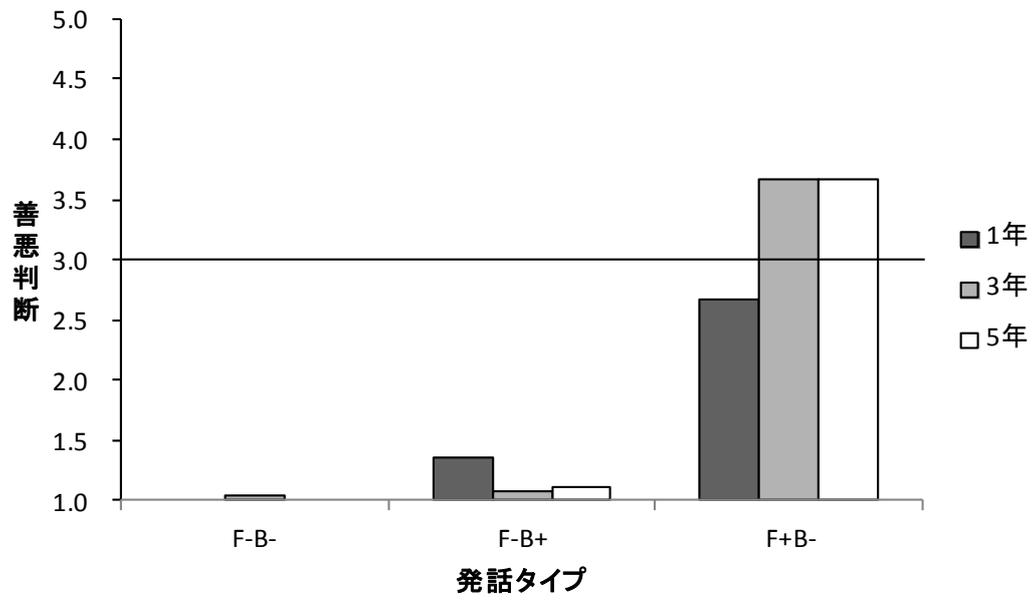


Figure 3-2 利己的な嘘場面(窓)における発話の善悪判断

2) 利他的な嘘 (お金)

利他的な嘘場面における嘘の判断では、発話タイプ F・B+でのみ分布に有意な偏りがみられた ($\chi^2 (2, N=73) = 14.05, p < .01, \text{Cramer's } V = .44$) (Figure 3-3)。発話タイプ F・B+ (他者がお金を盗って、盗っていないとっていて、“盗っていない”) を“嘘”とした者は、1年生で81%、3年生で42%、5年生では30%であった (残差, 1年: 3.65, $p < .01$; 5年: -2.58, $p < .01$)。一方、残りの発話タイプ F・B- (他者がお金を盗って、盗ったとっていて、“盗っていない”), F+B- (他者がお金を盗って、盗っていないとっていて、“盗った”) では、分布に有意な偏りはみられなかった (F・B- : $\chi^2 (2, N=67) = 1.33, n.s., \text{Cramer's } V = .14$; F+B- : $\chi^2 (2, N=70) = 0.57, n.s., \text{Cramer's } V = .09$)。

善悪判断では、発話タイプの主効果がみられた ($F(2,100) = 11.03, p < .01, \eta^2 = .17$) (Figure 3-4)。下位検定の結果, F+B- ($M=2.28; SD=0.21$) に比べて, F・B- ($M=1.19; SD=0.10$), F・B+ ($M=1.40; SD=0.13$) の数値が低かった ($ps < .01$)。事実と一致していない発話 F・B-, F・B+は、一致している発話 F+B-に比べて“悪い”と評価された。学年の主効果もみられた ($F(2,100) = 4.55, p < .05, \eta^2 = .07$)。1年生 ($M=1.23; SD=0.13$) は、3年生 ($M=1.76; SD=0.15, p < .05$), 5年生 ($M=1.83; SD=0.17, p < .01$) よりも数値が低かった。1年生は他の年齢群に比べ、発話を“悪い”と評価したといえる。一方、発話タイプ×学年の交互作用はみられなかった ($F(4,100) = 0.72, n.s., \eta^2 = .02$)。

3) お世辞 (クッキー)

お世辞場面における嘘判断では、発話タイプ F・B-でのみ分布に有意な偏りがみられた ($\chi^2 (2, N=70) = 14.05, p < .01, \text{Cramer's } V = .41$) (Figure 3-5)。発話タイプ F・B- (まずいクッキーを、まずいとっていて、“おいしい”) を“嘘”と判断した者は、1年生では46%、3年生で81%、5年生では89%であった (残差, 1年: -3.35, $p < .01$; 5年: 2.03, $p < .05$)。一方、発話タイプ F・B+ (まずいクッキーを、おいしいとっていて、“おいし

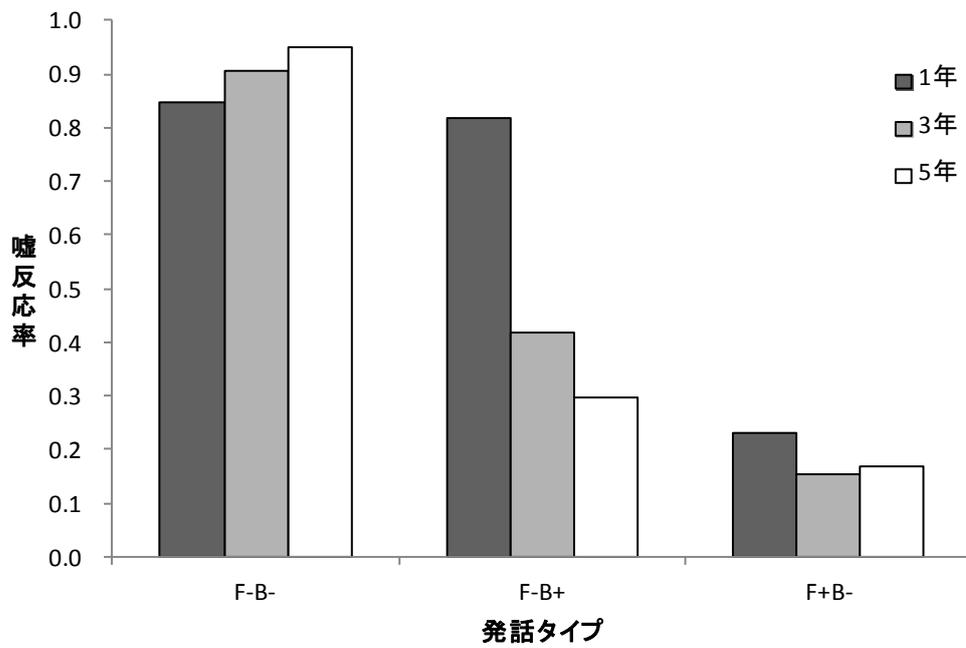


Figure 3-3 利他的な嘘場面(お金)における嘘反応率

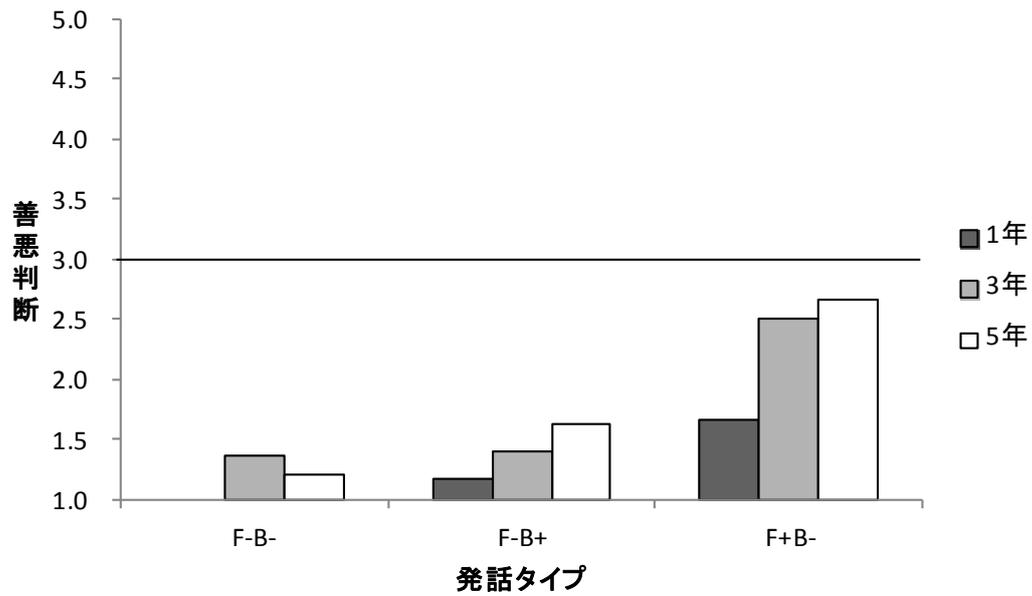


Figure 3-4 利他的な嘘場面(お金)における発話の善悪判断

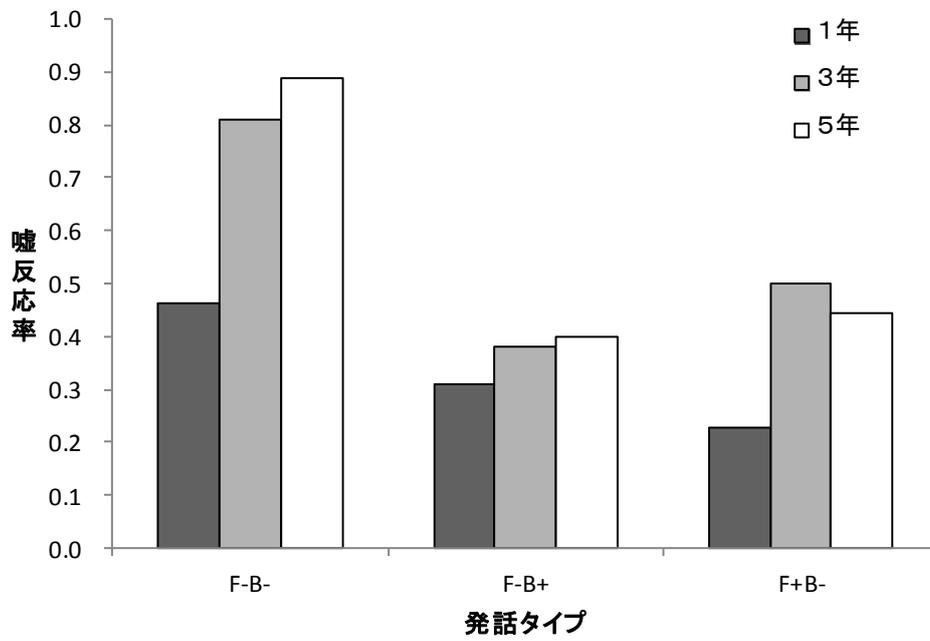


Figure 3-5 お世辞場面(クッキー)における嘘反応率

い”), F+B- (まずいクッキーを, おいしいとっていて, “まずい”) では, 分布に有意な偏りはみられなかった (F-B+: $\chi^2 (2, N=67) = 0.49, n.s., \text{Cramer's } V = .09$; F+B-: $\chi^2 (2, N=73) = 3.96, n.s., \text{Cramer's } V = .23$)。

善悪判断では, 発話タイプの主効果がみられた ($F (2,92) = 8.21, p < .01, \eta^2 = .14$) (Figure 3-6)。F+B- ($M = 1.43; SD = .24$) は, F-B- ($M = 2.63; SD = .18$), F-B+ ($M = 2.42; SD = .24$) よりも数値が低かった ($ps < .01$)。この場面では, 事実と一致している発話 F+B- は, 一致していない発話 F-B- や F-B+ に比べ “悪い” と評価された。その他, 学年の主効果, 発話タイプ×学年の交互作用共に有意な差はみられなかった (学年: $F (2,92) = 0.02, n.s., \eta^2 = .00$; 交互作用: $F (4,92) = 0.82, n.s., \eta^2 = .03$)。

4) 謙遜 (足)

謙遜場面における嘘の判断では, 発話タイプ F-B- でのみ分布に有意な偏りがみられた ($\chi^2 (2, N=66) = 12.78, p < .01, \text{Cramer's } V = .35$) (Figure 3-7)。発話タイプ F-B- (足が速くて, 足が速いとっていて, “遅い”) を “嘘” とした割合は, 1年生で 88%, 3年生で 52%, 5年生では 58%であった (残差, 1年: $2.85, p < .01$)。その他, 発話タイプ F-B+ (足が速いのに, 遅いとっていて, “遅い”という), F+B- (足が速いのに, 遅いとっていて, “速い”という) では分布に有意な偏りはみられなかった (F-B+: $\chi^2 (2, N=73) = 0.43, n.s., \text{Cramer's } V = .08$; F+B-: $\chi^2 (2, N=70) = 0.48, n.s., \text{Cramer's } V = .08$)。

また, 善悪判断については, 発話タイプの主効果, 学年の主効果, 発話タイプ×学年の交互作用全てにおいて有意な差はみられなかった (発話タイプ: $F (2,95) = 1.19, n.s., \eta^2 = .02$; 学年: $F (2,95) = 2.53, n.s., \eta^2 = .05$; 交互作用: $F (4,95) = 0.60, n.s., \eta^2 = .02$) (Figure 3-8)。

5) 冗談 (葉っぱ)

冗談場面における嘘の判断では, 発話タイプ F-B- (葉っぱが落ちて, 葉っぱだと思って

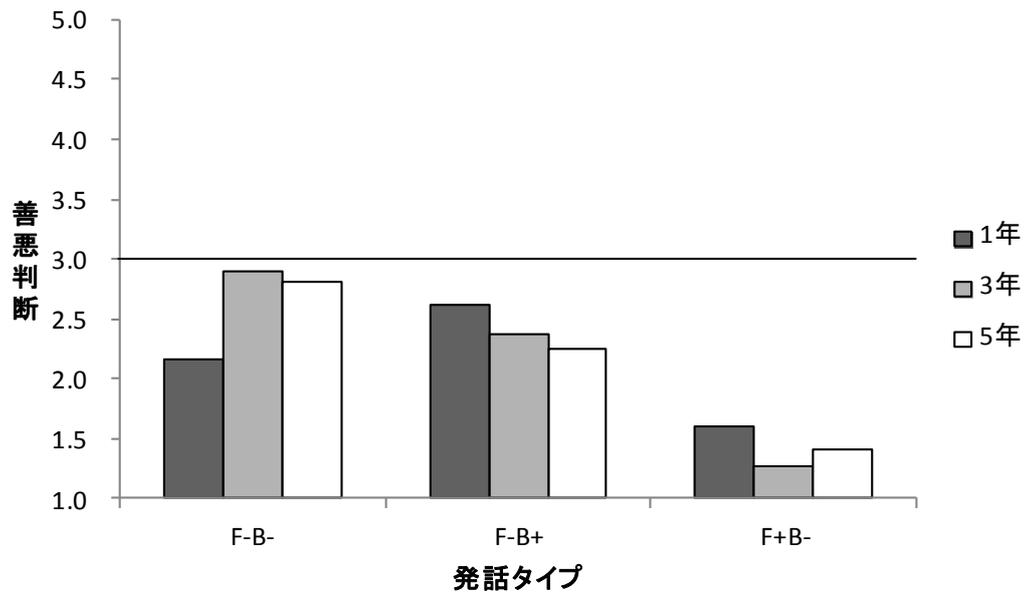


Figure 3-6 お世辞場面(クッキー)における発話の善悪判断

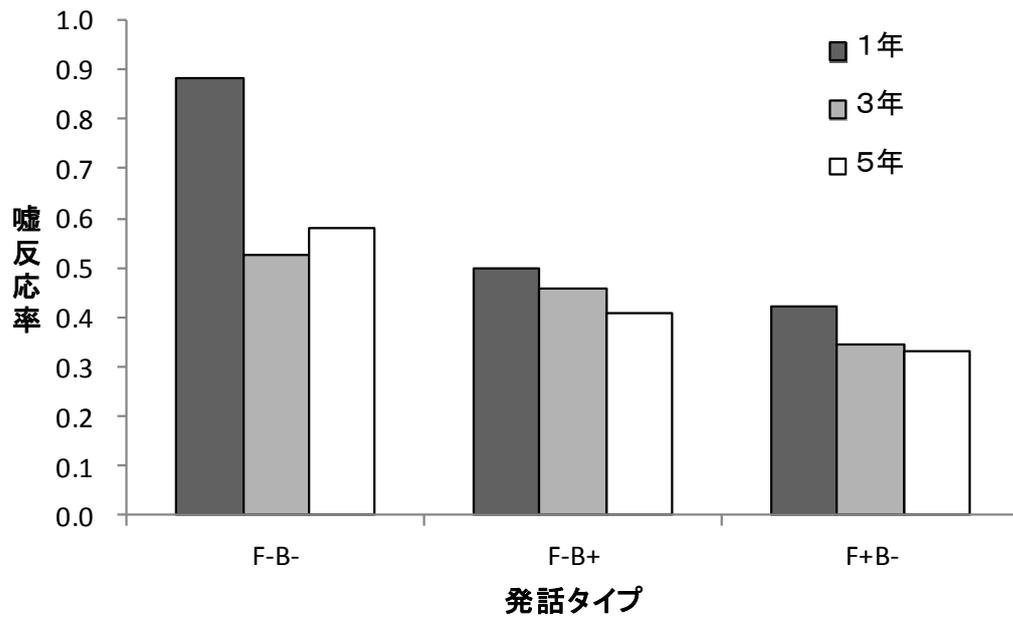


Figure 3-7 謙遜場面(足)における嘘反応率

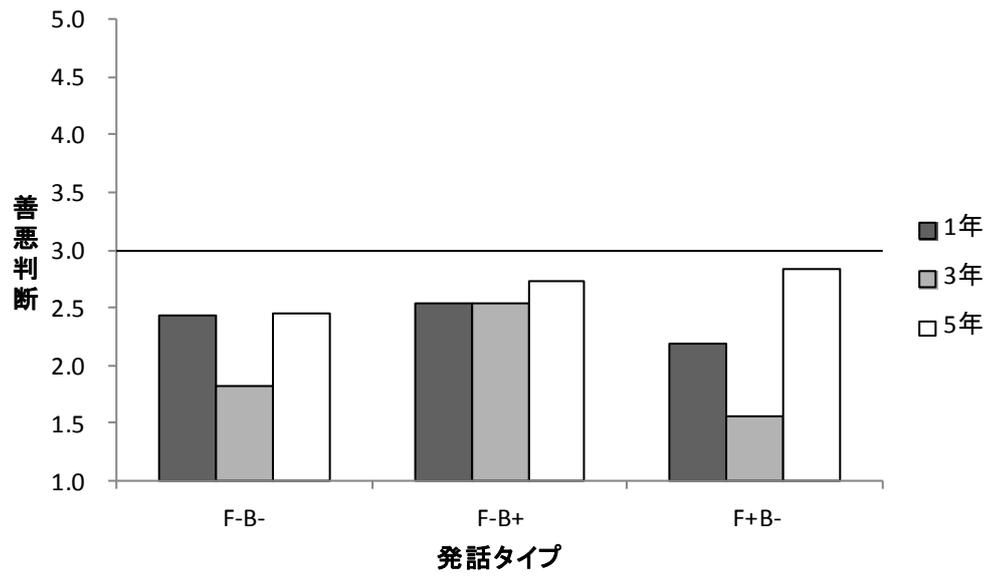


Figure 3-8 謙遜場面(足)における発話の善悪判断

いて、“蜘蛛”), F-B+ (葉っぱが落ちたのを, 蜘蛛だと思っていて, “蜘蛛”), F+B- (葉っぱが落ちたのを, 蜘蛛だと思っていて, “葉っぱ”) 全てにおいて分布に有意な偏りはみられなかった (F-B- : $\chi^2 (2, N=73) = 5.97, n.s., \text{Cramer's } V = .29$; F-B+ : $\chi^2 (2, N=68) = 2.87, n.s., \text{Cramer's } V = .21$; F+B- : $\chi^2 (2, N=66) = 1.68, n.s., \text{Cramer's } V = .16$) (Figure 3-9)。

善悪判断では, 発話タイプの主効果がみられた ($F (2,41) = 5.21, p < .05, \eta^2 = .19$) (Figure 3-10)。F+B- ($M = 2.17; SD = 0.22$) に比べて, F-B- ($M = 1.38; SD = 0.12, p < .05$), F-B+ ($M = 1.31; SD = 0.27, p < .01$) は数値が低いことが示された。葉っぱ場面では, 事実と一致していない発話 F-B-, F-B+の方が, 事実と一致している発話 F+B-に比べ“悪い”と評価された。学年の主効果, 発話タイプ×学年の交互作用共に有意な差はみられなかった (学年 : $F (2,41) = 0.65, n.s., \eta^2 = .03$; 交互作用 : $F (4,95) = 0.57, n.s., \eta^2 = .04$)。

3-3. 全体的な比較

これまでの分析の結果より, 同じ“発話タイプ”であっても, “場面”によっては嘘と判断される割合に違いがある事が示された。さらに, 年齢により, 同じ“発話タイプ”を“嘘”と判断するか, “嘘以外”と判断するかが異なる事が示された。全場面の発話タイプについて, 学年ごとに“嘘”反応率を Figure 3-11, 3-12, 3-13 に示した。ここではまず 5 年生の回答を“嘘”反応が多い順に上から並べた。次に, 5 年生の並びに合わせて, 3 年生, 1 年生の“嘘”反応を示した。これにより, 年齢群の発達的な回答傾向の類似性を視覚的に検討することが可能である。まず 3 年生, 5 年生では, 発話タイプ F-B-を“嘘”と判断する割合が多く, 1) 利己的な嘘, 2) 利他的な嘘, 3) お世辞の 3 つの場面でこの傾向がみられた。一方, 4) 謙遜, 5) 冗談場面では, 発話タイプ F-B-は必ずしも“嘘”とは判断されなかった。反対に, 1 年生では, 4) 謙遜, 5) 冗談場面では, 他の年齢群に比べて発話タイプ F-B-を“嘘”と判断する割合が高い。また, 2) 利他的な嘘場面でも, 1

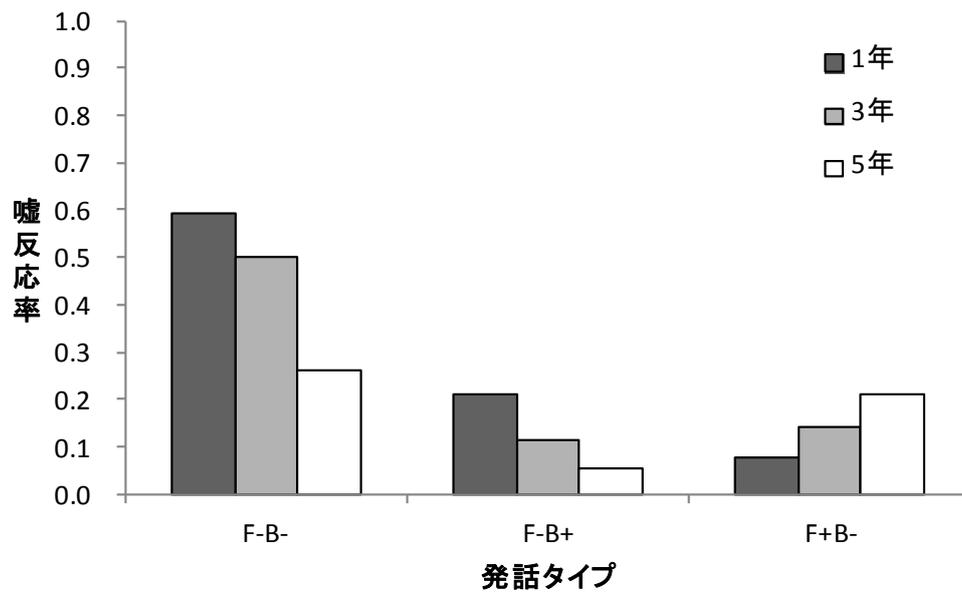


Figure 3-9 冗談場面(葉っぱ)における嘘反応率

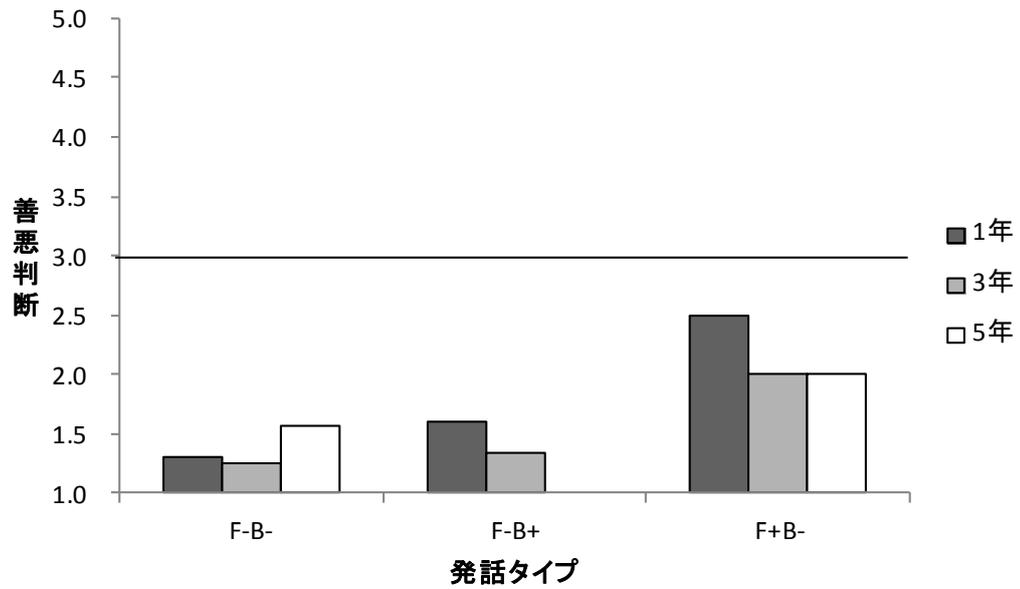


Figure 3-10 冗談場面(葉っぱ)における発話の善悪判断

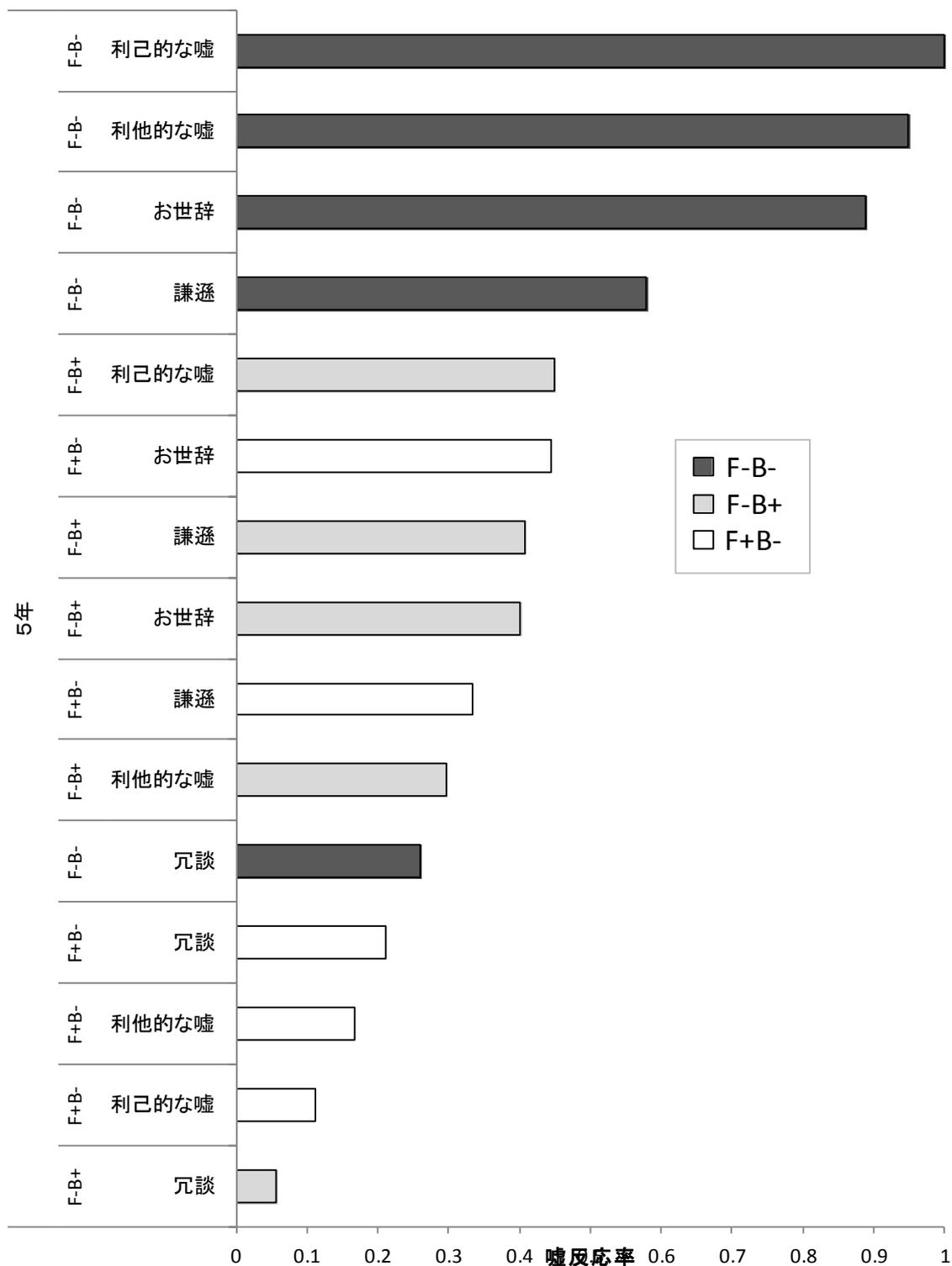


Figure 3-11 嘘反応率(5年生)

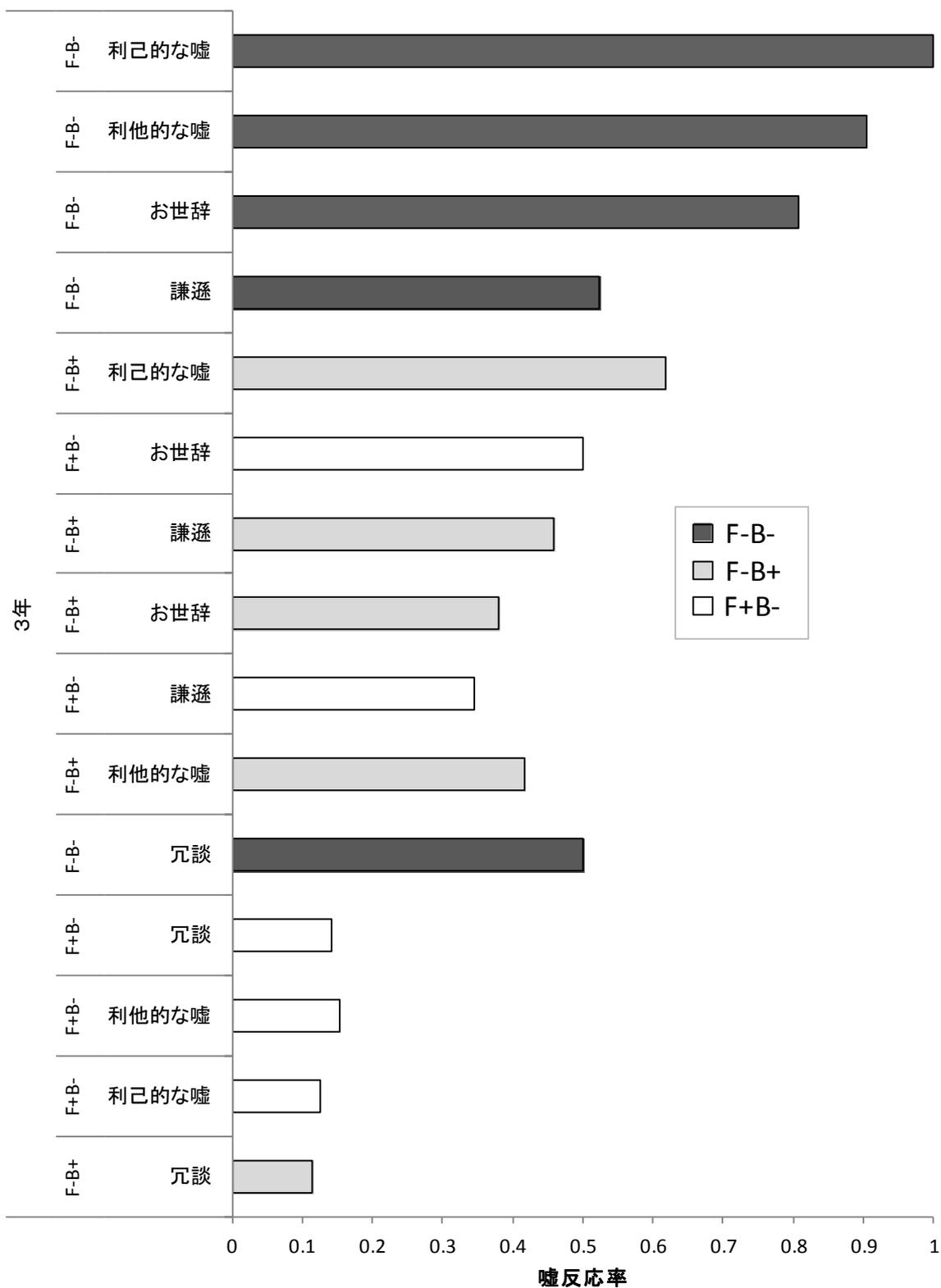


Figure 3-12 嘘反応率(3年生)

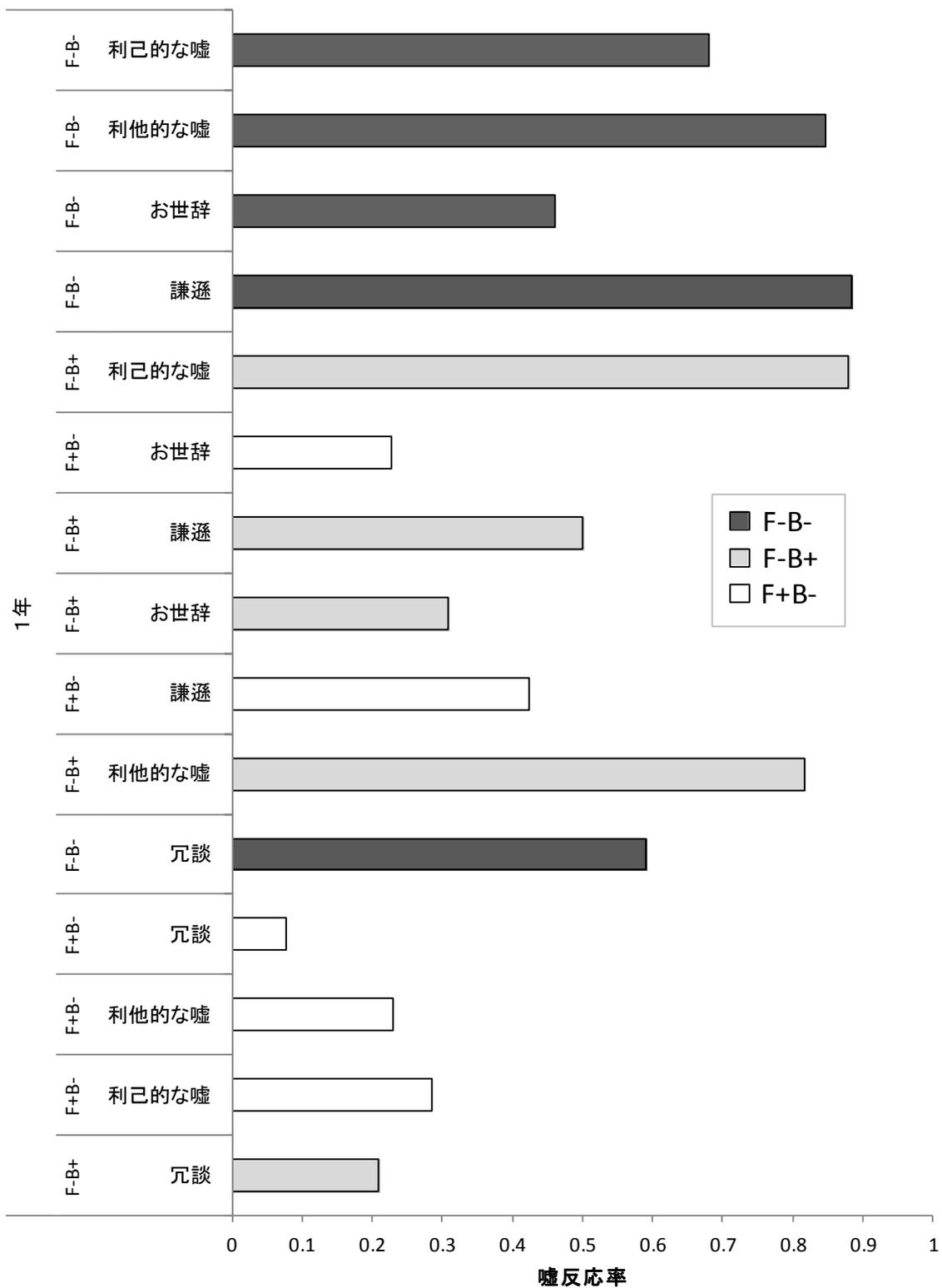


Figure 3-13 嘘反応率(1年生)

年生では他の年齢群に比べて、発話タイプ F-B+を“嘘”と判断する割合が高い。これは、1年生では、他の年齢群に比べ、嘘の判断において“事実性”が重視される可能性を示唆している。3年、5年生では類似した回答の傾向がみられるのに対して、1年生の回答は、他の2つの年齢群とは異なるものであったことが解る。

第4節 考察

本章では、“事実”や“信念”に一致する、あるいは反する発話（発話タイプ）が“嘘”と判断されるか否かについて、心の理論獲得後の児童期の子どもを対象として検討を行った。また、“事実”、“信念”といった認知的な要因に加えて、発話がなされる“文脈／場面”などの社会的な要因が、児童期の子どもによる嘘の理解にどのように関わっているのかについても検討を行った。以下に、その結果を概観し考察を行う。

まず、発話タイプの効果について示す。本章では、発話が事実と信念の両方に反する場合（F-B-）には、年齢に関わらず“嘘”と判断される割合が高いことが示された。一方、一般的には“間違い”“思い違い”と分類されるような、事実には反するが、信念とは一致している発話（F-B+）では、学年によって判断に違いがみられた。1年生は、この発話を“嘘”と判断したのに対して、3、5年生では“間違い”であると判断する割合が高いことが示された。これらの結果から、年齢の低い子どもは、事実には反する発話を“嘘”であると理解しているのに対して、9歳頃には、事実には反していたとしても、信念と一致していればその発話は“嘘”とは判断されない可能性があることが示された。次に、事実とは一致しているが、信念に反する発話（F+B-）は、年齢に関わらず、“本当”と判断される傾向がみられた。ここでは、“信念”よりも“事実”が重視され、“事実”と一致しているという点で、“本当”と判断された可能性がある。しかし、この発話タイプは、現実場面ではおこりにくい（伊藤，1996）。そのため、発話タイプ F+B-についての判断は、児童期の子どもにとっては難しい課題であった可能性が考えられる。

次に、善悪判断の結果について示す。利己的な嘘、利他的な嘘、冗談の3つの場面において、事実と反する発話 (F・B-,F・B+) は、事実と一致する発話 (F+B-) に比べ、“悪い”と判断されることが示された。しかし、お世辞場面では、その反対の結果が得られた。お世辞場面では、事実と一致する発話 (F+B-) は、事実と反する発話 (F・B-,F・B+) に比べ、“悪い”と判断された。お世辞場面では、事実と反する発話タイプ (F・B-,F・B+) の発話内容は“おいしい”であったのに対して、事実と一致する発話タイプ (F+B-) の発話内容は“まずい”であった。ここでは、発話が事実や信念と一致するか否かといった発話の構造ではなく、クッキーをくれた相手に対して“まずい”と発言するという“発話内容”が問題とされた可能性が高い。つまり、もらったクッキーについて“まずい”という発話内容は、“おいしい”という発話内容よりも“悪い”と判断されたと考えられる。最後に、謙遜場面では、善悪判断において、発話タイプによる評価の違いはみられなかった。

善悪判断では、年齢による効果はほとんどみられなかった。唯一、利他的な嘘場面では、3, 5年生に比べて、1年生が発話を“悪い”と判断する傾向がみられた。これは、利他的な嘘の場面が“お金を盗む”という犯罪行為に関連する内容であったためと考えられる。先行研究でも、年齢の低い子どもの嘘の判断は、意図や信念を考慮した判断によるものではなく、発話がよいか、悪いかに基づいている可能性が示唆された (Wimmer *et al.* 1984, 1985 など)。本研究でも、善悪を基準とした判断の影響を受けやすい1年生では、発話の構造 (事実, 信念) よりも場面の深刻さが重視され、他の学年に比べて発話を“悪い”と評価した可能性が考えられる。

善悪判断の分析では、発話を“嘘”と判断した参加者のみを分析の対象とした。これは、“嘘”と判断された発話であっても、“よい嘘”、“悪い嘘”といったように、善悪判断においては違いがみられるかどうかを検討するためであった。結果より、1つの場面 (利己的な嘘) を除き、どの場面においても善悪判断の評定の平均値は3 “どちらでもない” 以下であった。つまり、発話が“嘘”と判断された場合には、その発話は“悪い”という方向の評価がなされる傾向がみられた。統計による差はみられなかったものの、善悪判断の平

均値が3以上であったのは、利己的な嘘場面の発話タイプ F+B-における3, 5年生による評価のみであった。この発話タイプでは、主人公が、自分は窓を割っていないと思っているにも関わらず、“窓を割った”と答えるような内容である。Fu, Xu, Cameron, Heyman, & Lee (2007) は、中国の7から11歳の子どもの対象とした実験において、子どもの年齢が上がるにつれ、個人や自己の利益のための嘘よりも、集団の利益のための嘘を好ましいとするという結果を示している。本研究の3, 5年生も、主人公が自分では割っていないと思っている窓を自己犠牲で“割った”と答えたと解釈した可能性があり、この発話がその他の発話に比べて“よい”と判断されたとも考えられる。

次に、場面ごとの結果について考察を行う。利己的な嘘場面では、3, 5年生の全ての参加者が発話タイプ F-B-を“嘘”と判断した。自分が犯した悪事について嘘をつくような場面では、3年生頃になれば、事実、信念の両方と一致しない発話を“嘘”と判断するようになる。一方、発話タイプ F-B+を“嘘”としたのは、1年生では88%, 3年生で62%, 5年生で45%であった。1年生では、信念よりも事実と発話が一致しているか否かが重視され、事実と反するものは“嘘”と判断される。一方、この発話タイプを“間違い”としたのは、1年生では12%, 3年生で29%, 5年生では40%であった。5年生では、信念に基づいた判断が行われ、事実と反していても信念と一致していれば、発話は必ずしも“嘘”とは判断されないことが示された。

利他的な嘘（お金）場面では、発話タイプ F-B-を“嘘”と判断した割合において、学年による違いはみられなかった。発話タイプ F-B+では、1年生が発話を“嘘”と判断したのに対して、3, 5年生ではこの発話タイプを“間違い”と判断する割合が多いことが示された。これは、利己的な嘘場面と同様、1年生では“事実性”、3年生、5年生では“信念”に基づいた判断がなされることを示唆している。しかし、利己的な嘘場面に比べ、利他的な嘘場面では、1, 3年生の判断が5年生の判断に近い傾向がみられた（1年生のF-B-に対する“嘘”判断や、3年生のF-B+を“間違い”と判断する割合など）。この場面は、“お金を盗む”という犯罪行為に関連する内容であるという点で、他の場面に比べ深刻である。利己的な

嘘場面では、発話タイプ F-B を“嘘”と判断する割合が他の学年に比べて少なかった1年生も、利他的な場面では、場面の内容が“悪い”という要素をより含んでいるという点から、発話を“嘘”と判断する割合が高まった可能性が考えられる。Siegall & Peterson (1996) は、食品の安全性など生存の危機に関わる場面であれば、年少児であっても信念に基づいた嘘の判断が可能であることを示している。これらの点から、領域固有の知識が、嘘の判断において、大きく影響を与える可能性があることが示唆された。

予測としては、年少児は“場面”を考慮できず、発話タイプ F-B はどの場面でも“嘘”と判断され、年齢があがるにつれて“嘘”以外の選択肢が増加するであろうと考えていた。しかし、お世辞場面では、発話タイプ F-B を“嘘”とする判断は1年生(46%)よりも3, 5年生で多くみられた(81%, 89%)。これは、回答の選択肢に“お世辞”が項目として含まれていなかったためであると考えられる。また、発話タイプ F-B+ (まずいクッキーをおいしいと思っていて、“おいしい”)を5年生の50%が“本当”と判断した。“おいしい”, “まずい”などの評価は、個人の主観的な事実によって決まる。これらの点で、“事実”と“信念”が一致しない発話タイプでは、“信念”, つまり、“主観的な事実”が“事実”として捉えられた可能性がある。

謙遜場面では、1年生では、発話タイプ F-B を“嘘”と判断する割合が高かった。1年生に比べるとその割合は低いものの、3年生, 5年生でも、少なくとも50%の参加者がこの発話を“嘘”と判断する傾向がみられた。また発話の善悪判断では、学年、発話ともに有意な違いはみられなかった。この場面では、どの発話タイプにおいても、回答が分散した。例えば、Lee *et al.* (1997) では、カナダと中国の子どもによる嘘の判断を比較し、カナダ人の子どもは向社会的行動を隠す嘘はネガティブに、中国人の子どもはポジティブに評価することを示した。また、カナダ人の子どもは、自分の向社会的行動を正直に言うことをポジティブに評価したが、中国の子どもはよいと評価しなかった(同様の結果に Lee, Xu, Fu, Cameron, & Chen, 2001)。Lee らによれば、このような謙遜効果(modesty effect)は児童期を通して獲得されるという。なお、Lee らは、自分が行った向社会的行動(e.g.,

部屋を片付ける、お金を落とした友人に気付かれないようにお金を貸してあげる)を言わないという謙遜を問題にしたが、本章では自己卑下 (self-derogation) を問題にした。日本では、欧米諸国に比べて、自分が優れているという情報を提示する自己肯定よりも、自分は劣っているという情報を提示する自己卑下を行う傾向があるという (村本・山口, 1997)。また、吉田・古城・加来 (1982) によれば、謙遜や自己卑下による自己呈示方法を用い始めるのは、日本の子どもでは、小学2年生頃からであり、その意味が適切に理解されるのは5年生頃からであるといわれている。しかし、本調査では、善悪判断でも、5年生において発話を“よい”と判断する傾向はみられなかった。これは、お世辞場面と同様、選択肢に“謙遜”という項目がなかった点が問題としてあげられる。本調査では、現場の教員からの指摘により、“謙遜”という言葉の理解は児童期の子どもには難しいだろうという配慮のもとに、“謙遜”の選択肢を設けなかったが、その選択肢が含まれていれば、学年差や善悪判断における評価にも違いが生じた可能性も十分に考えられる。

最後に、冗談場面では、発話タイプ F-B-を“嘘”と判断する割合において、学年による有意な差はみられなかった。しかし、最頻反応から考えると1年、3年では59%、50%と半分の子どもがこの発話タイプを“嘘”と判断していたことが解る。それに対して、5年生では、これらの回答は26%であった。また、この発話を“冗談”と分類した参加者の割合は、1年生で27%、3年生で42%、5年生で67%であった。冗談は聞き手が事実を知っていることが前提となる (林, 2002; Leekam, 1991)。林 (2002) は、小学校1年生から6年生を対象とし、二次的的信念課題に通過するにつれ、嘘と冗談を区別できる割合が高くなること、9歳頃までに嘘と冗談を区別できるようになることなどを示した (同様の結果に Leekam, 1991)。本研究では、年齢による判断の違いはみいだせなかった。これは、本研究で用いた物語の内容が、先行研究の物に比べて“冗談”をいう場面であると理解されにくかった可能性もあると考えられる。ただし、本研究においても、統計的な違いはみられなかったものの、年齢が上がるにつれ発話タイプ F-B-を“冗談”と判断する割合が増加する傾向がみられた。一方、発話タイプ F-B+では、1年生の38%、3年生の85%、5年生

の72%が発話を“間違い”と判断した。嘘と単なる間違いの弁別は一次信念が獲得後に可能となると考えられる。本調査でも、3年生の多くは、発話タイプ F・B+において一次信念の理解に基づいた判断を行うことができた。

以上、本研究では次のような事が明らかになった。全体的に、1年生はどの場面においても、事実と一致しない発話を“嘘”と判断する傾向があった。一方、5年生になれば、事実ではなく、発話が信念と一致しているかどうかに基づいた判断が行われるようになる。3年生の判断は、5年生の判断に近いが、1年生と5年生の間の過渡期であることを示すような傾向がみられた。また、場面の影響については、1年生は場面に関わらず、事実と異なる発話を“嘘”と判断する傾向があるのに対して、3年生、5年生は、同じ発話タイプであっても、場面によりその発話の分類は異なる傾向がみられた。これらの結果から、認知的な要因である“信念”を考慮した判断、社会的な要因である“場面”を考慮した判断共に、9歳頃から始まる可能性が示唆された。

本章の制約としては以下の2点があげられる。1つ目に、先行研究より、子どもは、発話が“よい”か、“悪い”かを適切に判断できるにも関わらず、発話を分類するように求めた場合には、単なる間違いも“嘘”と判断する傾向が高いことが示されている (Bussey, 1991; 1992; Stricharts & Burton, 1990; Wimmer *et al.*, 1984)。Wimmer *et al.* (1984) は、このように年少の子どもが、意図や信念に関わらず、事実と反した発話を全て“嘘”と判断する傾向を語彙的实在論 (lexical realism) と呼んだ。本調査でも、先行研究と同様の現象がみられた。ただし、Siegal & Peterson (1996) は、この語彙的实在論は実験の手続きにおける質問の仕方によるものだと主張している。彼らは、“嘘”か、“嘘ではない”かの二者択一を用いた場合には、語彙的实在論が生じやすくなることを示している。本研究では、質問方法の影響を減らすため、“嘘”以外の選択肢を含め、調査を実施した。しかし、“お世辞”、“謙遜”といった選択肢は、子どもには難しいという理由で含めなかった。そのため、本研究では、“嘘”以外の選択肢を含めたとしても、それでも“嘘”が選ばれる割合についてしか言及できない。例えば、伊藤 (1999) では、発話の意図について、

相手を騙そうと思った（欺瞞条件）、相手を喜ばせようと思った（気づかい条件）、騙すつもりはなかったのに言ってしまった（上の空条件）などの3つの条件を含めて、4、5、6歳児を対象とした実験を行っている。これらの実験のように、今後は“お世辞”や“謙遜”などについても、子どもに解りやすい形で説明するような手続きを含めた上で、嘘の判断における場面の影響についての検討を進める必要があると考えられる。

2つ目に、本章のお世辞場面では、信念や事実に一致するか否かといった発話の構造よりも、もらったクッキーについて“まずい”，もしくは，“おいしい”という“発話内容”を基準とした善悪判断の評価がなされた。“発話内容”は、話者の意図や動機を推測する上で重要な情報となると考えられる。例えば、利己的な嘘場面を例に挙げると、“割ったと思っている窓を‘割っていない’と答える”場合と“割っていないと思っている窓を‘割った’と答える”場合など、構造上は、どちらも信念に反する発話であっても、“割った”と答える場合と“割っていない”と答える場合では、発話の意図や動機が異なる印象を受ける。しかし、“発話内容”に基づいて話者の意図や動機を推測するためには、より高次の信念の理解が必要となる。そのため、これらの要因を含めた検討は、児童期の子どもには難しい可能性がある。第4章では、これらの2つの制約を改善し、より年齢の高い子どもを対象とした検証を行う。

第4章 場面や発話内容の違いが嘘の判断に及ぼす影響

本章では、第3章での結果を踏まえ、これまで検討してきた、“事実”、“信念”、“場面”などの要因に“発話内容”を加え、中学生以上の参加者を対象とし、発話が“嘘”と判断される条件について検討を行った。“発話内容”といった要因は、より高度な推論、言語理解を要すると考えられる。また、要因数が増えたことにより、課題が複雑になり、年齢の低い子どもを対象とした検証は難しい可能性がある。そのため、本章では、大学生（第1節）、そして、中学生とその保護者を対象に調査を行った（第2節）。また第3章では、大学生、中学生、保護者の反応に年齢差がないことを確認した上で、第1節、第2節の参加者を合わせ、“発話内容”が嘘の判断に及ぼす影響について再分析を行った（第3節）。

第1節 大学生を対象とした調査（調査1）

1-1. 目的

第3章では、心の理論獲得後の児童期の子どもを対象として、“嘘”、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”の場面において、事実や信念と一致する、もしくは、反する発話が“嘘”と判断されるかどうかについて検討を行った。まず、“事実性”や“信念の理解”などの認知的な要因については、7歳児は事実と反する発話は“嘘”と判断する傾向があった。一方、11歳頃には、事実ではなく、信念と一致しているかどうかに基づいて嘘の判断が行われるようになり、嘘の理解において“事実性”よりも“信念”が重視されるようになる。9歳児でも、“信念”が重視される傾向がみられたが、その判断は7歳児と11歳児の過渡期にある傾向がみられた。次に、“場面”などの社会的な要因の影響については、7歳児は場面に関わらず事実と異なる発話を“嘘”と判断するのに対して、9歳、11歳児は、場面によって発話の判断が異なる傾向がみられた。このように、幼児期以降の嘘の概念理解では、9歳頃を境に“事実性”よりも、“信念”が重視されるようになり、加えて、“場面”などの

社会的な要因が考慮され始めるようになる。9歳頃には嘘とその他の虚偽の発話を弁別する事が可能になるといえる。これは、先行研究の結果と一致する(林, 2002; Lee et al. 1997; Sullivan et al. 1995 など)。一方で、嘘の理解における社会的な要因は、“文脈/場面”に留まらない。佐藤(1996)でも、示されたように、“パーティーに出席しようと思っていたある人が‘パーティーに欠席する’と行って出席した”場合と、“パーティーに欠席しようと思っていたある人が‘パーティーに出席する’と行って欠席した”場合など、同じ構造をもちながらも“発話内容”が異なる発話文において、“嘘”と判断される割合が異なる場合がある。本研究の第2章でも、児童期の子どもにおいて、お世辞場面では、信念や事実に一致するか否かといった発話の構造よりも、もらったクッキーについて“まずい”というか、“おいしい”というかなど“発話内容”を基準とした善悪判断の評価がなされた。

本節では、第1章にも示した Sweetser (1987) のモデルにもあるように、1) 情報提供が重要な役割を果たす場面での“嘘”、2) 礼儀や円滑なコミュニケーションを必要とする場面での“お世辞”、“謙遜”、“冗談”を材料として用いる。加えて、大学生を対象とし、典型的な発話内容(例、“お世辞”では、“まずいと思っているクッキーを‘おいしい’という”)と、そうではない内容(“おいしいと思っているクッキーを‘まずい’という”)を“発話内容”とし、“事実”や“信念”と一致する、もしくは、反するという意味では同じ構造を持つ発話が、“発話内容”により“嘘”と判断される割合に違いが生じるかどうかについても検討を行う。

1-2. 方法

1) 参加者

実験参加者は、札幌市内の大学に通う大学生72名(男性37, 女性34, 未記入1; $M = 19.27$, $SD = \pm 1.17$)であった。

2) 材料

本研究では，“場面”，“発話タイプ”，“発話内容”の3つの要因を操作して材料を作成した。

場面 1つ目の要因は“場面”であった。第3章の課題と同様に、1) 嘘（教室の窓を割る）、2) お世辞（クッキーをもらう）、3) 謙遜（徒競争をする）、4) 冗談（お父さんの背中に何か落ちてくる）の4種類の場面を設けた。1) 嘘場面は、情報提供が重要な役割を果たす場面における典型的な嘘の発話として検討できる。一方、2) お世辞、3) 謙遜、4) 冗談の場面は、礼儀や円滑なコミュニケーションを目的とした発話に分類される。“場面”は、参加者間要因であり、参加者には4種類の場面のうち1つをランダムに割り当てた。“場面”で用いる物語や発話の内容について、Table 4-1に示した。

発話タイプ 各場面では、主人公が4タイプの発話を行った。“発話タイプ”についても、第3章と同様に、発話が信念と事実の両方と一致するもの（F+B+）、発話が信念とは一致するが、事実とは一致しないもの（F+B-）、発話が信念とは一致しないが、事実とは一致するもの（F+B-）、そして、発話が信念と事実の両方と一致しないもの（F-B-）を設けた（Table 4-1）。“発話タイプ”は、参加者内要因であり、参加者には各場面で4種類の発話タイプについて判断を求めた。

（以下、事実、信念、発話を下線で示す。）

りょうちゃんは、教室でボール遊びをして遊んでいました。りょうちゃんは間違ってボールを窓ガラスに当てて割ってしまいました（事実：F）。先生に誰が窓を割ったのか聞かれて、りょうちゃんは窓を割ったと思っている（信念：B）のに、先生に「私は、窓を割っていません。」（事実にも信念にも一致しない発話：F-B-）といいました。

Table 4-1 場面と発話タイプ一覧

場面	発話内容	発話タイプ			
		F+B+	F+B-	F+B+	F+B-
1) 嘘	りょうちゃん、教室でボール遊びをして遊んでいました。りょうちゃんは手を滑らせ、ボールが窓ガラスに当たり、窓を割りました。 先生に誰が窓を割ったのか聞かれて、りょうちゃんは…。	割っていない	割っていない	割っていない	割った
		事実 窓を「割っていない」 (典型性)	信念 割っていない	信念 割っていない	信念 割った
2) お世辞	よっちゃんはクッキーを焼きました。 そのクッキーはともまずい味でした。 よっちゃんはりょうちゃんにクッキーをあげました。 そして、よっちゃんはりょうちゃんにクッキーはどうか聞きました。 りょうちゃんは…。	おいしい	おいしい	おいしい	まずい
		事実 クッキーは「おいしい」 (典型性)	信念 おいしい	信念 おいしい	信念 まずい
3) 謙遜	よっちゃんは徒競走で1位になりました。 よっちゃんは、1位になったことをとてもうれしく思いました。 よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね」といいました。 よっちゃんは…。	遅い	遅い	遅い	速い
		事実 自分は「足が遅い」 (典型性)	信念 遅い	信念 遅い	信念 速い
4) 冗談	よっちゃんは、ゲーミングをしているお父さんと一緒に庭にいました。 すると、葉っぱがお父さんの背中に落ちました。 よっちゃんは…。	蜘蛛	蜘蛛	蜘蛛	葉っぱ
		事実 お父さんの肩に「蜘蛛が付いている」 (典型性)	信念 蜘蛛	信念 蜘蛛	信念 葉っぱ

発話内容 佐藤（1996）にならい、各場面に印象が異なると考えられる2種類の“発話内容”を設けた。まず、1つ目の種類では、1) 嘘をつく、2) お世辞を言う、3) 謙遜する、そして、4) 冗談を言うように発話が設定された。具体的な発話内容は、1) 嘘場面では教室の窓ガラスを“割っていない”、2) お世辞場面ではもらったクッキーを“おいしい”、3) 謙遜場面では自分は足が“遅い”、4) 冗談場面ではお父さんの背中についているのは“蜘蛛”であった。これらの発話は、“嘘”、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”として、一般的に対人場面で用いられる発話の種類であるため“典型性”の発話と名付けた。一方、構造は同じであるにも関わらず、“典型性”の発話内容と裏表の形になるように設定したために、発話が“嘘”、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”という内容にはならないような発話を“非典型性”の発話とした。“非典型性”の発話内容は、1) 嘘場面では教室の窓ガラスを“割った”、2) お世辞場面ではもらったクッキーを“まずい”、3) 謙遜場面では自分は足が“速い”、4) 冗談場面ではお父さんの背中についているのは“葉っぱ”であった。“典型性”、“非典型性”の発話は、発話タイプの構造が同じであるにも関わらず、発話内容が異なることによって聞き手に与える印象が異なることが予測される。“発話内容”は、参加者内要因であり、参加者は割り当てられた場面の4種類の“発話タイプ”について、それぞれ“典型性”“非典型性”の2種類の“発話内容”、合計8つの発話に回答した。

3) 手続き

本調査は質問紙法により実施した。心理学の調査を体験するという授業の一環として、授業時間の終わり30分前に調査用紙を配布し、任意で実施された。質問用紙は3ページで構成された。表紙には、調査に関する説明、教示が示された（付録12, 13）。2ページ目以降に、“発話内容”が異なる2種類の短い物語が示され、それぞれの物語の中で主人公が行った4種類の発話タイプの計8個の発話について、“真実”、“嘘”、“謙遜”、“お世辞”、“間違い”、“冗談”、“利他的な嘘”、“その他”のどれに当てはまるか、選択を求めた。さらに、各発話を1“望ましくない”～5“望ましい”の5段階で評定するよう求めた。

1-3. 結果

1) 全体的傾向

各場面の発話タイプについての参加者の判断を Table 4-2 に示した。それぞれの発話タイプにおける最頻値を下線で示した。発話タイプ F+B+ では、“場面”，“発話内容”に関わらず、発話は“真実”と判断される割合が高い傾向がみられた。次に、発話タイプ F-B+ では、1) 嘘場面と 4) 冗談場面においては、“発話内容”に関わらず、“間違い”と判断される割合が多い。それに対して、2) お世辞場面では、“発話内容”に関わらず、80%以上の参加者が発話を“真実”と判断する傾向がみられた。3) 謙遜場面では、“非典型性”の発話内容で判断にばらつきがみられた。一方、発話タイプ F+B-、F-B- では、場面によって発話の判断にばらつきがみられた。これらの発話タイプについては、以降の場面の効果についての分析結果の部分において詳しく述べる。

2) 発話内容の効果について

“発話内容”では、“典型性”の発話と、“非典型性”の発話の2種類を設けた。発話内容の効果について、各場面の発話タイプごとに2（発話内容：典型性，非典型性）×2（回答：嘘，その他）のマクネマーの検定を行った。その結果、4（場面）×4（発話タイプ）の計16の分布表のうち、3つの分布表でのみ、有意な偏りがみられた（嘘 F-B- : $p < .05$; 冗談 F+B- : $p < .05$; 冗談 F-B- : $p < .01$ ）(Table 4-3)。1) 嘘場面の発話タイプ F-B- では、窓を割って、割ったと思っているのに“割っていない”という発話内容を“嘘”，窓を割っていないくて、割っていないと思っているのに“割った”という発話内容を“その他”と判断した参加者の割合 (.59) は、その反対の前者を“その他”，後者を“嘘”と判断した参加者の割合 (.06) に比べて有意に高いことが示された ($p < .01$)。つまり、同じ構造を持つ発話タイプであっても、発話内容（典型性，非典型性）によって、“嘘”と判断される割合が異なることが示された。

Table 4-2 発話タイプごとの回答カテゴリの度数(大学生)

	嘘						n
	真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い	利他的な嘘	
F+B+	嘘	16 (.94)				1 (.06)	17
	お世辞	18 (1.00)					18
	謙遜	18 (.95)			1 (.05)		19
	冗談	17 (.94)			1 (.06)		18
非典型	嘘	17 (1.00)					17
	お世辞	18 (1.00)					18
	謙遜	15 (.79)		2 (.11)		2 (.11)	19
	冗談	18 (1.00)					18
F-B+	嘘	1 (.06)	7 (.41)			8 (.47)	17
	お世辞	16 (.89)			1 (.06)		18
	謙遜	2 (.11)	12 (.63)		3 (.16)	2 (.11)	19
	冗談	9 (.50)			9 (.50)		18
非典型	嘘	3 (.18)	3 (.18)		2 (.12)	9 (.53)	17
	お世辞	16 (.89)				2 (.11)	18
	謙遜	3 (.16)	7 (.37)	1 (.05)		4 (.21)	19
	冗談	5 (.28)				13 (.72)	18

注1. ()内は割合を示した

注2. 各行における最頻値を下線で示した

Table 4-2 発話タイプごとの回答カテゴリの度数(大学生:つづき)

	嘘							n
	真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い	利他的な嘘	その他	
F+B-	嘘	8 (.47)	1 (.06)			7 (.41)	1 (.06)	17
	お世辞		9 (.50)		2 (.11)		7 (.39)	18
	謙遜	3 (.16)	4 (.21)		6 (.32)	2 (.11)	3 (.16)	19
	冗談	4 (.22)		8 (.44)		5 (.28)	1 (.06)	18
F+B-	嘘	4 (.24)	1 (.06)		1 (.06)		7 (.41)	17
	お世辞	5 (.28)		9 (.50)	1 (.06)	2 (.11)	1 (.06)	18
	謙遜	5 (.26)	2 (.11)	6 (.32)		3 (.16)	2 (.11)	19
	冗談	13 (.72)		1 (.06)		1 (.06)	2 (.11)	18
F-B-	嘘	13 (.76)	1 (.06)			1 (.06)	1 (.06)	17
	お世辞		10 (.56)		1 (.06)		7 (.39)	18
	謙遜	1 (.05)	1 (.05)		15 (.79)		2 (.11)	19
	冗談	5 (.28)		13 (.72)				18
F-B-	嘘	4 (.24)			1 (.06)	1 (.06)	9 (.53)	17
	お世辞	5 (.28)		11 (.61)		1 (.06)	1 (.06)	18
	謙遜	5 (.26)	1 (.05)	5 (.26)		2 (.11)	4 (.21)	19
	冗談	14 (.78)	1 (.06)	1 (.06)			2 (.11)	18

注1. ()内は割合を示した

注2. 各行における最頻値を下線で示した

Table 4-3 各場面における発話内容の違いによる嘘・その他判断(大学生)

場面	回答	発話タイプ			
		F+B+	F-B+	F+B-	F-B-
1)嘘	両方“嘘”	0 (.00)	0 (.00)	2 (.12)	3 (.18)
	両方“その他”	<u>17 (1.00)</u>	<u>13 (.76)</u>	<u>7 (.41)</u>	3 (.18)
	“割ってない”を“嘘” “割った”を“その他”	0 (.00)	1 (.06)	6 (.35)	<u>10 (.59)</u>
	“割ってない”を“その他” “割った”を“嘘”	0 (.00)	3 (.18)	2 (.12)	1 (.06)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	**
お世辞	両方“嘘”	0 (.00)	0 (.00)	0 (.00)	0 (.00)
	両方“その他”	<u>18 (1.00)</u>	<u>18 (1.00)</u>	<u>12 (.67)</u>	<u>13 (.72)</u>
	“おいしい”を“嘘” “まずい”を“その他”	0 (.00)	0 (.00)	0 (.00)	0 (.00)
	“おいしい”を“その他” “まずい”を“嘘”	0 (.00)	0 (.00)	6 (.33)	5 (.28)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
謙遜	両方“嘘”	0 (.00)	1 (.05)	1 (.05)	0 (.00)
	両方“その他”	<u>19 (1.00)</u>	<u>15 (.79)</u>	<u>12 (.63)</u>	<u>13 (.68)</u>
	“遅い”を“嘘” “速い”を“その他”	0 (.00)	1 (.05)	2 (.11)	1 (.05)
	“遅い”を“その他” “速い”を“嘘”	0 (.00)	2 (.11)	4 (.21)	5 (.26)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
冗談	両方“嘘”	0 (.00)	0 (.00)	3 (.17)	5 (.28)
	両方“その他”	<u>18 (1.00)</u>	<u>18 (1.00)</u>	4 (.22)	4 (.22)
	“くも”を“嘘” “葉っぱ”を“その他”	0 (.00)	0 (.00)	1 (.06)	<u>9 (.50)</u>
	“くも”を“その他” “葉っぱ”を“嘘”	0 (.00)	0 (.00)	<u>10 (.56)</u>	0 (.00)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	**	**

注1. ()内に割合をしめした。

注2. 最頻値を下線でしめした。

注3. ** $p < .01$

冗談場面では、発話タイプ F+B-, F-B- の両方で、“蜘蛛” という発話内容を “その他”, “葉っぱ” を “嘘” と判断した参加者の割合 (F+B- = .56, F-B- = .50) は、その反対の “蜘蛛” を “嘘”, “葉っぱ” を “その他” と判断した参加者 (F+B- = .06, F-B- = .00) に比べて有意に高いことが示された ($p < .01$)。嘘場面と同様、発話タイプの構造が同じであっても、発話内容が “葉っぱ” だと思っているものを “蜘蛛” と答えるか, “蜘蛛” だと思っているものを “葉っぱ” と答えるかによって、嘘と判断される割合に違いがみられた。“発話内容” の効果については、第1節の大学生のデータ数では、十分にその効果を検討できなかった可能性がある。そのため、さらに詳しい分析を第3節において、大学生、中学生、保護者をまとめて再分析を行う。

3) 場面の効果について

ここでは、“場面” の違いが発話の判断に与える影響について検討を行った。場面の効果について検討することを目的としているため、発話の目的が明確な “典型性” の発話内容 (“窓を割ってない(嘘)”, “クッキーはおいしい(お世辞)”, “背中に蜘蛛が落ちた(冗談)”, “足が遅い(謙遜)”) についてのみ分析を行う。各発話を “嘘”, もしくは、嘘以外の “その他” と判断した割合に対して、4 (場面: お世辞, 嘘, 冗談, 謙遜) × 2 (回答: 嘘, その他) のカイ二乗検定を行った。結果を Table 4-4 に示した。

発話タイプ F+B+, F-B+ では、分布に有意な偏りはみられなかった (F-B+ : $\chi^2 (3, N=72) = 3.62, n.s., Cramer's V = .22$)。一方、発話タイプ F+B-, F-B- では、分布に有意な偏りがみられた (F+B- : $\chi^2 (3, N=72) = 12.14, p < .01, Cramer's V = .43$; F-B- : $\chi^2 (3, N=72) = 32.79, p < .01, Cramer's V = .68$)。

発話タイプ F+B- では、1) 嘘場面の発話 (割っていない窓を、割ったと思っているのに “割っていない” と答える) を “嘘” と判断する割合が 47% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 3.05, $p < .01$)。また、2) お世辞場面の発話 (まずいクッキーをおいしいと思っているのに “まずい” と答える) を “その他” と判断する割合が 100%

Table 4-4 発話タイプごとの場面の効果についての検討(大学生)

		発話		嘘	その他	p値
F+B+	嘘	窓を割っていなくて、割っていないかと思っていて“割っていない”と答える		0 (.00)	17 (1.00)	
	お世辞	おいしいクッキーを、おいしいかと思っていて“おいしい”という		0 (.00)	18 (1.00)	n.s.
	謙遜	徒競争でビリになり、自分で足が遅いかと思っていて“遅い”という		0 (.00)	19 (1.00)	
F-B+	冗談	お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、蜘蛛だと思っていて“蜘蛛がついてるよ”という		0 (.00)	18 (1.00)	
	嘘	窓を割って、割ってないかと思っているのに“割ってない”と答える		1 (.06)	16 (.94)	
	お世辞	まずいクッキーを、おいしいかと思っていて“おいしい”という		0 (.00)	18 (1.00)	n.s.
F-B+	謙遜	徒競争で1位になって、自分では足が遅いかと思っていて“遅い”という		2 (.11)	17 (.89)	
	冗談	お父さんの背中に葉っぱが落ちて、蜘蛛だと思っていて“蜘蛛がついてるよ”という		0 (.00)	18 (1.00)	

Table 4-4 発話タイプごとの場面の効果についての検討(大学生:つづき)

発話		嘘	その他	p値
F+B-	嘘 窓を割って、割ったと思っているのに“割っていない”と答える	8 (.47)	9 (.53)	
	お世辞 おいしいクッキーを、まずいと思っているのに“おいしい”という	0 (.00)	18 (1.00)	$p < .01$
	謙遜 徒競争でビリになって、自分では足が速いと思っているのに“遅い”という	3 (.16)	16 (.84)	
	冗談 お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、葉っぱだと思っているのに“蜘蛛がついてるよ”という	4 (.22)	14 (.78)	
F-B-	嘘 窓を割って、割ったと思っているのに“割ってない”と答える	13 (.76)	4 (.24)	
	お世辞 まずいクッキーを、まずいと思っているのに“おいしい”という	0 (.00)	18 (1.00)	$p < .01$
	謙遜 徒競争で1位になって、自分で足が速いと思っているのに“遅い”という	1 (.05)	18 (.95)	
	冗談 お父さんの背中に葉っぱが落ちて、葉っぱだと思っているのに“蜘蛛がついてるよ”という	5 (.28)	13 (.72)	

と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 2.51, $p < .05$)。

発話タイプ F・B-では, “嘘” (窓を割って, 割ったと思っているのに “割ってない” と答える) の発話を “嘘” と判断する割合が 76%と, 他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 4.49, $p < .05$)。また, “お世辞” (まずいクッキーを, まずいと思っているのに “おいしい” という), “謙遜” (徒競争で1位になって, 足が速いと思っているのに “遅い” という) の発話を “その他” と判断する割合 (お世辞 = 1.00; 謙遜 = .95) が, 他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, お世辞: 2.93, $p < .01$; 謙遜: 5.36, $p < .01$)。

結果より, 発話が信念に反する発話タイプ (F+B-, F-B-) では, 同じ構造を持つ発話であっても, “場面” によって判断の違いがみられることが示された。一方, 発話が信念と一致する発話タイプ (F+B+, F-B+) では, “場面” に関わらず, 発話は “真実” か “間違い” と判断される割合が高い。大学生では, 嘘の判断において, “事実性” よりも, “信念” が重視されることが示唆された。また, 信念に反する発話の判断には, “場面” の違いが影響する事が示された。信念に反した発話であっても, “場面” によっては必ずしも嘘とは判断されないことが示された。

4) 善悪判断について

参加者には, それぞれの発話が “望ましい” か, “望ましくない” かについて, 1 “望ましくない” ~5 “望ましい” の 5 段階で評定するよう求めた。発話はそれぞれの場面に沿った内容のものであるため, 場面を要因に含んだ善悪判断の比較は適切ではない。よって, ここでは, 場面ごとに 2 (発話内容) × 4 (発話タイプ) の分散分析を行い, 発話内容 (例, “おいしい” “まずい”) や発話タイプ (例, 発話が信念と事実のどちらと一致しているのか) による, 発話の善悪判断の違いについて検討を行った。

嘘場面 1) 嘘場面の結果を Figure 4-1 に示した。1) 嘘場面では, 発話タイプの主効果がみられた ($F(3,48) = 39.51, p = .01, \eta^2 = .55$)。下位検定の結果, 発話タイプ F+B+,

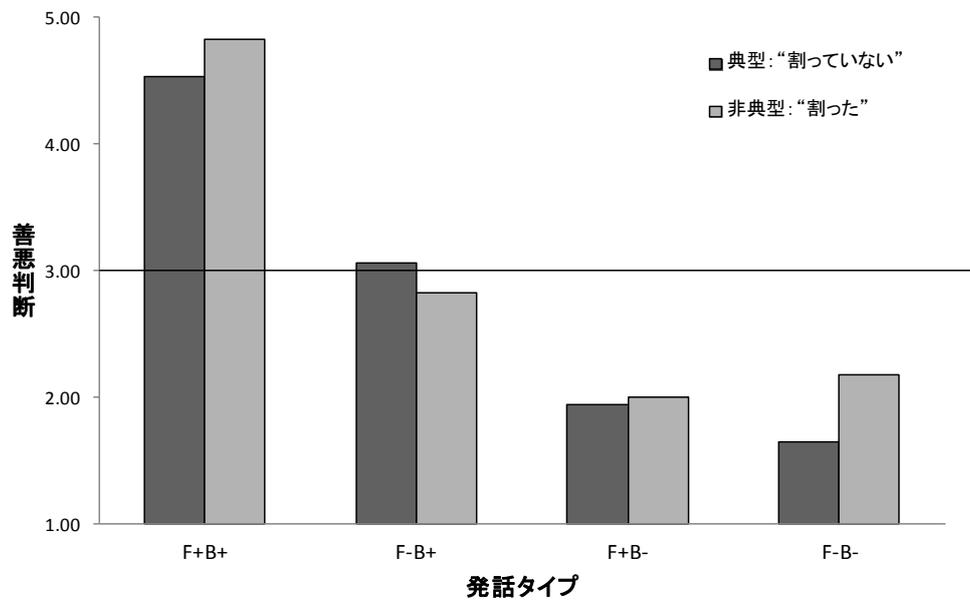


Figure 4-1 嘘場面(窓)における善悪判断(大学生)

F・B+, F+B-, F・B-の順で評定値が大きいことが示された ($M=4.68, 2.94, 1.97, 1.91$)。

F+B-, F・B-の2つの発話タイプの間には有意な差はみられなかった。

発話タイプ F+B+は、他の発話タイプに比べて有意に“望ましい”と判断され、信念に反する発話タイプ F+B-, F・B-は、他の2つの発話タイプに比べて有意に“望ましくない”と判断された。一方、発話内容の主効果、発話内容×発話タイプの交互作用ともに有意な差はみられなかった(発話内容： $F(1,16) = 0.81, n.s., \eta^2 = .00$; 交互作用： $F(3,48) = 1.14, n.s., \eta^2 = .01$)。

結果より、1) 嘘場面では、発話内容の影響はみられなかった。この場面では、何を言ったか(“割った” “割っていない”)に関わらず、信念に反する発話を行った場合に(割ったと思っているのに“割っていない”という、割ってないと思っているのに“割った”という)発話は“望ましくない”と判断された。

お世辞場面 2) お世辞場面の結果を Figure 4-2 に示した。2) お世辞場面では、発話内容の主効果がみられた ($F(1,17) = 39.30, p = .01, \eta^2 = .41$)。クッキーを“おいしい”という方が、“まずい”という場合に比べて有意に“望ましい”と判断されたことが示された ($M=3.86, 2.21$)。次に、発話タイプの主効果がみられた ($F(3,51) = 23.42, p = .01, \eta^2 = .12$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F・B+, F・B-, F+B-の順で評定値が大きいことが示された ($M=3.58, 3.36, 2.61, 2.58$)。発話タイプ F+B+と F・B+の間に有意な差はみられなかった。F+B-, F・B-の2つの発話タイプの間にも有意な差はみられなかった。最後に、発話内容×発話タイプの交互作用がみられた ($F(3,51) = 4.81, p = .05, \eta^2 = .03$)。従って、発話タイプごとに、2(発話内容)の一元配置の分散分析を行った。その結果、全ての発話タイプで、発話内容の主効果がみられた (F+B+： $F(1,17) = 61.75, p < .01$; F・B+： $F(1,17) = 32.87, p < .01$; F+B-： $F(1,17) = 11.46, p < .05$; F・B-： $F(1,17) = 11.12, p < .05$)。全ての発話タイプで、クッキーを“まずい”と答えた場合は、“おいしい”と答えた場合に比べて、発話が“望ましくない”と評価された。さらに、

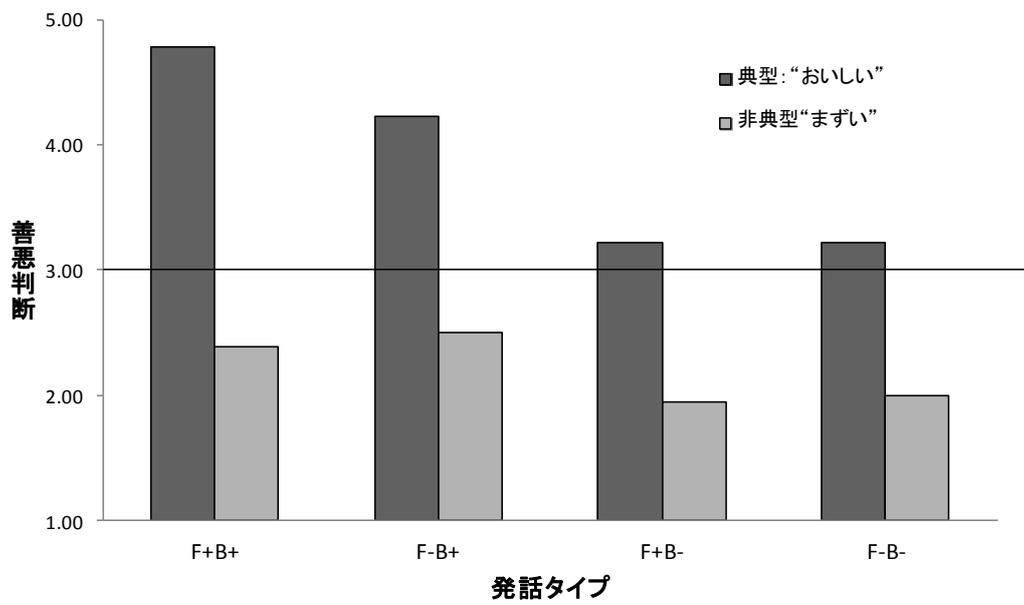


Figure 4-2 お世辞場面(クッキー)における善悪判断(大学生)

発話タイプに関わらず、単に“まずい”という発話が“望ましくない”と判断されているだけなのかどうかについて検討する事を目的として、発話内容ごとに、4（発話タイプ）の一元配置の分散分析を行った。その結果、“おいしい”という発話内容で、発話タイプの主効果がみられた ($F(1,17) = 39.94, p = .01$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F-B+, F+B-, F-B-の順で評定値が大きいことが示された ($M = 4.78, 4.22, 3.22, 3.22$)。発話タイプ F+B-, F-B-の間に有意な差はみられなかった。発話タイプ F+B+, F-B+は、他の2つの発話タイプに比べて有意に“望ましい”と判断された。発話タイプ F+B-, F-B-は“どちらでもない”と判断された。一方、“まずい”という発話内容では、発話タイプの主効果は見られなかった ($M = 2.39, 2.50, 1.94, 2.00$)。発話が信念と一致している発話タイプでは、“おいしい”という発話内容は“望ましい”と判断され、発話が信念に反している場合は“どちらでもない”と判断された。一方、“まずい”という発話内容は、どの発話タイプであっても“望ましくない”と判断された。

謙遜場面 3) 謙遜場面の結果を Figure 4-3 に示した。3) 謙遜場面では、発話タイプの主効果がみられた ($F(3,54) = 8.63, p = .01, \eta^2 = .14$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F+B-, F-B+, F-B-の順で評定値が大きいことが示された ($M = 3.76, 3.03, 2.87, 2.71$)。発話タイプ F+B+は他の3つの発話タイプに比べて、有意に“どちらでもない”と判断された。事実と反する発話タイプ F-B-と F-B+の間に有意な差はみられなかった。発話内容の主効果、発話内容×発話タイプの交互作用ともに有意な差はみられなかった (発話内容 : $F(1,18) = 2.24, n.s., \eta^2 = .01$; 交互作用 : $F(3,54) = 0.95, n.s., \eta^2 = .01$)。

冗談場面 4) 冗談場面の結果を Figure 4-4 に示した。4) 冗談場面では、発話タイプの主効果がみられた ($F(3,48) = 41.32, p = .01, \eta^2 = .52$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F-B+, F+B-, F-B-の順で評定値が大きいことが示された ($M = 4.62, 3.85,$

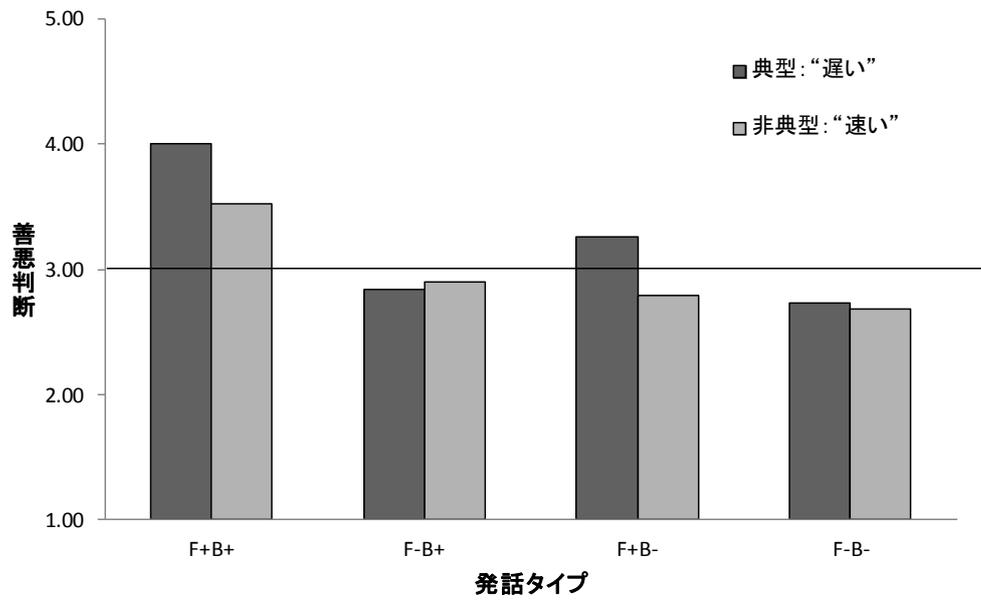


Figure 4-3 謙遜場面(足)における善悪判断(大学生)

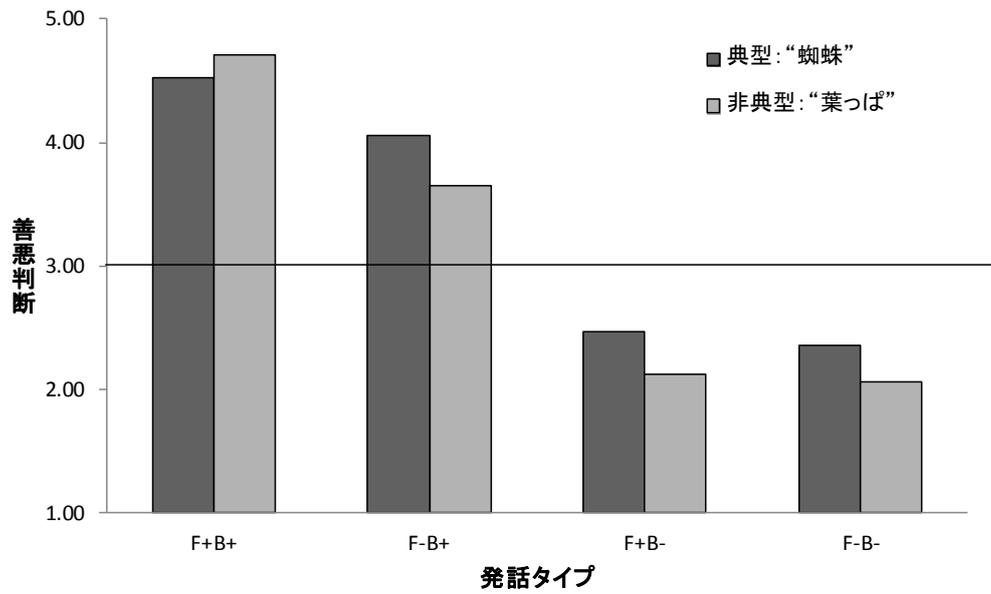


Figure 4-4 冗談場面(葉っぱ)における善悪判断(大学生)

2.29, 2.21)。信念と一致する F+B+, F-B+の発話タイプは他の2つの発話タイプに比べて、有意に“望ましい”と判断された。信念と反する F+B-と F-B-の間に有意な差はみられなかった。発話内容の主効果、発話内容×発話タイプの交互作用ともに有意な差はみられなかった（発話内容： $F(1,16) = 1.83, n.s., \eta^2 = .01$ ；交互作用： $F(3,48) = 1.26, n.s., \eta^2 = .01$ ）。この場面では、発話の内容が“蜘蛛”と答えた場合でも、“葉っぱ”と答えた場合でも同じ評価であった。何を言ったか（“蜘蛛”“葉っぱ”）に関わらず、信念に反する発話を行った場合（葉っぱだと思っているのに“蜘蛛”という、蜘蛛と思っているのに“葉っぱ”という）に発話は“望ましくない”と判断された。

1-4. 考察

本節では、大学生を対象とし、事実と信念の両方に反する発話（F-B-）が、“嘘”、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”となるような“場面”を設定し、場面ごとに4つの“発話タイプ”（F+B+, F-B+, F+B-, F-B-）を設定した。参加者が、各発話タイプを“嘘”、もしくは、“嘘以外（その他）”と判断した割合について検討を行った。また、同じ構造を持つ発話について、例えば、“まずいと思っているクッキーを‘おいしい’という”場合や、“おいしいと思っているクッキーを‘まずい’という”場合など、“発話内容”によって発話の判断に違いがみられるかについても調べた。

その結果、発話が事実と信念の両方と一致している場合（F+B+）は、“場面”や“発話内容”の効果はみられず、どの場面でも94%以上の割合で発話は“真実”と判断された。発話が事実には反しているが、信念と一致している場合（F-B+）でも同様に、“場面”、“発話内容”の効果はみられなかった。この発話パターンでは、どの場面でも発話が“その他”と判断された割合の方が“嘘”と判断される割合に比べて多い事が示された。“その他”の判断の内訳としては、嘘場面（窓を割っているのに、割っていないとっていて、“割っていない”）と、冗談場面（お父さんの背中に葉っぱが落ちているのに、蜘蛛が落ちてきたとあって“蜘蛛”）の最頻値は“間違い”であった（嘘：47%、冗談：50%）。一方、お世辞

場面（まずいクッキーをおいしいと思っていて，“おいしい”）と、謙遜場面（徒競争で1位になったのに、自分は足が遅いと思っていて，“遅い”）の最頻値は“真実”であった（お世辞：89%，謙遜：63%）。

以上の結果から、信念と一致している（F+B+，F-B+）発話は，“嘘”とは判断されないことが示唆された。また、信念と一致している（F+B+，F-B+）発話は，“場面”や“発話内容”の影響を受けないことから、これらの発話の判断では“信念”が最も重視されることが示された。これは、第3章の児童を対象とした調査の結果とは異なる。第3章の1年生の児童では、発話タイプ F-B+は“嘘”と判断される割合が多かった。これらの結果を合わせると、特に発話タイプ F-B+では、子どもは“事実”を重視するのに対して、大人では“信念”と発話が一致していれば“事実”に反していたとしても“嘘”とは判断されないことが示された。

発話が事実と一致していて、信念には反している場合（F+B-）では，“場面”の効果がみられた。嘘場面（窓を割っておらず、割ったと思っているのに“割っていない”）では、発話を“嘘”と判断する割合が他の場面に比べて有意に高かった。一方、お世辞場面（おいしいクッキーを、まずいと思っているのに，“おいしい”）では、発話を“その他”と判断する割合が他の場面に比べて有意に高かった。この発話を“その他”と判断した場合の内訳は、お世辞場面では“お世辞”が50%，謙遜場面では“謙遜”が32%，冗談場面では“冗談”が44%とそれぞれの場面に沿った判断が最頻値とされた。

さらに、発話が信念と事実の両方に反する場合（F-B-）においても“場面”の効果がみられた。嘘場面（窓を割っていて、割ったと思っているのに“割っていない”）では、発話を“嘘”と判断する割合が他の場面に比べて有意に高かった。一方、お世辞場面（まずいクッキーを、まずいと思っているのに，“おいしい”）、謙遜場面（徒競争で1位になって、自分で足が速いと思っているのに，“遅い”）では、発話を“その他”と判断する割合が他の場面に比べて有意に高かった。発話を“その他”と判断した場合の内訳については、お世辞場面では“お世辞”が56%，謙遜場面では“謙遜”が79%，冗談場面では“冗談”が

72%と、F+B-同様、場面に沿った判断が最頻値とされた。これらの結果から、大人による嘘の判断では、“事実”はほとんど重視されないことが示された。発話が“信念”に反していることが前提となり、その後、それぞれの場面に応じて、嘘か否かの判断がなされる。これは、先行研究の結果に類似する (Lee & Ross, 1997)。

“発話内容”については、嘘、冗談場面の信念に反する発話 (F-B-, F+B-) でのみ分布に有意な偏りがみられた。嘘場面では、発話タイプ F-B-において、窓を“割っていない”という発話を“嘘”、“割った”という発話を“その他”と判断した割合が多いことが示された。また、冗談場面では、背中についた葉っぱを“蜘蛛”であるという発話を“その他”、背中についた蜘蛛を“葉っぱ”という発話を“嘘”と判断した割合が多いことが示された。これらに共通するのは、“嘘”と判断される割合が多い方の発話は、聞き手、もしくは、社会 (嘘の場合は学校) に対して何らかの損害が生じる。このような、具体的な損害が生じない発話については、例え事実や信念に反していたとしても“嘘”とは判断されない。損害が生じる方の発話は、一般協調ルール (general cooperative rule) の“try to help not to harm”の目的を破るものである。一般協調ルールとは、全てのコミュニケーションの行動を統括するルールであると言われ、社会的、文化的に定義され、間主観的に共有された会話のルールであると言われている (Grice, 1980; Lee, 2000; Sweetser, 1987)。これらの結果からも、嘘の発話は、単に認知的な要素の有無によって決定されるのではなく、語用論的、社会的なルールに基づいて判断されていることが窺える。“発話内容”の分析については第3節でより詳しく述べる。

善悪判断については、各場面の発話内容と発話タイプの効果について検討を行った。信念に反する発話は (F+B-, F-B-) は、“望ましくない”と判断される傾向がみられた。一方、発話が信念と事実の両方と一致している場合 (F+B+) は、お世辞場面を除くその他の場面では、“望ましい”と判断される傾向がみられた。また、発話内容の効果はお世辞場面においてのみみられ、“まずい”という発話は、発話タイプに関わらず“望ましくない”と判断された。もらったクッキーを“まずい”という場面では、関係性の維持が目的であ

るポライトネス・ルール (politeness rule) が破られることになる。お世辞場面での“まずい”という発話内容は、関係維持を目的とする場面であるにも関わらず、これらのルールが破られるため、“望ましくない”と判断された可能性が高い。

本研究の結果より、大学生では嘘の判断において“事実”よりも、“信念”が重視される事が示された。これは、先行研究の結果を支持するものである (Stricharz & Burton, 1990)。さらに、発話が信念に反している場合には、“場面”によってその発話が嘘と判断されるか否かが決定される。第3章では、本章の結果とは異なり、児童、特に1年生では“信念”や“場面”よりも“事実”が嘘の判断において優先されることが示された。1年生では、信念と一致していたとしても、事実と反する発話は“嘘”と判断され、お世辞場面であっても、謙遜場面であっても、事実と反していれば、どの発話も同じように“嘘”と判断された。第3章では、“信念”や“場面”が嘘の判断に考慮され始めるのは9歳以降であることが示された。では、本章で検討したような“事実性”、“信念”、“場面”、そして、“発話内容”など、複数の要因を検討した場合には、どの要因がどの時期から考慮され始め、大人と同じような判断がなされるようになるのだろうか。本章の第2節では、第1節と同じ課題を用いて、中学生とその保護者を対象とし、検討を行う。

第2節 中学生とその保護者を対象とした調査（調査2）

2-1. 目的

第1節では、大学生を対象に、情報の伝達が重要とされる場面（嘘）や、礼儀・コミュニケーションの円滑さが重要とされる場面（お世辞、謙遜、冗談）における嘘の判断について検討を行った。加えて、“発話内容”が嘘の判断とどのように関連しているかについても調べた。その結果、同じ構造を持つ発話（発話タイプ）であっても、“場面”が異なることによって違う分類がなされることが示された。先行研究では、大人による嘘の判断では、“信念”が最も重要視され、大人は信念に反する発話を“嘘”と判断する傾向が高いと言われてきた（Burton & Strichartz, 1992; Coleman & Kay, 2000; 伊東, 1996, 1998; 佐藤, 1996; Strichartz & Burton, 1990 など）。しかし、第1節の結果より、“信念”に加えて“場面”も嘘の判断に大きく影響することが示された。“信念”に反する発話であっても、“場面”によっては、必ずしも嘘とは判断されない。

第3章の結果からも、9歳頃になれば“場面”を考慮し、嘘とその他の虚偽を弁別できることが示された。それでは、“発話内容”についてはどうだろうか。第1節で示されたような、同じ構造を持つ発話であっても、その“発話内容”の違いにより、嘘と判断されるか否かについての検討したもので、子どもを対象とした研究は少ない。第1節で用いたような“発話内容”を要因に含んだ課題は複雑であるため、幼児や児童にとっては難しい。そのため、第2節では、中学生を対象に調査を実施した。本節では、大人との比較を行うためにも、中学生に加え、その保護者も調査の対象とした。

2-2. 方法

1) 参加者

参加者は、ベネッセコーポレーションの進研ゼミを受講している中学生男子30名、女子42名、性別未記入3名の計75名（ $M = 13$ 歳5ヶ月、 $SD = \pm 0.64$ ）とその保護者の

75名 ($M = 42$ 歳5ヶ月, $SD = \pm 5.99$)であった。保護者の内訳は、男性9名、女性65名、未記入1名であった。

2) 材料

本研究では、実験1と同様に“場面”、“発話タイプ”、“発話内容”の3つの要因を操作して材料を作成した。

場面 “場面”は、1) 嘘 (教室の窓を割る)、2) お世辞 (クッキーをもらう)、3) 謙遜 (徒競争をする)、4) 冗談 (お父さんの背中に何かが落ちてくる) の4種類を設けた。1) 嘘場面は、情報提供が重要な役割を果たす場面として検討できる。一方、2) お世辞、3) 謙遜、4) 冗談の場面は、礼儀や円滑なコミュニケーションを目的とした場面として考えられる。“場面”は、参加者間要因であり、参加者には4種類の場面をランダムに割り当てた。“場面”ごとの物語の内容については、第1節のTable 4-1と同様の物を用いた。

発話タイプ 各場面で、主人公は4種類の発話を行った。発話タイプは、発話が信念と事実の両方と一致するもの (F+B+)、発話が信念とは一致するが、事実とは一致しないもの (F-B+)、発話が信念とは一致しないが、事実とは一致するもの (F+B-)、そして、発話が信念と事実の両方と一致しないもの (F-B-) であった (Table 4-1)。“発話タイプ”は、参加者内要因であり、参加者には各場面、4種類の発話タイプについて判断を求めた。

発話内容 第1節と同様に、印象が異なる2種類の発話内容を設けた。まず、1つ目の種類として“典型性”の発話内容がある。この、“典型性”の発話内容では、1) 嘘をつく、2) お世辞を言う、3) 謙遜する、そして、4) 冗談を言うように発話が設定された。具体的には、1) 嘘場面では教室の窓ガラスを“割っていない”、2) お世辞場面ではもらったクッキーを“おいしい”、3) 謙遜場面では自分は足が“遅い”、4) 冗談場面ではお父さん

の背中についているのは“蜘蛛”であった。一方、同じ構造ではあるが、“典型性”の発話内容と裏表の形になるように設定した発話を“非典型性”の発話とした。“非典型性”の発話内容は、1) 嘘場面では教室の窓ガラスを“割った”，2) お世辞場面ではもらったクッキーを“まずい”，3) 謙遜場面では自分は足が“速い”，4) 冗談場面ではお父さんの背中についているのは“葉っぱ”であった。“発話内容”は参加者内要因であり，参加者は割り当てられた場面で4種類の“発話タイプ”について，それぞれ“典型性”“非典型性”の2種類の“発話内容”の計8つの発話に回答した。

3) 手続き

本研究は，質問紙法を用いて行われた。質問用紙は3ページで構成され，表紙には調査に関する説明，教示が示された（付録14）。2ページ目以降に2種類の短い物語が示され，各物語の中で主人公の4種類の発話が，“真実”，“嘘”，“謙遜”，“お世辞”，“間違い”，“冗談”，“利他的な嘘”，“その他”のどれに当てはまるか，参加者に判断を求めた。さらに，各発話を1“悪い”～5“よい”の5段階で評定するよう求めた。質問紙を，ベネッセコーポレーションの進研ゼミを受講している中学生の家庭に同社と通して配布し，返送を求めた。中学生用の質問紙のフェイスシートには，保護者に相談せずに自分の思う回答を記入するよう教示した。また，保護者用の質問紙のフェイスシートでも，子どもの回答を手伝うことなく，子ども自身で回答させるように求めた。

2-3. 結果

1) 全体的傾向

各場面における，4種類の発話パターンについての判断をTable 4-5に示した。まずは，下線で示した最頻値をもとに全体的な傾向について述べる。

発話タイプ F+B+では，“場面”，“発話内容”，“年齢（中学生，保護者）”に関わらず，発話を“真実”と判断する割合が高い傾向がみられた。発話タイプ F・B+でも，ほとんど

Table 4-5 発話タイプごとの回答カテゴリの度数(中学生と保護者)

発話タイプ	参加者	発話内容	場面	嘘							n
				真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い	利他的な嘘	その他	
中学生		典型	嘘	12 (.86)		1 (.07)			1 (.07)		14
			お世辞	23 (.96)	1 (.04)						24
			謙遜	17 (1.00)							17
			冗談	19 (.95)				1 (.05)			20
F+B+		非典型	嘘	13 (.93)		1 (.07)					14
			お世辞	21 (.88)				1 (.04)	1 (.04)		24
			謙遜	14 (.82)		2 (.12)					17
			冗談	19 (.95)		1 (.05)					20
保護者		典型	嘘	14 (1.00)							14
			お世辞	24 (1.00)							24
			謙遜	16 (.94)					1 (.06)		17
			冗談	20 (1.00)							20
保護者		非典型	嘘	13 (.93)				1 (.07)			14
			お世辞	23 (.96)		1 (.04)					24
			謙遜	13 (.76)		2 (.12)	1 (.06)		1 (.06)		17
			冗談	20 (1.00)							20

注1. ()内は割合を示した

注2. 各行における最頻値を下線で示した

Table 4-5 発話タイプごとの回答カテゴリの度数(中学生と保護者:つづき)

発話タイプ	参加者	発話内容	場面	嘘							n	
				真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い	利他的な嘘	その他		
中学生	典型	嘘		1 (.07)	4 (.29)				8 (.57)	1 (.07)	14	
		お世辞			18 (.75)	3 (.13)			2 (.08)	1 (.04)	24	
		謙遜		2 (.12)	11 (.65)		4 (.24)				17	
		冗談		1 (.05)	14 (.70)	1 (.05)			4 (.20)		20	
	非典型	嘘		1 (.07)	2 (.14)			2 (.14)	6 (.43)	2 (.14)	14	
		お世辞		3 (.13)	13 (.54)	1 (.04)	2 (.08)		5 (.21)		24	
		謙遜		4 (.24)	5 (.29)	1 (.06)	1 (.06)		4 (.24)	1 (.06)	17	
		冗談		2 (.10)	4 (.20)	1 (.05)		13 (.65)			20	
	保護者	典型	嘘		2 (.14)	3 (.21)				9 (.64)		14
			お世辞		1 (.04)	18 (.75)	1 (.04)		2 (.08)	1 (.04)	24	
			謙遜		2 (.12)	9 (.53)	1 (.06)	3 (.18)		1 (.06)	17	
			冗談			16 (.80)			4 (.20)		20	
非典型		嘘		1 (.07)	4 (.29)			2 (.14)	7 (.50)		14	
		お世辞			17 (.71)	2 (.08)			4 (.17)	2 (.08)	24	
		謙遜		6 (.35)	6 (.35)	3 (.18)		1 (.06)	1 (.06)	17		
		冗談		1 (.05)	10 (.50)			9 (.45)		20		

注1. ()内は割合を示した

注2. 各行における最頻値を下線で示した

Table 4-5 発話タイプごとの回答カテゴリーの度数(中学生と保護者: つづき2)

発話タイプ	参加者	発話内容	場面	その他						n			
				嘘	真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い		利他的な嘘	その他	
中学生	典型	嘘		<u>12 (.86)</u>	1 (.07)				1 (.07)		14		
		お世辞		1 (.04)		<u>14 (.58)</u>	1 (.04)		1 (.04)	6 (.25)	24		
		謙遜		3 (.18)		1 (.06)	<u>10 (.59)</u>		3 (.18)		17		
		冗談		<u>9 (.45)</u>		6 (.30)			5 (.25)		20		
	非典型	嘘			1 (.07)		2 (.14)				8 (.57)	14	
		お世辞			<u>10 (.42)</u>	1 (.04)	1 (.04)		2 (.08)		2 (.08)	24	
		謙遜			<u>11 (.65)</u>	1 (.06)	1 (.06)				2 (.12)	17	
		冗談			<u>9 (.45)</u>	2 (.10)		2 (.10)			2 (.10)	20	
		嘘			<u>11 (.79)</u>		1 (.07)				2 (.14)	14	
		お世辞			1 (.04)		9 (.38)	1 (.04)			<u>10 (.42)</u>	1 (.04)	24
保護者	典型	謙遜		4 (.24)	1 (.06)		2 (.12)		<u>7 (.41)</u>	1 (.06)	2 (.12)	17	
		冗談		5 (.25)	1 (.05)		<u>13 (.65)</u>		1 (.05)		20		
		嘘		<u>4 (.29)</u>	1 (.07)		1 (.07)		<u>4 (.29)</u>	2 (.14)	2 (.14)	14	
	非典型	お世辞		<u>12 (.50)</u>		7 (.29)				3 (.13)		2 (.08)	24
		謙遜		<u>9 (.53)</u>		4 (.24)				2 (.12)		1 (.06)	17
		冗談		<u>9 (.45)</u>		5 (.25)				1 (.05)		5 (.25)	20

注1. ()内は割合を示した

注2. 各行における最頻値を下線で示した

Table 4-5 発話タイプごとの回答カテゴリの度数(中学生と保護者: つづき3)

発話タイプ	参加者	発話内容	場面	その他							n		
				嘘	真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い	利他的な嘘		その他	
中学生	典型	嘘		<u>13 (.93)</u>	1 (.07)							14	
		お世辞		2 (.08)		<u>12 (.50)</u>	1 (.04)				9 (.38)	24	
		謙遜		1 (.06)	1 (.06)	3 (.18)	<u>9 (.53)</u>				2 (.12)	17	
		冗談		7 (.35)		<u>9 (.45)</u>			4 (.20)			20	
中学生	非典型	嘘		<u>13 (.54)</u>		3 (.21)	2 (.14)				<u>9 (.64)</u>	14	
		お世辞				10 (.42)			1 (.04)			24	
		謙遜		<u>8 (.47)</u>		1 (.06)	4 (.24)			1 (.06)	2 (.12)	17	
		冗談		<u>9 (.45)</u>		5 (.25)			4 (.20)		2 (.10)	20	
保護者	典型	嘘		<u>14 (1.00)</u>								14	
		お世辞				10 (.42)			2 (.08)		<u>11 (.46)</u>	1 (.04)	24
		謙遜		4 (.24)						<u>12 (.71)</u>		1 (.06)	17
		冗談		8 (.40)		<u>11 (.55)</u>			1 (.05)			20	
保護者	非典型	嘘		1 (.07)					1 (.07)		<u>9 (.64)</u>	1 (.07)	14
		お世辞		<u>12 (.50)</u>			6 (.25)	1 (.04)		3 (.13)		2 (.08)	24
		謙遜		<u>9 (.53)</u>		3 (.18)				1 (.06)	3 (.18)	1 (.06)	17
		冗談		<u>9 (.45)</u>	1 (.05)	3 (.15)			1 (.05)		6 (.30)		20

注1. ()内は割合を示した

注2. 各行における最頻値を下線で示した

の場面で発話を“真実”と判断する傾向がみられた。この発話タイプでは、4（場面）× 2（発話内容）の計8種類の発話のうち、中学生では5つの発話で最頻値が“真実”であった。残りの3つの発話の最頻値は“間違い”であった。保護者では、6つの発話で最頻値が“真実”，残りの2つの発話の最頻値は“間違い”であった。これらの傾向から、事実と反していても、信念と一致している発話は，“真実”，もしくは，“間違い”と判断される傾向があるといえる。

一方、発話タイプ F+B- では、中学生、保護者共に8種類中5種類の発話で、発話タイプ F-B- では4種類の発話で最頻値が“嘘”であった。中学生と保護者で“嘘”が最頻値であった発話は一致していた。これらの傾向から、中学生の判断は、大人のものに類似していることが示唆される。また、発話が信念と一致している発話タイプ (F+B+, F-B+) は、“真実”と判断される傾向が強く、発話が信念と反している発話タイプ (F-B-, F+B-) では、“嘘”と判断される傾向が強い。以下、各要因について、詳しい結果を示す。

2) 場面の効果について

以下では、各発話タイプの判断における“場面”の効果について検討を行った。保護者、中学生それぞれについて、発話を“嘘”，もしくは、嘘以外の“その他”と判断した割合に対して、4（場面：嘘，お世辞，冗談，謙遜）× 2（回答：嘘，その他）のカイ二乗検定を行った。ここでは、第1節と同様、場面の効果に焦点をあてることを目的とするため、嘘，お世辞，冗談，謙遜を反映している“典型性”の発話内容のみ分析を行った。結果をTable 4-6に示した。

発話タイプ F+B+, F-B+ では、中学生、保護者ともに、分布に有意な偏りはみられなかった (F-B+ : 中学生, $\chi^2(3, N=75) = 2.84, n.s., \text{Cramer's } V = .19$; 保護者, $\chi^2(3, N=75) = 3.69, n.s., \text{Cramer's } V = .22$)。一方、F+B-, F-B- の発話タイプでは、中学生、保護者の両方で、分布に有意な偏りがみられた (F+B- : 中学生, $\chi^2(3, N=75) = 29.58, p < .01, \text{Cramer's } V = .63$; 保護者, $\chi^2(3, N=75) = 24.78, p < .01, \text{Cramer's } V = .57$)

Tabel 4-6 各発話タイプにおける場面の効果についての検討(中学生と保護者)

		発話		嘘	その他	ρ 値
中学生	嘘	窓を割ってなくて、割っていないかと思っていて“割っていない”と答える	0 (.00)	14 (1.00)		
	お世辞	おいしいクッキーを、おいしいかと思って“おいしい”という	0 (.00)	24 (1.00)		
	謙遜	徒競争でビリになり、自分で足が遅いと思っていて“遅い”という	0 (.00)	17 (1.00)		<i>n.s.</i>
	冗談	お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、蜘蛛だと思っていて“蜘蛛がついてるよ”という	0 (.00)	20 (1.00)		
F+B+						
保護者	嘘	窓を割ってなくて、割っていないかと思っていて“割っていない”と答える	0 (.00)	14 (1.00)		
	お世辞	おいしいクッキーを、おいしいかと思って“おいしい”という	0 (.00)	24 (1.00)		
	謙遜	徒競争でビリになり、自分で足が遅いと思っていて“遅い”という	0 (.00)	17 (1.00)		<i>n.s.</i>
	冗談	お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、蜘蛛だと思っていて“蜘蛛がついてるよ”という	0 (.00)	20 (1.00)		

Tabel 4-6 各発話タイプにおける場面の効果についての検討(中学生と保護者: つづき)

発話		嘘	その他	p値
中学生	嘘 窓を割って、割ってないと思っているのに“割ってない”と答える	1 (.07)	13 (.93)	
	お世辞 まずいクッキーを、おいしいと思っていて“おいしい”という	0 (.00)	24 (1.00)	<i>n.s.</i>
	謙遜 徒競争で1位になって、自分では足が遅いと思っていて“遅い”という	2 (.12)	15 (.88)	
	冗談 お父さんの背中に葉っぱが落ちて、蜘蛛だと思っていて“蜘蛛がついてるよ”という	1 (.05)	19 (.95)	
. F-B+				
保護者	嘘 窓を割って、割ってないと思っているのに“割ってない”と答える	2 (.14)	12 (.86)	
	お世辞 まずいクッキーを、おいしいと思っていて“おいしい”という	1 (.04)	23 (.96)	<i>n.s.</i>
	謙遜 徒競争で1位になって、自分では足が遅いと思っていて“遅い”という	2 (.12)	15 (.88)	
	冗談 お父さんの背中に葉っぱが落ちて、蜘蛛だと思っていて“蜘蛛がついてるよ”という	0 (.00)	20 (1.00)	

Tabel 4-6 各発話タイプにおける場面の効果についての検討(中学生と保護者: つづき2)

		発話		その他		p 値
		嘘	その他	嘘	その他	
中学生	嘘	窓を割ってなくて、割ったかと思ってるのに“割っていない”と答える		12 (.86)	2 (.14)	
	お世辞	おいしいクッキーを、まずいと思ってるのに“おいしい”という		1 (.04)	23 (.96)	
	謙遜	徒競争でビリになって、自分では足が速いと思ってるのに“遅い”という		3 (.18)	14 (.82)	$p < .01$
	冗談	お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、葉っぱだと思ってるのに“蜘蛛がついてるよ”という		9 (.45)	11 (.55)	
F+B-						
保護者	嘘	窓を割ってなくて、割ったかと思ってるのに“割っていない”と答える		11 (.79)	3 (.21)	
	お世辞	おいしいクッキーを、まずいと思ってるのに“おいしい”という		1 (.04)	23 (.96)	
	謙遜	徒競争でビリになって、自分では足が速いと思ってるのに“遅い”という		4 (.24)	13 (.76)	$p < .01$
	冗談	お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、葉っぱだと思ってるのに“蜘蛛がついてるよ”という		5 (.25)	15 (.75)	

Tabel 4-6 各発話タイプにおける場面の効果についての検討(中学生と保護者: つづき3)

		発話		その他	p値
嘘	発話	嘘	その他		
中学生	嘘	窓を割って、割ったと思っているのに“割ってない”と答える	13 (.93)	1 (.07)	
	お世辞	まずいクッキーを、まずいと思っているのに“おいしい”という	2 (.08)	22 (.92)	
	謙遜	徒競争で1位になって、自分で足が速いと思っているのに“遅い”という	1 (.06)	16 (.94)	$p < .01$
	冗談	お父さんの背中に葉っぱが落ちて、葉っぱだと思っているのに“蜘蛛がついてるよ”という	7 (.35)	13 (.65)	
保護者	嘘	窓を割って、割ったと思っているのに“割ってない”と答える	14 (1.00)	0 (.00)	
	お世辞	まずいクッキーを、まずいと思っているのに“おいしい”という	0 (.00)	24 (1.00)	
	謙遜	徒競争で1位になって、自分で足が速いと思っているのに“遅い”という	4 (.24)	13 (.76)	$p < .01$
	冗談	お父さんの背中に葉っぱが落ちて、葉っぱだと思っているのに“蜘蛛がついてるよ”という	8 (.40)	12 (.60)	

F-B-

(F-B- : 中学生, $\chi^2(3, N=75) = 36.18, p < .01, \text{Cramer's } V = .69$; 保護者, $\chi^2(3, N=75) = 40.30, p < .01, \text{Cramer's } V = .73$)。中学生は, 発話タイプ F+B- において, 1) 嘘場面 (窓を割っていないのに, 割ったとっていて “割っていない” と答える) の発話を “嘘” と判断する割合が 86% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 4.61, $p < .01$)。2) お世辞場面では, 発話タイプ F+B- (おいしいクッキーを, まずいと思っているのに “おいしい” と答える) を “その他” と判断する割合が 96% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 3.68, $p < .01$)。

保護者でも同様の結果がみられた。保護者では, 発話タイプ F+B- において, 1) 嘘場面の発話を “嘘” と判断する割合が 79% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 4.67, $p < .01$)。また, 2) お世辞場面を “その他” と判断する割合が 96% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 3.15, $p < .01$)。

発話タイプ F+B- でも, 中学生では, 1) 嘘場面 (窓を割って, 割ったと思っているのに “割ってない” と答える) の発話を “嘘” と判断する割合が 93% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 5.60, $p < .01$)。また, 2) お世辞場面 (まずいクッキーを, まずいと思っているのに “おいしい” という), 3) 謙遜場面 (徒競争で 1 位になって, 足が速いと思っているのに “遅い” という) の発話を “その他” と判断する割合が, 92%, 94% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, お世辞: 2.88, $p < .01$; 謙遜: 2.52, $p < .05$)。これは, 第 1 節の大学生の結果とも類似する。

保護者では, 1) 嘘場面の発話を “嘘” と判断する割合が 100% と他の場面に比べて有意に多く (残差, 5.70, $p < .01$), 2) お世辞場面の発話を “その他” と判断する割合も 100% と他の場面に比べて有意に多いことが示された (残差, 4.33, $p < .01$)。以上の結果より, 発話タイプ F+B- では, 同じ構造を持つ発話タイプであっても, “場面” によってその発話の判断に違いがみられることが示された。一方で, 発話が信念と一致する発話タイプでは (F+B+, F-B+), “場面” に関わらず, 発話は “真実” か “間違い” と判断されるといえる。中学生頃になれば, “場面” を考慮した嘘の判断が, 大人 (保護者) と類似した形で可

能となる。中学生では、嘘の判断において、“事実性”よりも、“信念”が重視され、さらに、信念に反した発話では“場面”によって“嘘”と判断される割合に違いがみられた。

3) 善悪判断について

参加者に、それぞれの発話のについて善悪判断を1“悪い”～5“よい”の5段階で評定するよう求めた。場面ごとに2（発話内容）×4（発話タイプ）×2（年齢：中学生，保護者）の分散分析を行った。その結果、全ての結果で、年齢の主効果、年齢×発話内容、年齢×発話タイプ、年齢×発話内容×発話タイプの交互作用など、年齢の要因に関わる効果がみられなかったため、ここでは中学生と保護者をまとめて分析を行った。第2節でも、第1節と同様、善悪判断では、各場面について、2（発話内容）×4（発話タイプ）の分散分析を行った。

嘘場面 1) 嘘場面の結果を Figure 4-5 に示した。1) 嘘場面では、発話内容の主効果がみられた ($F(1,25) = 26.87, p < .01, \eta^2 = .10$)。“割っていない”という発話内容は、“割った”という発話内容に比べ有意に“悪い”と判断された ($M = 2.32, 3.22$)。次に、発話タイプの主効果がみられた ($F(3,75) = 64.48, p < .01, \eta^2 = .42$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F-B+, F+B-, F-B-の順で評定値が大きいことが示された ($M = 4.23, 2.96, 1.94, 1.94$)。F+B-, F-B-の2つの発話タイプの間には有意な差はみられなかった。さらに、発話内容×発話タイプの交互作用がみられた ($F(3,75) = 9.54, p < .01, \eta^2 = .04$)。従って、発話タイプごとに、2（発話内容）の一元配置の分散分析を行った。その結果、発話タイプ F+B+では、発話内容の主効果はみられなかった。この発話タイプでは、割った窓を、“割った”と答えても、割っていない窓を“割っていない”と答えた場合でも、発話は“よい”と判断されることが示された。残りの発話タイプ F-B+, F-B+, F-B-では、発話内容の主効果がみられた (F-B+: $F(1,26) = 5.57, p < .05$; F+B-: $F(1,26) = 36.71, p < .01$; F-B-: $F(1,27) = 43.71, p < .01$)。まず、どの発話タイプも“割ってない”とい

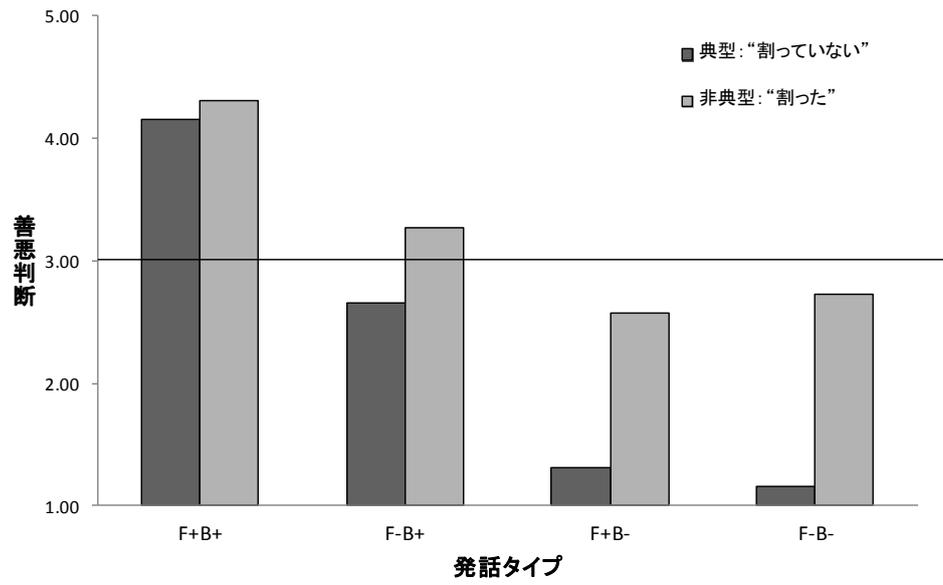


Figure 4-5 嘘場面(窓)における善悪判断(中学生+保護者)

う発話内容の方が、“割った”という発話内容に比べて“悪い”と評価された。発話タイプ F・B+では、“窓を割っていないのに割ったとっていて、‘割った’”と答える発話に比べて、“窓を割ったのに割っていないとっていて、‘割っていない’”と答えた発話を“悪い”と評価された。発話タイプ F+B-, F・B+では、窓を割ったかどうかの事実に関わらず、“割ったとと思っているのに‘割っていない’”という発話内容の方が、“割っていないとっていて‘割った’”と答える場合に比べ“悪い”と評価された。これらは、いずれも、発話の構造は同じであるにも関わらず、発話の内容によっては、善悪判断の評価が異なる事が示された。

お世辞場面 2) お世辞場面の結果を Figure 4-6 に示した。2) お世辞場面では、発話内容の主効果がみられた ($F(1,44) = 194.50, p < .01, \eta^2 = .46$)。“おいしい”という発話内容は、“まずい”という発話内容に比べて有意に“よい”と判断されたことが示された ($M = 4.13, 2.19$)。次に、発話タイプの主効果がみられた ($F(3,132) = 40.68, p = .01, \eta^2 = .13$)。HSD 法による下位検定の結果、F+B+, F・B+, F・B-, F+B-の順で評定値が大きかった ($M = 3.83, 3.48, 2.67, 2.66$)。F+B-, F・B-の間には有意差はみられなかった。F+B+, F・B+は、“どちらでもない”と判断され、F+B-, F・B-は他の2つの発話タイプに比べて有意に“悪い”と判断されたといえる。発話内容×発話タイプの交互作用はみられなかった ($F(3,132) = 1.56, n.s., \eta^2 = .00$)。

謙遜場面 3) 謙遜場面の結果を Figure 4-7 に示した。3) 謙遜場面では、発話内容の主効果がみられた ($F(1,29) = 32.42, p = .01, \eta^2 = .15$)。“遅い”という発話内容に比べて、“速い”という発話内容は有意に“悪い”と判断された ($M = 3.33, 2.53$)。さらに、発話タイプ的主効果がみられた ($F(3,87) = 20.19, p = .01, \eta^2 = .14$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F・B+, F+B-, F・B-の順で評定値が大きかった ($M = 3.60, 2.82, 2.68, 2.63$)。F・B+, F+B-, F・B-の間には有意差はみられなかった。発話タイプ F+B+

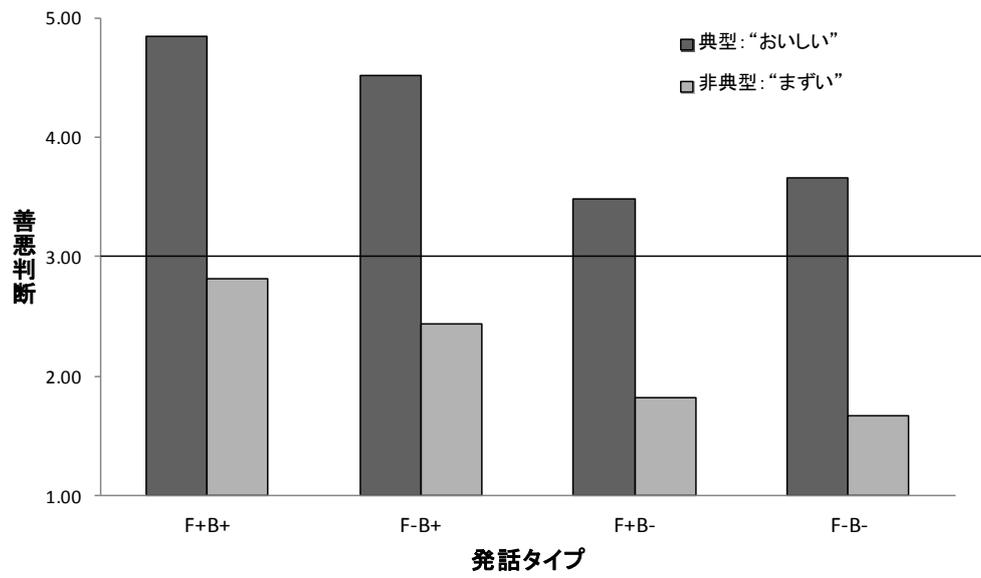


Figure 4-6 お世辞場面(クッキー)における善悪判断(中学生+保護者)

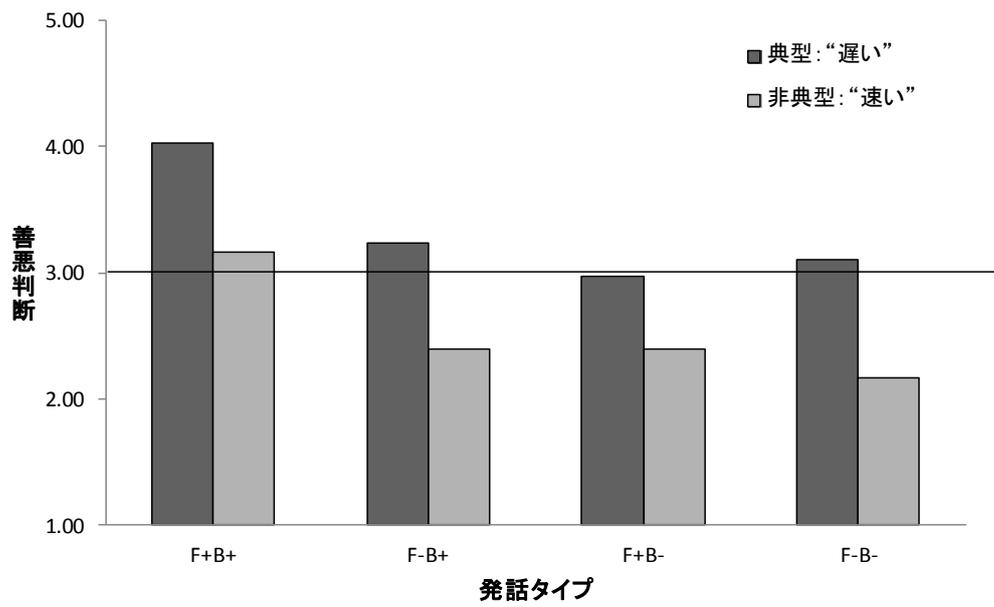


Figure 4-7 謙遜場面(足)における善悪判断(中学生+保護者)

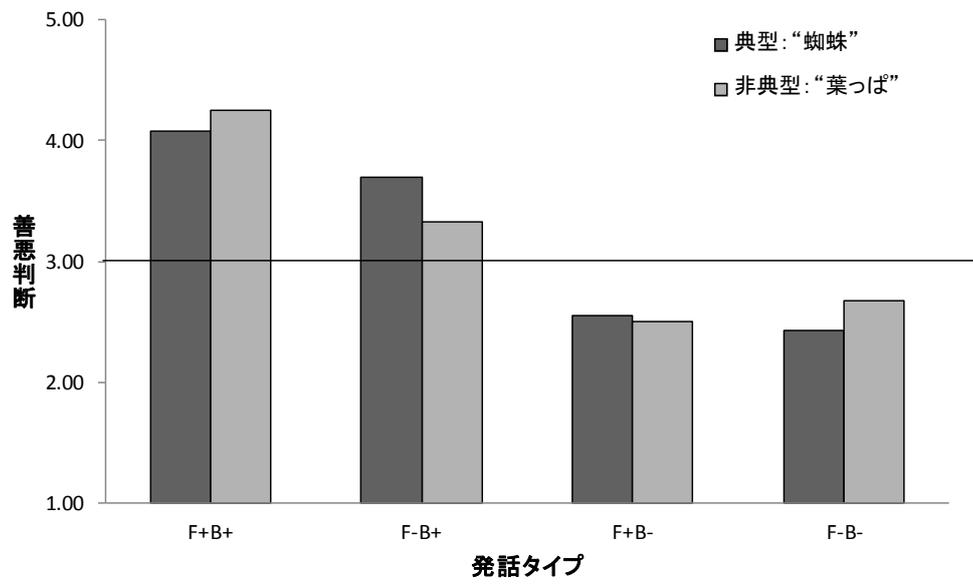


Figure 4-8 冗談場面(葉っぱ)における善悪判断(中学生+保護者)

は、“どちらでもない”と判断され、発話タイプ F·B+, F+B-, F·B は、F+B+に比べて有意に“悪い”と判断されたといえる。発話内容×発話タイプの交互作用はみられなかった ($F(3,87) = 0.52, n.s., \eta^2 = .01$)。

冗談場面 4) 冗談場面の結果を Figure 4-8 に示した。4) 冗談場面では、発話内容の主効果はみられなかった ($M = 3.19, 3.19$) ($F(1,39) = 0.00, n.s., \eta^2 = .00$)。一方、発話タイプの主効果がみられた ($F(3,117) = 46.85, p = .01, \eta^2 = .31$)。下位検定の結果、発話タイプ F+B+, F·B+, F·B-, F+B-の順で評定値が大きいことが示された ($M = 4.16, 3.51, 2.55, 2.53$)。F+B+は他の発話に比べて“よい”と判断され、F+B-, F·B は他の発話タイプに比べて有意に“悪い”と判断された。発話タイプ F·B+は“どちらでもない”と判断されたといえる。F+B-, F·B-の間には有意差はみられなかった。発話内容×発話タイプの交互作用はみられなかった ($F(3,117) = 4.05, n.s., \eta^2 = .01$)。

4) 中学生と保護者の一致率について

中学生と保護者の判断について、4 (場面) × 4 (発話タイプ) × 2 (発話内容) の計 32 の分布表について 2 (年齢：中学生、保護者) × 2 (回答：嘘、嘘以外) のマクネマーの検定を行った。その結果、全ての分布において有意な偏りはみられず、中学生とその保護者の回答の間に関連性を見出すことはできなかった。

中学生とその保護者の回答の一致率を Table 4-7 に示した。親子の回答の一致率について二項検定を行った結果、発話タイプ F+B+では、謙遜場面の非典型性 (徒競争で1位になって、足が速いと思っていて、“速い”と答える) の発話を除いた、全ての発話において86%以上の割合で、親子で回答が一致していた。一致している回答の内訳は、全てが“真実”であった。一方で、発話タイプ F·B+では、冗談場面の非典型性 (お父さんの背中に蜘蛛が落ちて、葉っぱだと思っていて“葉っぱがついているよ”という) の発話でのみ有意な差がみられた。この発話タイプでは、親子の回答が一致する割合に比べ、不一致であ

Table 4-7 親子の回答の一致率

発話タイプ	発話内容	条件	一致		一致した回答の内訳					二項検定	n	
			一致	不一致	嘘	真実	お世辞	冗談	謙遜			間違い
F+B+	典型	嘘	2 (.14)	12 (.86)	12 (.86)	12 (.86)					*	14
		お世辞	1 (.04)	23 (.96)	23 (.96)	23 (.96)					**	24
		謙遜	1 (.06)	16 (.94)	16 (.94)	16 (.94)					**	17
		冗談	1 (.05)	19 (.95)	19 (.95)	19 (.95)					**	20
F+B+	非典型	嘘	2 (.14)	12 (.86)	12 (.86)	12 (.86)					**	14
		お世辞	3 (.13)	21 (.88)	21 (.88)	21 (.88)					**	24
		謙遜	7 (.41)	10 (.59)	10 (.59)	10 (.59)					n.s.	17
		冗談	1 (.05)	19 (.95)	19 (.95)	19 (.95)					**	20

注1. ()内に割合をしめした。
 注2. 最頻値を下線でしめした。
 注3. ** $p < .01$, * $p < .05$

Table 4-7 親子の回答の一致率(つづき)

発話タイプ	発話内容	条件	一致		一致した回答の内訳						二項検定	n	
			不一致	一致	嘘	真実	お世辞	冗談	謙遜	間違い			利他的な嘘
F-B+	典型	嘘	7 (.50)	7 (.50)	1 (.07)	1 (.07)				5 (.36)		n.s.	14
		お世辞	10 (.42)	14 (.58)	13 (.54)					1 (.04)		n.s.	24
		謙遜	7 (.41)	10 (.59)	9 (.53)			1 (.06)				n.s.	17
		冗談	8 (.40)	12 (.60)	12 (.60)							n.s.	20
F-B+	非典型	嘘	9 (.64)	5 (.36)	1 (.07)	2 (.14)				2 (.14)		n.s.	14
		お世辞	15 (.63)	9 (.37)	8 (.33)					1 (.04)		n.s.	24
		謙遜	12 (.71)	5 (.29)	2 (.12)	2 (.12)				1 (.06)		n.s.	17
		冗談	15 (.75)	5 (.25)	1 (.05)					4 (.20)		*	20

注1: ()内に割合をしめした。

注2: 最頻値を下線でしめした。

注3: ** $p < .01$, * $p < .05$

Table 4-7 親子の回答の一致率(つづき2)

発話タイプ	発話内容	条件	一致した回答の内訳		一致した回答の内訳				二項検定	n		
			一致	不一致	嘘	真実	お世辞	冗談			謙遜	間違い
典型	嘘	嘘	4 (.29)	10 (.71)	10 (.71)						n.s.	14
		お世辞	12 (.50)	12 (.50)		7 (.29)	1 (.04)		1 (.04)	3 (.13)	n.s.	24
		謙遜	12 (.71)	5 (.29)	1 (.06)			4 (.24)			n.s.	17
		冗談	11 (.55)	9 (.45)	4 (.20)		5 (.25)				n.s.	20
非典型	嘘	嘘	13 (.93)	1 (.07)	5 (.21)					1 (.07)	**	14
		お世辞	18 (.75)	6 (.25)	7 (.41)		1 (.04)				*	24
		謙遜	8 (.47)	9 (.53)	7 (.41)		2 (.12)				n.s.	17
		冗談	12 (.60)	8 (.40)	5 (.25)		1 (.05)			2 (.10)	n.s.	20

注1. ()内に割合をしめした。
 注2. 最頻値を下線でしめした。
 注3. ** $p < .01$, * $p < .05$

Table 4-7 親子の回答の一致率(つづき3)

発話タイプ	発話内容	条件	不一致	一致	一致した回答の内訳					二項検定	n	
					嘘	真実	お世辞	冗談	謙遜			間違い
F-B-	典型	嘘	1 (.07)	13 (.93)	13 (.93)	13 (.93)					**	14
		お世辞	14 (.58)	10 (.42)	5 (.21)	5 (.21)					n.s.	24
		謙遜	8 (.47)	9 (.53)	7 (.41)	1 (.06)					n.s.	17
		冗談	12 (.60)	8 (.40)	4 (.20)	1 (.05)					n.s.	20
F-B-	非典型	嘘	6 (.43)	8 (.57)	8 (.57)						n.s.	14
		お世辞	15 (.63)	9 (.38)	1 (.04)	1 (.04)					n.s.	24
		謙遜	10 (.59)	7 (.41)	2 (.12)	1 (.06)					n.s.	17
		冗談	12 (.60)	8 (.40)	1 (.05)	2 (.10)					n.s.	20

注1. ()内に割合をしめした。

注2. 最頻値を下線でしめした。

注3. ** $p < .01$, * $p < .05$

る割合の方が多いたことが示された ($p < .05$)。発話タイプ F+B-では、嘘場面の非典型性（窓を割って、割ってないと思っているのに“割った”と答える）、お世辞場面の非典型性（まずいクッキーを、おいしいと思っているのに“まずい”という）の2つの発話においてのみ有意な差がみられた ($p < .01$, $p < .05$)。どちらも、親子の回答が一致する割合に比べ、不一致である割合の方が多いたことが示された。最後に発話タイプ F-B-では、嘘場面の典型性（窓を割って、割ったと思っているのに“割ってない”と答える）の発話でのみ有意な差がみられた ($p < .01$)。この発話では、親子で回答が一致している割合が93%と、不一致である割合に比べて高かった。一致している回答は、全てが“嘘”と判断されていた。

2-4. 考察

本節では、第1節と同様の手続きを用いて、中学生とその保護者を対象に、“事実”、“信念”、“場面”、そして、“発話内容”が嘘の理解とどのように関連しているのかを検討した。以下、結果のまとめと考察を行う。

第1節と同様、事実と信念の両方に反する発話 (F-B-) が嘘、お世辞、謙遜、冗談となるような場面を設定し、4つの発話タイプ (F+B+, F-B+, F+B-, F-B-) が嘘と判断される割合に違いがあるかを検討した。その結果、中学生、保護者ともに、発話が事実と信念の両方と一致している場合 (F+B+) は、“場面”の効果は見られなかった。発話タイプ F+B+では、どの“場面”においても86%以上の割合で発話が“真実”と判断された。発話が事実と反しているが、信念とは一致している発話タイプ (F-B+) でも同様に、中学生、保護者の両方で“場面”の効果はみられなかった。この発話タイプでは、嘘場面で“間違い”と判断される割合が多く、それ以外では“真実”と判断される傾向がみられた。これらの結果は、第1節の大学生を対象とした調査の結果と一致する。しかし、第3章の児童を対象とした調査の結果とは異なり、中学生では発話が事実と一致していなくても、信念と一致していれば、“嘘”とは判断されないことが示された。

発話が事実と一致していて、信念とは一致していない発話タイプ (F+B-) では、中学生、

保護者ともに“場面”の効果がみられた。嘘場面では、他の場面に比べて、発話を“嘘”と判断する割合が有意に高かった。一方で、お世辞場面では、他の場面に比べて、発話を“その他”と判断する割合が高いことが示された。“その他”の内訳については、中学生では“お世辞”と判断した割合が58%、保護者では“利他的な嘘”と判断した割合が42%と高い傾向がみられた。発話が事実とも信念とも一致しない発話タイプ(F・B-)でも、中学生、保護者ともに“場面”の効果がみられた。嘘場面では、他の場面に比べて、発話が“嘘”と判断される割合が有意に高かった。一方で、お世辞場面では、他の場面に比べて、発話が“その他”と判断される割合が高いことが示された。“その他”の内訳については、中学生では“お世辞”と判断した割合が50%と高く、保護者では、“利他的な嘘”と判断した割合が46%と高い傾向がみられた。中学生では、“謙遜”場面でも、その他の場面に比べて、発話を“その他”と判断した割合が有意に高いことが示され、内訳としては、発話を“謙遜”と判断した割合が53%であった。これらの結果は、第1節の大学生の結果と類似しており、中学生と保護者の回答は類似する傾向にあった。これらの結果より、中学生頃には、嘘の判断において“事実”よりも“信念”が重視されることが示された。また、“場面”によっては、“事実”や“信念”に反した発話であっても、必ずしも“嘘”とは判断されない事が示された。そして、中学生頃になれば、大人と同じような判断がなされることが示唆された。

善悪判断においても、中学生と保護者との間に有意な違いはみられず、本調査では年齢の効果について確認することはできなかった。そのため、年齢群をまとめた分析を行った結果、第1節の大学生の結果と同様、信念に反する発話は(F+B-, F-B-)は、“悪い”と判断される傾向がみられた。一方、発話が信念と事実の両方と一致している発話タイプF+B+では、お世辞場面を除くその他の場面で発話が“よい”と判断された。また、善悪判断においては、冗談場面以外の3つの場面において、発話内容の効果がみられた。この点は、第1節の大学生を対象とした調査の結果とは異なる。第1節の調査では、発話内容の効果がみられたのはお世辞場面のみであった。本節でも、お世辞場面では、“まずい”と

いう発話内容が、“おいしい”という発話内容に比べて“悪い”と評価された。この部分については第1節の大学生の結果と一致する。しかし、その他にも本節では、嘘場面は“割った”という発話内容に比べて“割っていない”という発話内容が、謙遜場面では“遅い”という発話内容に比べて“速い”という発話内容が“悪い”と判断された。嘘場面においては、発話内容×発話タイプの交互作用がみられた。各発話タイプにおいて、それぞれ発話内容によって善悪判断の評価に違いがみられるかどうか検討した結果、発話タイプ F+B+を除く3つの発話タイプにおいて、発話内容の効果がみられた。発話タイプ F+B+では、窓を割って“割った”と答える場合でも、窓を割っていないで“割っていない”と答えた場合でも、どちらも発話は“よい”と判断された。一方、発話タイプ F-B+では、窓を割っているのに、割っていないと誤って“割っていない”と答える場合は、窓を割っていないのに、割ったと誤って“割った”と答える発話に比べて“悪い”と判断されたことが示された。ここでは、2つ点が考えられる。1つ目に、事実性が考慮されている可能性が考えられる。発話タイプ F+B+では、窓を割っていたとしても、割っていなかったとしても発話は“よい”と判断された。しかし、F-B+では、“割ってない”という発話内容は、“割った”という発話内容に比べて、“悪い”と判断された。つまり、実際には窓を割っているのだから、いくら割っていないと誤っていたとしても、事実が“割った”場合の発話がより“悪い”と判断された可能性がある。嘘場面では、他の場面に比べて、情報の正しい伝達が重要となる。例えば、お世辞場面、謙遜場面での事実は、話者の主観（信念）に依存し（話者が“まずい”と誤っていたら、それが事実となる）、さらには、関係性の維持が優先されるため、事実性はそれほど重要ではない。一方、嘘場面のように、情報の伝達が重視されるような場面では、時に、信念よりも事実を優先した判断がなされる可能性も考えられる。この発話タイプ F-B+では、事実性が重視され、発話が“悪い”と判断された可能性が高い。残りの、発話タイプ F+B-, F-B-においても、発話内容の効果がみられた。発話タイプ F+B-では、窓を割っていないのに、割ったと誤って“割っていない”と答える場合は、窓を割ったのに割っていないと誤って“割った”と答

える場合に比べて“悪い”と判断された。発話タイプ F・B⁻では、窓を割って、割ったと思っているのに“割っていない”と答える場合は、窓を割っていないで、割っていないと思っているのに“割った”と答える場合に比べて“悪い”と判断された。

また、第2節では、中学生の嘘の判断に保護者の判断が及ぼす影響についても検討を行った。予備的に行った2（参加者：中学生，保護者）×2（回答：嘘，その他）のマクネマーの検定では、2（発話内容：典型性，非典型性）×4（場面：嘘，お世辞，謙遜，冗談）×4（発話タイプ：F+B⁺,F-B⁺,F+B⁻,F-B⁻）の32個のクロス表全てで有意な差は見られなかった。これらの結果より、中学生と保護者の回答の間に関連は見いだせなかったといえる。さらに、中学生と保護者の回答の一致率について検討した。それぞれの場面、発話タイプ、発話内容について、2（回答：一致，不一致）の二項検定を行った。F+B⁺では、全ての場面、全ての発話内容において、有意な差がみられ、中学生と保護者の回答は不一致である場合に比べて、一致している割合が有意に高いことが示された。さらに、回答が一致している場合は、全てが“真実”と判断されていた。発話タイプ F・B⁻では、嘘場面の典型性の発話（窓を割って、割ったと思っているのに“割っていない”と答える）でのみ有意な差がみられた。この発話では、親子で回答が一致している割合が93%と高かった。一致している回答は、全てが“嘘”と判断されていた。これらの結果は、親子であることによる一致であるというよりは、参加者のほとんどがそのように回答したために一致率が高まった可能性がある。中学生頃には、親、しつけ、家庭の影響を受ける段階から、次の段階へ移行している可能性が考えられる。12, 13歳頃には、“家庭”という単位より、大きい“社会”の概念と一致した、一般的なスクリプトの枠組みで嘘の理解がなされるようになる可能性が示唆された。

本節では、参加者数の問題から、嘘の判断における“発内内容”の効果については検討できなかった。次の第3節では、この点について、第1節の大学生の参加者と合わせた再分析を行う。

第3節 発話内容の違いが嘘の判断に及ぼす影響についての再分析

3-1. 目的

第1節では大学生、第2節では中学生と保護者を対象に、“事実性”、“信念”などの認知的な要因、そして、“場面”、“発話内容”といった社会的な要因が嘘の理解とどのように関連しているのかについて検討を行った。第1節、第2節ともに、“嘘”、“お世辞”、“謙遜”、“冗談”の4種類の“場面”において、事実や信念と一致する、もしくは、反する発話が、それぞれ“嘘”と判断されるか否かについて調べた。その結果、全ての年齢群で“場面”の効果がみられ、“信念”と“事実”に反するという意味で同じ構造を持つ発話であっても(発話タイプ F-B-)、“場面”によって異なる分類がなされることが示された。さらに、第1節の大学生の調査では、嘘場面においては、“発話内容”の効果がみられ、割った窓を割ったと思っているのに“割っていない”という発話内容を“嘘”、割ってない窓を、割ってないと思っているのに“割った”と答える発話内容を“その他”と判断した参加者の割合(.59)は、前者を“その他”、そして、後者を“嘘”と判断した参加者(.06)に比べて有意に高いことが示された。発話が事実と信念の両方に反しているという点では全く同じ構造を持つ発話であるにも関わらず、一方は嘘と判断されやすく、もう一方は嘘とは判断されない。同じく、冗談場面でも、葉っぱだと思っているものを“蜘蛛”と伝える場合には、発話は“その他”と分類されるにも関わらず、蜘蛛だと思っているものを“葉っぱ”であると伝える場合には、発話は“嘘”と判断されやすいことが示された。これらの結果は、佐藤(1996)による調査の結果と類似するものである。第2節では、参加者数の問題によりこの点についての検討はできなかった。この第3節では、年齢による違いがないことを確認した上で、中学生、大学生、そして、保護者をまとめ、“発話内容”によって、その発話が嘘と判断される割合に違いがみられるかについての再分析を行う。

3-2. 結果

まず、年齢の効果が無い事を確認するために、第1節、第2節の調査の参加者を合わせて、4（場面）×4（発話タイプ）×2（発話内容）の計32のクロス表について、3（年齢：中学生、大学生、保護者）×2（判断：嘘、その他）のカイ二乗検定を実施した。その結果、32個中1つのクロス表においてのみ分布に有意な偏りがみられた¹。しかし、それ以外の31のクロス表では、有意な差はみられなかった。この結果から、本研究では、中学生、大学生、保護者の間の発話の判断に、年齢差はみられなかったことが示された。従って、全ての年齢群の参加者を合わせて以下の分析を行った。各場面の発話タイプごとに2（発話内容：典型性、非典型性）×2（回答：嘘、その他）のマクネマーの検定を行った。結果をTable 4-8に示す。

1) 嘘場面

嘘場面の発話タイプ F+B+では、発話内容の違いによる分布の偏りはみられなかった。F+B+では、参加者は98%の割合で、典型性、非典型性の両方の発話内容を“その他”と判断した。次に、発話タイプ F-B+でも、F+B+と同様、発話内容の違いによる分布の偏りはみられなかった。F-B+でも、参加者は82%の割合で、典型性、非典型性の両方の発話内容を“その他”と判断した。割ったとっていて“割った”と答える場合や、割っていないとっていて“割っていない”と答える場合には、発話内容の影響はみられない事が示された。

一方、F+B-、F-B-の発話が信念と一致していない発話タイプでは、発話内容の違いによる分布の偏りがみられた ($p < .001$)。発話タイプ F+B-、F-B-の両方において、窓を割ったと知っているのに“割っていない”と答える場合（典型性）を“嘘”，窓を割っていないと知っているのに“割った”と答える場合（非典型性）を“その他”と判断した参加者

¹ 嘘場面における発話タイプ F+B-（非典型性）において、分布に有意な差がみられた ($\chi^2(2) = 6.24, p < .05$)。この発話を“その他”と分類した参加者の割合は、大学生では20%と他の年齢群に比べて高いことが示された（残差：2.47, $p < .05$ ）。

Table 4-8 各場面における発話内容の違いによる嘘・その他判断

	F+B+	F-B+	F+B-	F-B-	
嘘	両方“嘘”	0 (.00)	1 (.02)	7 (.16)	4 (.09)
	両方“その他”	<u>44 (.98)</u>	<u>37 (.82)</u>	12 (.27)	4 (.09)
	“割ってない”を“嘘” “割った”を“その他”	0 (.00)	3 (.07)	<u>24 (.53)</u>	<u>36 (.80)</u>
	“割ってない”を“その他” “割った”を“嘘”	1 (.02)	4 (.09)	2 (.04)	1 (.02)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	**	**
お世辞	両方“嘘”	0 (.00)	0 (.00)	2 (.03)	1 (.02)
	両方“その他”	<u>65 (.98)</u>	<u>62 (.94)</u>	<u>38 (.58)</u>	<u>35 (.53)</u>
	“おいしい”を“嘘” “まずい”を“その他”	0 (.00)	1 (.02)	0 (.00)	1 (.02)
	“おいしい”を“その他” “まずい”を“嘘”	1 (.02)	3 (.05)	26 (.39)	29 (.44)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	**	**
謙遜	両方“嘘”	0 (.00)	5 (.09)	4 (.08)	3 (.06)
	両方“その他”	<u>52 (.98)</u>	<u>39 (.74)</u>	<u>22 (.42)</u>	<u>28 (.53)</u>
	“遅い”を“嘘” “速い”を“その他”	0 (.00)	1 (.02)	6 (.11)	3 (.06)
	“遅い”を“その他” “速い”を“嘘”	1 (.02)	8 (.15)	21 (.40)	19 (.36)
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	*	**	**
冗談	両方“嘘”	0 (.00)	1 (.02)	11 (.19)	13 (.22)
	両方“その他”	<u>58 (1.00)</u>	<u>55 (.95)</u>	<u>20 (.34)</u>	<u>19 (.33)</u>
	“くも”を“嘘” “葉っぱ”を“その他”	0 (.00)	1 (.02)	7 (.12)	7 (.12)
	“くも”を“その他” “葉っぱ”を“嘘”	0 (.00)	2 (.03)	<u>20 (.34)</u>	<u>19 (.33)</u>
	マクネマーの検定	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	*	*

注1. ()内に割合をしめした。

注2. 最頻値を下線でしめした。

注3. ** $p < .01$, * $p < .05$

の割合 ($F+B^- = .53$, $F-B^- = .80$) は、その反対の典型性の発話を“その他”，非典型性の発話を“嘘”と判断した参加者の割合 ($F+B^- = .04$, $F-B^- = .02$) に比べて有意に高いことが示された。発話が事実と一致しているかどうかに関係なく、発話が信念に反している場合は、同じ構造を持つ発話タイプであっても、窓を割ったと思っているのに“割っていない”と答える場合は、窓を割っていないと思っているのに“割った”と答える場合に比べて、“嘘”と判断される割合が高い事が示された。

2) お世辞場面

お世辞場面の発話タイプ $F+B+$, $F-B+$ でも、嘘場面と同様に、発話内容の違いによる分布の偏りはみられなかった。発話タイプ $F+B+$ では98%， $F-B+$ では94%の割合で、典型性、非典型性の両方の発話内容が“その他”と判断された。お世辞場面でも、発話が信念と一致している場合、つまり、事実に関係なく、おいしいと思っているクッキーを“おいしい”と答える場合や、まずいと思っているクッキーを“まずい”と答える場合には、発話内容の影響はみられない事が示された。

一方、発話タイプ $F+B^-$, $F-B^-$ では、分布に有意な偏りがみられた ($ps < .001$)。発話タイプ $F+B^-$, $F-B^-$ の両方において、まずいと思っているのに“おいしい”と答える場合(典型性)を“その他”，おいしいと思っているのに“まずい”と答える場合(非典型性)を“嘘”と判断した参加者の割合 ($F+B^- = .39$, $F-B^- = .44$) は、その反対の典型性の発話を“嘘”，非典型性の発話を“その他”と判断した参加者の割合 ($F+B^- = .00$, $F-B^- = .02$) に比べて有意に高いことが示された。おいしいと思っているクッキーを“まずい”と答える場合は、まずいと思っているクッキーを“おいしい”と答える場合に比べて、“嘘”と判断される割合が高いことが示された。

3) 謙遜場面

謙遜場面でも、発話タイプ $F+B$ では分布に有意な偏りはみられなかった。発話タイプ

F+B+では98%の割合で、典型性、非典型性の両方の発話内容が“その他”と判断された。一方、発話タイプ F-B+, F+B-, F-B-では、分布に有意な偏りがみられた。まず、発話タイプ F-B+では、“徒競争で1位になったのに、足が遅いと思っていて‘足が遅い’と答える”場合(典型性)を“その他”, “徒競争でビリになったのに、足が速いと思っていて‘足が速い’と答える”場合(非典型性)を“嘘”と判断した参加者の割合(.15)は、その反対の典型性の発話を“嘘”, 非典型性の発話を“その他”と判断した参加者の割合(.02)に比べて有意に高いことが示された($p = .04$)。この発話タイプでは、実際には足が遅いのに“速い”と答える場合は、実際には速いのに“遅い”と答える場合に比べて“嘘”と判断される割合が高いといえる。

次に、発話タイプ F+B-, F-B-では、事実に関わらず、速いと思っているのに“遅い”と答える場合(典型性)を“その他”, 遅いと思っているのに“速い”と答える場合(非典型性)を“嘘”と判断した参加者の割合(F+B- = .40, F-B- = .36)は、その反対の典型性の発話を“嘘”, 非典型性の発話を“窓を割った”を“その他”と判断した参加者の割合(F+B- = .11, F-B- = .06)に比べて有意に高いことが示された($ps = .01$)。この2つの発話タイプでは、事実に関わらず、遅いと思っているのに“速い”と答える場合は、速いと思っているのに“遅い”と答える場合に比べて“嘘”と判断される割合が高いといえる。

これまでの、嘘、お世辞場面とは異なり、謙遜場面では、発話が信念と一致していたとしても、事実と反する場合(F-B+)には、発話内容の効果がみられた。自分で足が速いと信じていたとしても、事実以上に自分自身をよく見せる発話を行う場合は“嘘”と判断される一方で、自分で足が遅いと思っていたとしても、実際より自分を悪く見せる発話は必ずしも“嘘”とは判断されない。

4) 冗談場面

冗談場面でも、発話タイプ F+B+と F-B+で分布に有意な偏りはみられなかった。発話タイプ F+B+では100%, F-B+では95%の割合で、典型性、非典型性の両方の発話内容を“そ

の他”と判断した。ここでも、発話が信念と一致している場合、つまり、事実に関係なく、蜘蛛と思っているものを“蜘蛛”と答える場合や、葉っぱであると思っているものを“葉っぱ”と答える場合には発話内容の影響はみられない事が示された。

一方、発話タイプ F+B-, F-B-では、分布に有意な偏りがみられた (F+B- : $p = .02$, F-B- : $p = .03$)。F+B-, F-B-の両方において、事実に関わらず、背中についているものが葉っぱであると思っているのに“蜘蛛”と答える場合(典型性)を“その他”, 蜘蛛だと思っているのに“葉っぱ”と答える場合(非典型性)を“嘘”と判断した参加者の割合 (F+B- = .34, F-B- = .33) は、その反対の典型性の発話を“嘘”, 非典型性の発話を“その他”と判断した参加者の割合 (F+B- = .12, F-B- = .12) に比べて有意に高いことが示された。発話が事実と一致しているかどうかに関係なく、蜘蛛と思っているものを“葉っぱ”と答える場合は、葉っぱであると思っているものを“蜘蛛”と答える場合に比べて“嘘”と判断される割合が高いといえる。

3-3. 考察

第1節、第2節の結果から、嘘の判断に“事実性”や“信念”などの認知的な要因と“場面”などの社会的な要因が大きく関わっていることが示されてきた。その一方で、先行研究では同じ構造を持つ発話であるにも関わらず、その発話内容によって、嘘と判断されるか否かに違いがみられるかについてはほとんど体系的な検討がされてこなかった。第3節では、同じ構造を持つ発話であっても、“発話内容”による違いが発話の嘘判断に影響を及ぼす可能性があるのかについて検討を行った。

まず、事実に関わらず、信念と発話が一致している発話タイプ (F+B+, F-B+) では、1つの場面(謙遜場面の発話タイプ F-B+)を除き、発話内容による判断の違いはみられなかった。これらの発話タイプでは、典型性の発話、非典型性の発話の両方を“その他”と判断する割合が高かった。つまり、発話が信念と一致している場合は、発話内容の影響を受けないといえる。

次に、事実に関わらず、発話が信念に反している発話タイプ (F+B-, F-B-) では、全ての場面で、発話内容の効果がみられた。嘘場面では、典型性の発話 (窓を割ったと思っているのに“割っていない”という) を“嘘”, 非典型性の発話 (窓を割っていないと思っているのに“割った”という) を“その他”と判断した参加者の割合は、典型性の発話を“その他”, 非典型性の発話を“嘘”と判断した参加者に比べて高いことが示された。一方、お世辞, 謙遜, 冗談場面では、逆の結果がみられた。この3つの場面では、典型性の発話を“その他”, 非典型性の発話を“嘘”と判断した参加者の割合は、その逆の、典型性の発話を“嘘”, 非典型性の発話を“その他”と判断した参加者に比べて高いことが示された。お世辞, 謙遜, 冗談など、礼儀・コミュニケーションの円滑さを目的とした場面の典型性の発話内容では、信念や事実と反する発話であっても、関係性の維持という目的が優先されるため、必ずしも嘘とは判断されない。一方で、この3つの場面の、非典型性の発話は“嘘”と判断された。例えば、お世辞場面のおいしいと思っているクッキーを“まずい”という発話内容は、聞き手を傷つけてしまう可能性があり、Sweetser (1987) のモデルの傷つける (harm) 動機による発話に該当する可能性がある。謙遜場面の足が遅いと思っているのに“速い”という発話内容では、自分を必要以上によく見せようとする、自分に関する事実を正確に伝達していない、そして、自分をよく見せる事で聞き手を不快な気持ちにさせてしまう可能性がある。そして、冗談場面では、背中についているのが蜘蛛だと思っているのに、“葉っぱ”だという発話内容は、蜘蛛が嫌いな人物であったら、正しく情報を伝達しなかった事により、不快な思いをする可能性が考えられる。これらの点から、Sweetser (1987) のモデルの情報伝達、関係性維持の両方が阻害されるような発話内容になっていると考えられる。

一方、嘘場面は情報伝達を重要視する場面として設定された。そのため、典型性の発話内容では、正しい情報伝達が阻害され、Sweetser (1987) のモデルに基づけば、この発話は“嘘”と判断されるであろう。一方、非典型性の発話内容では、自分は窓を割っていないと思っているにも関わらず、“割った”と答えるという、自己犠牲が含まれる発話内容と

なる。自己犠牲を行う目的としては、関係性の維持や誰かを助ける（help）行為が含まれる可能性があるため、信念や事実と反する発話であっても“嘘”とは判断されにくかった可能性が高い。

これらの点を踏まえると、同じ構造を持つ発話であったとしても、発話内容の違いにより、その発話を伝達するための目的が変わる。そして、参加者の多くは発話内容から、それぞれの発話の目的を推測し、嘘の判断を行っていた可能性が考えられる。これは、認知的な側面に加えて、文化、社会的な側面が、嘘の判断に大きく影響していることを示唆する。嘘の判断では、はじめに信念と発話との照合がなされるであろう。例外はあっても、信念と一致していれば、発話は“嘘”とは判断されず、信念に反した発話のみが、嘘判断のための次の段階へと進む。次の段階では、Sweetser（1987）のモデルに基づき、その発話の目的が検討される。そして、その目的が情報の正しい伝達を妨害するもの、または、聞き手を傷つける、不快な思いをさせるなど、関係性の維持を妨害するような内容であれば、“嘘”と判断され、礼儀やコミュニケーションの円滑さ、聞き手を助ける（help）するような目的がある場合には、“嘘”とは判断されないと考えられる。この時、“事実性”はその判断に影響を与えないと考えられる。事実とは、そもそも話し手が事実をどのように理解しているかによって変化する。つまり、話し手の主観的な事実である“信念”が“事実”となる場合がある。ここでは発達的な問題が大きく影響する。第2章、第3章で示したような幼児期、児童期における嘘の判断では、話者の信念、つまり、主観的な事実がその人物にとっての“事実”となることを理解することは難しい。そのため、客観的な事実が嘘の判断において重要となる。しかし、第4章の結果でも示されたように、12歳頃になれば、大人と同様、“信念”を重視し、“場面”や“発話内容”から推測される、話者の目的を考慮した嘘の判断が可能になると考えられる。

第5章 総合考察

本論文では、幼児、児童、中学生、大学生、そして、保護者を対象とし、3つの目的に基づき嘘の概念理解の発達について検討を行った。1つ目の目的は、子どもによる初期の嘘の概念理解について調べることであった。心の理論の獲得時期となる幼児期の子どもを対象とし、最も初期の嘘の理解の特徴について検討を行った（第2章）。2つ目に、心の理論獲得後の児童期以降の嘘の概念理解について、認知的な要因（事実性、他者の信念の理解）に加え、“文脈／場面（どのような場面でその発話がなされたか）”といった社会的な要因の影響について検討を行った（第3章）。3つ目には、大学生、中学生、そして、その保護者を対象とし、“事実性”、“信念”、“文脈／場面”に加えて、社会的な要因である“発話内容”を含む嘘の理解について検討した（第4章）。本章では、まず上記の研究目的にそって、以下に本論文全体の考察を行う。そして、最後に、本研究の応用的な意義と今後の展望について議論を行う。

第1節 本研究のまとめ

1-1. 子どもによる初期の嘘の理解と用いる課題の特性

本研究の第2章では、幼児を対象とし、子どもによる初期の嘘の概念理解について検討を行った。さらに、これまで先行研究の中で開発されてきた、子どもの嘘の理解を測定するための様々な課題について、その課題間の類似性や、関連性を明らかにすることを目的とした。第2章では、幼児に対して、①嘘や本当の発話を同定させる（同定課題）、②嘘と本当を定義させる（定義課題）、③嘘と本当の違いを説明させる（弁別課題）、④善悪判断をさせる（善悪判断課題）、⑤嘘をつくことによる結果について説明させる（結果の予測課題）、⑥嘘と誤りを弁別させる（嘘、間違い課題）、⑦実際に嘘をつかせる（行動課題）など、これまでに先行研究において用いられてきた、嘘の理解について調べるための代表

的な課題を実施した。結果から、子どもは、4歳頃には、嘘と本当の発話をそれぞれ正しく同定する事ができ、嘘は“悪い”事であるという理解が可能になる。そして、6歳頃には、嘘と本当は“違う”ものであることを理解できるが、その違いについて説明する、定義することは難しい。さらに、6歳頃には、言葉では説明できないとしても、信念に基づいて嘘と単なる間違いを正しく弁別する事ができる。この頃には、行動レベルにおいても相手を騙すような嘘をつけることが示された。よって、4歳頃の子どもの嘘の理解は、発話を事実性に基づいて嘘か否かを正しく分類し、嘘が悪いことであるといったレベルに留まる。一方、6歳頃には、話者の信念を考慮した嘘の同定が可能となり、行動の上でも信念に基づいて聞き手を騙すような嘘をつけるようになるといえる。その一方で、定義を行うなどの言語能力に大きく依存するレベルでの理解は6歳であっても難しく、“嘘をつく”と、権威者（母親、先生など）によって罰せられる”という内容以上の説明は難しい事が示された。これは、多くの先行研究の結果を再現するものであった（Bussey, 1992; Bussey & Grimbeek, 2000; Lyon & Saywitz, 1999; Peterson *et al.*, 1983; Piaget, 1932/1997; Pipe & Wilson, 1994; Strichartz & Burton, 1990; Wimmer *et al.*, 1984 など）。

さらに、課題間の関連性については、同定課題・善悪判断課題は類似しており、発達段階の初期のレベルでの理解度と関連すると考えられる。さらに、行動課題と嘘と間違いを弁別する課題の間に関連性がみられた。これらの課題は、信念に基づく理解を測定していると考えられる。嘘をつくことによる結果について説明する課題、嘘と本当の違いを説明を求める課題、定義課題は言語能力に大きく依存し、年齢の高い子どもにとっても難しい課題であるといえる。これらの言語的な説明を求めるような課題は、大人であっても難しい。幼児を対象として、定義や違いの説明を求めるような課題を用いたとしても、子どもの嘘の理解を適切に測定できていない可能性がある。一方、同定課題や善悪判断課題では、“聞き手に事実とは異なる内容の情報を信じ込ませる”という、嘘本来の意味の理解を測定できているとは言えない。嘘の認知的な側面における概念理解を適切に測定するためには、信念を考慮した課題や、行動レベルで他者を欺くことができるかどうかを調べる必要

があることが示唆された。

1-2. 嘘の概念理解における認知的・社会的要因の位置づけとその関連性

本論文の2つ目の目的は、嘘の概念理解の認知的な側面（事実性、他者の信念、意図性等）に加えて、嘘の社会的な側面（場面、発話内容）についても調べることであった。嘘とは、単に“事実や信念に反する発話”という理解だけでは不十分である。本来嘘には、社会的な機能があり、人は日常生活の中で、他者との関係性を維持したり、争いを避けたり、コミュニケーションを円滑にすることを目的として、事実や信念に反する発話を行うことがある。しかし、これまで先行研究の多くでは、“事実性”や“信念”などの認知的な要因との関連性が注目され、嘘の社会的な側面についての検討はほとんどされて来なかった。道徳性の発達的主要な理論においては、道徳性の発達を普遍的なものにとらえ、社会・状況的な要因ではなく、認知発達によってその理解が獲得されると考えられてきた(Crain, 1981/1984)。しかし、近年の研究では、道徳性の理解も文脈に大きく依存するものであることが新たに示されるようになってきている (Lee *et al.*, 1997)。第3章、第4章では、これまでの先行研究で取り上げられてきた“事実性”、“信念”などの認知的な要因に、“場面（嘘、お世辞、謙遜、冗談）”、“発話内容（例、おいしい vs まずいなど）”を社会的な要因として加え、両方の側面から嘘の概念理解について検討を行った。その結果、“場面”、“発話内容”によって、発話が“嘘”と判断される割合に違いがみられることが示された。同時に、発話の善悪判断においても、“場面”や“発話内容”による違いがみられた。これらの結果は、Sweetser (1987) や Lee & Ross (1997) らのモデルを支持し、嘘の概念理解においては、認知的な要因と同様、社会的な要因が重要な役割を果たすことを示す結果となったと言える。また、これらの社会的な要因は9歳以降に考慮され始めることが示された。認知的な要因については、幼児などにみられる“一次的信念”の理解にはじまり、9歳頃になると“相手を騙す”などより高次の信念の理解が嘘の判断に含まれるようになる。このような高次の信念の獲得は、嘘がつかれる文脈や場面の理解にもつながる可能性

があると考えられる。一方、社会的要因については、幼児では、嘘をつく“先生に怒られる”など、権威者への言及がみられた。そして、児童以降では“場面”や“発話内容”を考慮した判断が可能になる。これらの結果から、幼児期の一次的信念の理解に基づいた嘘の理解を経て、児童期後期には“相手を騙す”ことや、場面を考慮した嘘の判断が可能になることが示唆された。

1-3. 認知的・社会的要因に基づく嘘の概念理解の発達

本論文での3つ目の目的は、認知的（事実性、他者の信念）・社会的な要因（場面、発話内容）が、それぞれの発達段階での嘘の理解の中でどのように位置づけられるかを検討することであった。認知的な要因については、多くの先行研究で示されてきたように、年少の子どもは発話が“事実”と一致しているかどうかの基準に基づいて、嘘の理解がなされるのに対して、年齢が上がるにつれ、“信念”という内的な要因が重視される判断へと移行していく。本論文の第3章でも、1年生の参加者は“事実性”を重視した嘘の判断を行い、5年生では“信念”を考慮した判断がみられ始めた。3年生の判断はその間の過渡期にあることが示された。そして、第4章でみられたように、中学生頃になれば、大人（大学生や保護者）と同じような判断を行う事が可能となる。本研究においても、単なる事実との照合の判断から、誤信念の理解などを含むより複雑な判断へと変化していく過程が示された。

一方で、社会的な要因（“文脈”，“発話内容”）についてはどうだろうか。第3章では、“場面”を考慮した判断を行う事が可能になるのは3年生以降であることが示された。9歳以下の子どもは、社会的な要因を考慮し、嘘とその他の虚偽を弁別することは難しい。そして、第4章でみられたように、中学生頃になれば、大人と同じような“場面”を含む判断が可能となる。それでは、年少の子ども達の嘘の理解には、社会的な要因は全く考慮されないのであろうか。Lee & Ross (1997) は、以下のような考察を行っている。Piagetによる、嘘の概念理解の発達段階では、第一段階の子どもは、“悪口”，“呪い”，“汚い言葉

づかい”など、大人から禁じられている言葉を口にすることも“嘘”であると分類するような、拡張された理解がなされていることが示された。この段階の子どもは、“嘘”とは権威者により申し渡されたルールを破ることであると理解している。これらの結果は、嘘の概念理解の初期段階では、認知的な要因よりもむしろ、社会的な要因の影響を大きく受けることを示しているともとれる (Lee & Ross, 1997)。本論文の第2章でも、嘘をつくとどうなるかを尋ねたところ、“お母さんに怒られる”、“先生に怒られる”など、権威者による評価に言及する回答が多くみられた。年少の子どもにとっての社会では、子どもを取り巻く身近な大人（保護者、保育園の先生など）との関係性が大きな役割を果たす。このような、年少の子どもによる“権威者による評価”を基準とした嘘の理解は、年齢の低い子どもにとっての社会的な要因を含めた嘘の理解ということにならないだろうか。Uemiya & Naka (2010) は、幼児から大学生までの参加者を対象に、1) 嘘の定義や2) 嘘をつくとどうなるかについての説明を求める調査を実施した。その結果、“嘘をつくとどうなるか”という質問に対して、幼児では“権威者による評価”，小学生では“権威者による評価”に加え、“状態の説明（例、また次の嘘をつかなければならなくなる；正しい情報が伝わらない）”，中学生では“社会的な評価（例、信頼をなくす、友達をなくす）”や“道徳的理由・他者の感情（例、他の人が傷つく、罪悪感が生まれる）”への言及が多くみられた。大学生になると、“道徳的理由・他者の感情”に加え、“状況に依存する（例、時には嘘も必要、時には本当のことを伝える方が相手を傷つける）”ことへの言及が多くみられた。これらの結果から、幼児や小学生では権威者、中学生では友人や他者、そして、大人になればより大きな社会と、それぞれの発達段階で“社会”とされる対象に関連する説明がなされることが示された。これらの知見を踏まえると、嘘の理解の発達は、認知的な要因を考慮した理解、つまり、事実性を重視する判断から、信念を考慮する判断へと進み、その後、社会性を考慮した判断へと移行するという単純な発達の経過を辿るモデルでは捉えにくい可能性がある。反対に、社会的な要因は初期の段階から常に考慮され、そこに認知的な要因が徐々に加わっていく可能性も考えられる (Lee & Ross, 1997)。また、社会的な要因は、

幼児期の初期の嘘の概念理解の時期から常に大きな役割を果たしており、それぞれの発達段階で“社会”とされる対象が変化していくという事なのかもしれない。社会的、認知的な要因の両方が常に関わるが、それぞれの発達段階で、各要因の重みづけが異なり、変化していく可能性があると考えられる。

第2節 本研究の応用的な意義

子どもの嘘の概念理解の発達について明らかにすることは、子どもの証言能力の査定の問題において、応用的な意義を示すことができる。これまで、認知心理学、発達心理学などの領域における多くの先行研究から、子どもの記憶は変容しやすく、被暗示性 (suggestibility) が高いため誘導による影響を受けやすいことが示されてきた (Ceci & Bruck, 1993; 1999)。このような特徴により、子どもの証言の信用性が否定される事例が多く存在した。証言能力とは、法廷で証言するためにすべての証人が有していなければならない一般的な能力の事を指す。米国では、ある時期まで10歳以下の子どもは証言能力に欠けると判断され、法廷で証言することを認められてこなかった (Haugaard, 1988; Melton, 1981; Trowbridge, 2003)。しかし、1895年に *Wheeler v. United States* の判決において、合衆国の最高裁判所は、5歳児の少年の証言能力を認め、判決の中で、証言能力を規定するのは年齢ではなく、その子どもの能力や知能、嘘と本当の違いについての理解、そして、法廷では真実を述べなければならないという手続きの理解によって判断されるとした (Myers, 1993)。米国では、この時期を境に、事例によっては、陪審員のいない予備審問 (voir dire) の場で、裁判官により証言能力の査定を行うようになった。これらの予備審問では、嘘と本当を区別する能力があるかどうか、また、法廷では真実を述べなければならないという義務を理解できているかどうかについて、子どもに様々な質問を行い、その証言能力が判断される (Haugaard, 1988; Melton, 1981; Myers, 1993; Trowbridge, 2003)。

同様に英国でも、ある時期まで、刑事訴訟法において、少なくとも6歳に達していない子どもの証言能力は認められてこなかった (Home Office, 1992; Myers, 1993; Milne & Bull, 1999)。しかし、1988年にイングランド・ウェールズ地方では、宣誓していない子どもによる補強証拠のない証言に基づいて、人を有罪にすることはできないという法律が廃止され、子どもが年齢に関わらず、法廷で証言できるようになった (Milne & Bull, 1999)。欧米諸国において、子どもの証言が法廷で認められるようになって来た経緯として、性虐待などの裁判があげられる。これらの裁判では、被害児の証言なしに被告人の罪を追求することが非常に難しいと言われている (Haugaard, 1988)。性虐待、性犯罪では、物証、医学的証拠、目撃証言がほとんどなく、その犯罪を証明するものとして、被害児の証言しかないというケースも多い (Frasier & Makoroff, 2006; Smith, Letourneau, Saunders, Kilpatrick, Resnick, & Best, 2000)。被害児の証言が認められない場合には、犯罪の立証が難しいという問題がある。

Myers (1993) は、米国の過去の判例を参照し、法廷において子どもが証言するためには、1) 証言するために必要な認知的、道徳的能力を有している、2) 関連する事実についての個人的な知識を有している、3) 宗教的な宣誓 (oath)、もしくは、非宗教的な宣誓 (affirmation) のどちらを行うといった3つの要件満たしていなければならないとしている。そのうち、1) 証言するために必要な認知的、道徳的能力として、①観察する能力、②記憶能力、③コミュニケーション能力、④真実と嘘を弁別する能力、そして、⑤法廷では真実を述べなければならないという義務について理解する能力の5つをあげている。

Burton & Strichartz (1991) も同様に、嘘・真実の概念の発達、道徳性の発達、道徳判断と道徳的行為との関連についての実証研究に基づき、子どもの証言能力について議論している。論文の中で、1) 法廷では真実を述べなければならないという義務、そして、嘘と本当の違いを理解している、2) 出来事の時点で情報を符号化している、3) 出来事を記憶している、そして、4) 出来事に関する情報を裁判と関連付ける能力を有していることが証人として必要な要素であるとしている (類似したものに Melton, 1981)。

Perner (1997) は、認知発達心理学的な視点から子どもの証言能力について議論を行った。Perner (1997) は、法廷で真実を述べる義務について理解するためには、嘘や真実を区別することができるというだけでは不十分であると述べている。証人として大切なのは、他の人が知らないが、必要としている情報を自分自身が知っているということを理解していることである。また、真実を話すことの重要性に加えて、真実を話さないこと、また、間違っただけの情報を広めることの影響についても理解が必要であるとしている。

以上の研究を概観した結果、記憶力、知覚力、コミュニケーション能力などが証言能力に必要な一般的な能力であることが伺える。同時に、法廷という真実を追求する場面では、真実と虚偽を弁別する能力、真実を述べるという義務について理解、また、実行する能力が非常に重要である。

子どもへの聞き取りにおいて用いられる面接技法のガイドラインには、面接の冒頭部分で、子どもに嘘や真実について質問 (Truth Lie Discussion; TLD) することを推奨するものが多い (Aldridge & Wood, 1998 ; Evans & Lyon, 2012 ; Home Office, 1992 ; Lamb, Orbach, Hershkowitz, Esplin, & Horowitz, 2007; Ministry of Justice, 2011)。その理由 1 つに、“嘘” や “本当” について議論することは、子どもの正直な報告を促進するという点が挙げられる (Evans & Lee, 2010 ; Huffman, Warren, & Susan, 1999 ; London & Nunez, 2002 ; Lyon & Dorado, 2008 ; Lyon, Lindsay, Quas, & Talwar, 2008 ; Talwar, Lee, Bala, & Lindsay, 2002, 2004)。

Huffman, Warren, & Larson (1999) は、実際の面接での TLD の内容や性質について分析を行っている。アメリカの 33 の群から 132 件のケースに対する面接の書き起こし資料の分析を行った。その結果、132 ケースのうち、74 ケース (56%) において、TLD が実施されていた。年齢の内訳としては、2歳児では 29%、3歳児では 41%、4歳児では 63% であった。典型的な TLD として、まず、“嘘と本当の違いを知っていますか?” という質問を行う。さらに、“もし、私の髪の毛が紫色だと言ったら、それは本当ですか、嘘ですか?” といった、二者択一式の質問で嘘や真実を同定させるような質問が用いられてい

た。そして、“今日は本当のことだけを話してください”といった教示がなされていた。分析を行ったケースの50%で、面接者がTLDでの子どもの嘘や真実の理解を示し、子どもに面接の冒頭で“本当のことだけを話してください”と教示する、また、面接の最後に“今日話してくれたことは本当のことですか？”と質問することで、面接の中で子どもが話す内容とTLDを結びつけていた。

同様に、Evans & Lyon (2012) は、近年1997年から2001年までの間の、米国のロサンゼルス州での重罪な性虐待ケース (N = 3622) の中から裁判となった309ケースのうち、書き起こし資料が入手できた235ケースについて分析を行った。そのうち、218ケースでは、18才未満の子どもの証人が少なくとも1名以上含まれており、合計420名の子どもが証人として裁判で証言を行っていた。その420名のうち、164名 (39%) の子どもが証言能力に関する質問を受けていた。年齢ごとにみると、4-6歳児の90%、7-9歳児の89%、10-12歳児の47%、13-15歳児では13%が証言能力を査定する質問 (以下、査定質問とする) を受けている。つまり、4歳から9歳頃までの子どもは、ほとんどが査定質問を受けているということになる。査定質問に回答した子どものうち、証言能力が認められなかった子どもはいなかった。行われた質問全体 (2727個の質問) の46% (N=1246) が“意味質問”であった。意味質問のうち、43%が発話の例を嘘か本当か同定させる同定質問、40%が嘘や本当の定義を尋ねる定義質問、16%が嘘と本当の違いについて説明を求める弁別質問、そして、2%が嘘や本当の例を挙げさせる例題質問であった。残りの54% (N=1481) は“道德質問”であった。道德質問は、27%が嘘や本当はポジティブなことかネガティブなことかを判断させる評価質問、53%が行動の結果について答える結果質問、そして、19%が、自分自身がこれまでに嘘をついた経験があるかどうかについての質問であった。“意味質問”では、定義質問、弁別質問、同定質問の順で課題が難しく、“道德質問”では、子どもは、結果質問に比べて、評価質問へ正しく回答できていたことが示された。子どもは年齢があがるにつれ、質問へ適切に回答できる割合が高くなる傾向がみられた。しかし、弁護士、検察官、裁判官はいずれも、子どもにとって難しい定義質問や結果質問を多く用いており、法廷場

面で働く専門家は、子どもの能力を測定するために有効的な質問方法や査定方法を適切に理解していないと Evans & Lyon (2012) は結論付けている。

これらの研究の結果から、これまで法廷で実際に用いられていた、嘘や真実について子どもに質問するような方法では、子どもの証言能力を適切に測定できない可能性が示唆される。法廷において大人が求めているレベルで子どもが嘘や真実について回答することはかなり難しい。この点は、第2章の結果と類似する。第2章では、6歳児であっても、嘘の定義を求める課題や、嘘と本当の違いについて説明する課題は難しく、これらの課題は子どもの嘘についての理解を過小評価してしまう可能性があることが示された。また、嘘や本当の発話を同定させる課題や、善悪について尋ねるような課題は簡単すぎるため、子どもの嘘についての理解を過大評価してしまう可能性があった。子どもの回答は用いる課題に大きく依存する。子どもの年齢に応じて、用いる課題や質問の内容を変えることができなければ、適切に子どもの証言能力を測定する事はできない。証人となる対象児について、“証言能力がある”もしくは、“証言能力はない”と判断するためには、その子どもの認知、発達的な能力が、同じ年齢の一般的な子どもと比べてどのくらいかけ離れているかを知る必要がある。また、査定する側の人間が、それぞれの発達段階での子どもの能力の一般的な基準を理解していなければ、証人となる子どもの証言がその発達レベルにおいて適切であるのかを正しく判断することはできない。そのためにも、様々な課題において、基準となる一般的な回答のレベルを検討することは重要であるといえる。本研究では、子どもの嘘の概念理解において、それぞれの発達段階で“一般的な基準”となる知見を提供することができたといえる。

さらに、第3章、第4章では、嘘の理解は社会的な要因の影響を受けることが示された。例えば、Ruck (1996) の研究では、法廷ではなぜ真実を話さなければならないかという質問に対して、13歳児では“聖書に誓ったら真実を話すと思う”、“他の市民に対してフェアじゃない”などの回答がみられた。“聖書に誓う”という言及などは、米国の宣誓制度と深く関連しているといえる。また、“他の市民に対してフェアじゃない”といった、

他人に対する個人の義務についての言及も欧米諸国における考え方を反映したものであり、日本の13歳児に同様の質問を行った場合、同じような理由付けが得られるとは考えにくい。そのため、日本の子どもを問題とする場合には、海外の研究結果を参考にするだけでは不十分であり、日本独自のデータに基づき議論する必要があるといえる。この点についても、本研究は、日本の法廷において証言を求められる子どもの嘘・真実の理解を査定する上での基準となる知見を一部提供できる可能性がある。日本国内における子どもの嘘や真実の理解を扱った研究は少ない。認知心理学、社会心理学、発達心理学の領域で“子ども”、“嘘”、“欺き”などのキーワードで、日本国内で公刊された文献の検索を行うと15本前後しか論文が存在しないことが分かる。“嘘”という概念理解において、社会・文化的な要因が大きく影響を及ぼす可能性を考慮し、日本の子どもの嘘・本当の理解について、多面的な検討を進めて行くことが、今後の大きな課題であると考えられる。

第3節 本研究の限界と今後の課題

第1節での本論文全体のまとめを踏まえ、ここでは、本研究の限界と今後の課題について示す。本論文の第3章、第4章では、嘘の理解における、認知的・社会的な要因の影響について、児童から成人までを対象とした調査を実施した。1つ目の限界点として、嘘の理解の発達の認知・社会的な側面についての統合的な検討を目的としたという点で、その要因数の多さから、課題が複雑であったことが問題としてあげられる。特に、第3章、第4章で用いた課題や質問紙は、問われる内容が大人であっても難しい内容であった可能性が高い。児童や中学生を対象とすることを考えれば、調査を集団ではなく個別に実施し、映像などのより分かりやすい材料を用いて実施することが望ましいと考えられる。また、特に、児童や中学生、保護者に対しては、小学校や質問紙の配布に協力をいただいた企業の要望などにより、実施する課題の量や参加者数に制限があった。例えば、課題数については、それぞれの発話の判断理由（例えば、自由記述等によって）について、説明を求め

るなど、判断過程をより詳しく調べ、その理由の発達的变化を検討することが今後の課題である。

2つ目には、これら第3章、第4章の課題の中で用いた物語の内容の問題があげられる。発達的な検討を行うためには、年齢の低い参加者にある程度課題の内容を合わせ、類似したものをその他の年齢の参加者に実施し、その反応の変化を見る必要があると考えられる。その一方で、対象者の年齢にあった課題を用いなければ、測定したいものを適切に測れない可能性もある。本研究の調査で用いた、物語は(例、よっちゃんが教室の窓を割るなど)、中学生以降の参加者にとっては非現実的であった可能性も充分にある。今後は、調査で用いる物語の内容についても検討が必要であると思われる。

3つ目に、手続き的な問題として、回答選択肢の問題が挙げられる。Bussey (1999) でも、嘘とその他の虚偽との弁別を検討する際に、参加者に“主人公は嘘をついていますか、本当のことを言っていますか”と二者択一の判断を求めた結果、場面に沿った判断がなされず、“嘘”と判断される割合が多かったという結果を示している(同様の結果に Bussey, 1992)。本研究の予備調査においても、選択肢を“嘘”、“本当”、“その他(“その他”の場合はその内容を記入)”の3択で実施してみたところ、“その他”の選択肢が選ばれる割合が低いことが示された。そのため、本研究では、発話を判断させる際に“嘘”、“本当”以外に、“間違い”、“冗談”、“お世辞”、“謙遜”、“利他的な嘘”(お世辞、謙遜、利他的な嘘の選択肢は第4章のみ)などの選択肢も含めて調査を実施した。その結果、選択肢の多さにより、分析を行う際に、それぞれの選択肢が選ばれた割合について直接比較することができなかった。この点についても、今後は改善が必要である。

最後に、“文脈/場面”や“発話内容”など、本研究で取り上げた社会的な要因に関する問題を2点あげることができる。1つ目には、本研究では、“文脈/場面”、“発話内容”を嘘の社会的な要因として検討を行った。しかし、嘘の社会的な側面はこれら2つの要因に留まらず、話者と聞き手との関係性なども関連すると考えられる。例えば、第2章では、“嘘をつくとなどうなるか?”といった質問に対して、幼児は“お母さんに怒られる”、“先

生に怒られる”など、権威者による評価について言及した。話者と聞き手の関係性という枠組みで考えると、これらの回答も幼児による嘘の理解の社会的な側面を反映している可能性がある。本研究では、社会的な要因として“文脈／場面”，“発話内容”を取り上げたことにより、これらの社会的な要因が嘘の理解に反映されるのは9歳以降であるという結果が得られた。しかし、例に示したように，“話者と聞き手との関係性”を社会的な側面として検討した場合には、より年齢の低い子どもであっても社会的な要因を考慮した嘘の理解が可能であるといえるかもしれない。また、本研究では，“一対一場面”における嘘について扱った。しかし、文化、宗教、教育など、集団場面での嘘は、ある程度年齢の高い子どもでなければ難しい可能性が高い。今後の課題として、本研究では取り上げられなかった社会的な要因についても、さらに検討する必要があると考えられる。

2つ目に、どのような条件の時に、社会的な要因と認知的な要因のどちらがより優先されるのかについて、さらに厳密に検討を行う必要がある。Lee & Ross (1997)でも指摘されている通り，“聞き手を傷つける目的で騙そうとしているのに間違っただけで本当の事を伝えてしまい、傷つけるという目的が失敗に終わる”発話や、“聞き手を助けるために正しい情報を教えようと思っているのに間違っただけで事実と違う事を伝えてしまい結果的に傷つけてしまう”発話など、その判断において交互作用がみられる可能性があるような状況について検討を行う必要がある。

引用文献

- Aldridge, M., & Wood, J. (1998). *Interviewing Children: A Guide for Child Care and Forensic Practitioners*, England: John Wiley & Sons Ltd. (仲真紀子 (編訳) (2004). *子どもの面接法：司法における子どものケア・ガイド*, 京都：北大路書房.)
- Burton, R. V., & Strichartz, A. F. (1991). Children on the stand: The obligation to speak the truth. *Journal of Developmental & Behavioral Pediatrics*, **12** (2), 121-128.
- Bussey, K. (1992). Lying and truthfulness: Children's definitions, standards, and evaluative reactions. *Child Development*, **63**, 129-137.
- Bussey, K. (1999). Children's categorization and evaluation of different types of lies and truths. *Child Development*, **70**, 1338-1347.
- Bussey, K., & Grimbeek, E. J. (2000). Children's conceptions of lying and truth-telling: Implications for child witnesses. *Legal & Criminological Psychology*, **5** (2), 187-199.
- Ceci, S. J., & Bruck, M. (1993). The suggestibility of the child witness : A historical review and synthesis. *Psychological Bulletin*, **113**, 403-439.
- Ceci, S. J., & Bruck, M. (1999). *Jeopardy in the courtroom: A scientific analysis of children's testimony*, Washington, DC: American Psychological Association.
- Chisholm, R. M., & Feehan, T. D. (1977). The intent to deceive. *The Journal of Philosophy*, **75**, 143-159.

- Coleman, L., & Kay, P. (1981). Prototype semantics: The English word lie. *Language*, **57**, 26-44.
- Crain, W. C. (1984). 発達の理論 (小林芳郎・中島実, 共訳). 東京: 田研出版.
(Crain, W. C. (1981). *Theories of Development: Concepts and Applications*. (pp.125-143.) Prentice-Hall, NJ: Englewood Cliffs.)
- Evans, A. D., & Lee, K. (2010). Promising to tell the truth makes 8- to 16-year-olds more honest. *Behavioral Science and the Law*, **28**, 801-811.
- Evans, A. D., & Lyon, T. D. (2012). Assessing children's competency to take the oath in court: The influence of question type on children's accuracy. *Law & Human Behavior*, **36**, 195-205.
- Frasier, L. D., & Makoroff, K. L. (2006). Medical evidence and expert testimony in child sexual abuse. *Juvenile and Family Court Journal*, 41-50.
- Fu, G., Xu, F., Cameron, C. A., Heyman, G., & Lee, K. (2007). Cross-Cultural differences in children's choices, categorizations, and evaluations of truths and lies. *Developmental Psychology*, **43** (2), 278-293.
- Gilli, G., Marchetti, A., Siegal, M., & Peterson, C. C., (2001). Children's incipient ability to distinguish mistakes from lies: An Italian investigation. *International Journal of behavioral Development*, **25** (1), 88-92.
- Grice, H. P. (1975). Logic and conversation. In P. Cole & J. Morgan (Eds.), *Syntax and semantics (vol.3)*. New York: Academic.
- Haugaard, J. J. (1988). Judicial determination of children's competency to testify: Should it be abandoned? *Professional Psychology: Research and Practice*, **19** (1), 102-107.
- 林創. (2002). 児童期における再帰的な心的状態の理解. *教育心理学研究*, **50**, 43-53.

- Home Office (1992). *Memorandum of good practice: On video recorded interviews with child witness for criminal proceedings*. London. (仲真紀子・田中周子 (訳)
(2007) 子どもの司法面接：ビデオ録画面接のためのガイドライン. 誠信書房.)
- Huffman, M. L., Warren, A. R., & Susan, M. L. (1999). Discussing truth and lies in interviews with children: Whether, Why, and How? *Applied Developmental Science*, **3** (1), 6-15.
- 伊東裕司. (1996). 嘘の判断の発達：ミッキーマウスは嘘をついたか？ *教育心理学会第38回大会論文集*, 166.
- 伊藤裕司. (1998). 「嘘」の判断における信念と意図の考慮の発達. *教育心理学会第40回大会論文集*, 21.
- 伊藤裕司. (1999). 幼児における他者の意図の理解と「嘘」概念の発達. *教育心理学会第41回大会論文集*, 681.
- 功刀弘子・松澤正子・森山徹. (2003). 他者意識が幼児の自己制御と嘘つき行動に及ぼす影響. *昭和女子大学生生活心理研究所紀要*, **6**, 61-66.
- Lamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007). A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD investigative interview protocol. *Child Abuse & Neglect*, **31**, 1201-1231.
- Lee, K. (2000). Lying as doing deceptive things with words : A speech act theoretical perspective. In J. W. Astington (Ed.), *Minds in the making essays in honour of David R. Olson*, Malden: Blackwell Publishing. 177-196.

- Lee, K., Cameron, C. A., Xu, F., Fu, G., & Board, J. (1997). Chinese and Canadian children 's evaluations of lying and truth telling: Similarities and differences in the context of pro- and antisocial behaviors. *Child Development*, **68** (5), 924-934.
- Lee, K., & Ross, H. J. (1997). The concept of lying in adolescents and young adults: Testing Sweetser's Folkloristic model. *Merrill-Palmer Quarterly*, **43** (2), 255-270.
- Lee, K., Xu, F., Fu, G., Cameron, C. A., & Chen, S. (2001). Taiwan and Mainland Chinese and Canadian children's categorization and evaluation of lie- and truth-telling: A modesty effect. *British Journal of Developmental Psychology*, **19** (4), 525-542.
- Leekam, S. (1991). Jokes and lies: Children's understanding of intentional falsehood. In A. Whiten (Ed.), *Natural theories of mind: Evolution development and simulation of everyday mindreading*. Oxford : Basil Blackwell.
- Lewis, M., Stanger, C., & Sullivan, M. W. (1989). Deception in 3-year-olds. *Developmental Psychology*, **25** (3), 439-443.
- London, K., & Nunez, N. (2002). Examining the efficacy of truth/lie discussion in predicting and increasing the veracity of children's reports. *Journal of Experimental Child Psychology*, **83**, 131-147.
- Lyon, T. D., & Dorado, J. S. (2008). Truth induction in young maltreated children: The effects of oath-taking and reassurance on true and false disclosures. *Child Abuse & Neglect*, **32**, 738-748.

- Lyon, T. D., Lindsay, C. M., Quas, J. A., & Talwar, V. A. (2008). Coaching, truth induction, and young maltreated children's false allegations and false denials. *Child Development, 79* (4), 914-929
- Lyon, T. D., & Saywitz, K. J. (1999). Young maltreated children's competence to take the oath. *Applied Developmental Science, 3* (1), 16-27.
- Melton, G. B. (1981). Children's competency to testify. *Law & Human Behavior, 5* (1), 73-85.
- Milne, R., & Bull, R. H. C. (1999). *Investigative interviewing: Psychology and Practice*. Chichester, UK: Wiley. 原聰（編訳）（2003）取り調べの心理学 - 事情聴取のための捜査面接法 - 北大路書房.
- Ministry of Justice, (2011). Achieving Best Evidence in Criminal Proceedings; Guidance on interviewing victims and witnesses, and guidance on using special measures.
- 村本由紀子・山口勸. (1997). もうひとつの self-serving bias - 日本人の貴族における自己卑下・集団奉仕的傾向の共存とその意味について - . *実験社会心理学研究, 37*, 65-75.
- Myers, J. E. B. (1993). The competence of young children to testify in legal proceedings. *Behavioral Science and the Law, 11*, 121-133.
- 仲真紀子・上宮愛. (2005). 子どもの証言能力と証言を支える要因. *心理学評論, 48* (3), 343-361.
- Perner, J. (1997) Children's competency in understanding the role of a witness : Truth, lies, and moral ties. *Applied Cognitive Psychology, 11*, 21-35.
- Peterson, C. C., Peterson, J. L., & Seeto, D. (1983). Developmental changes in ideas about lying. *Child Development, 54*, 1529-1535.

- Piaget, J. (1997). *The moral Judgment of the child*. Simon & Schuster Inc. New York. (Piaget, J. (1932). *Le Judgement moral chez l'enfant*, Geneve: Institut J.J. Rousseau.)
- Pipe, M., & Wilson, J. C. (1994). Cues and secrets: Influences on children's event reports. *Developmental Psychology*, **30** (4), 515-525.
- Polak, A., & Harris, P.L. (1999). Deception by young children following noncompliance. *Developmental Psychology*, **35** (2), 561-568.
- Ruck, M. D. (1996). Why children think they should tell the truth in court: Developmental considerations for the assessment of competency. *Legal and Criminological Psychology*, **1**, 103-116.
- 佐藤方哉. (1996). 人間は何を嘘と考えるか. *言語*, **25** (3), 28-33.
- Saywitz, K., Jaenicke, C., & Camparo, L. (1990). Children's knowledge of legal terminology. *Law & Human behavior*, **14** (6), 523-535.
- Siegal, M., & Peterson, C. C. (1996). Breaking the mold: A fresh look at children's understanding of questions about lies and mistakes. *Developmental Psychology*, **32** (2), 322-334.
- Siegal, M., & Peterson, C. C. (1998). Preschooler's understanding of lies and innocent and negligent mistakes. *Developmental Psychology*, **34** (2), 332-341.
- Smith, D. W., Letourneau, E. J., Saunders, B. E., Kilpatrick, D. G., Resnick, H. S., & Best, C. L. (2000). Delay in disclosure of childhood rape: Result from a national survey. *Child Abuse & Neglect*, **24** (2), 273-287.
- Strichartz, A. F., & Burton, R. Y. (1990). Lies and Truth: A study of the development of the concept. *Child Development*, **61**, 211-220.

- Sullivan K., Winner E., & Hopefield N. (1995). How children tell a lie from a joke: The role of second-order mental state attributions. *British journal of Developmental Psychology*, 13, 2, 191-204.
- 杉村智子・古野美和子・平木文子.(1998). 幼児の嘘つき行動に及ぼす他者認識の影響. *福岡教育大学紀要*, 47 (4), 183-189.
- Sullivan K., Winner E., & Hopefield, N. (1995). How children tell a lie from a joke: The role of second-order mental state attributions. *British journal of Developmental Psychology*, 13 (2), 191-204.
- Sweetser, E. E. (1987). The definition of lie: An examination of the folk models underlying a semantic prototype. In D. Holland (Ed.) *Cultural models in language ad thought*, New York: Cambridge University Press, 43-66.
- Talwar, V., & Lee, K. (2002). Emergence of white-lie telling in children between 3 and 7 years of age. *Merrill-Palmer Quarterly*, 48 (2), 160-181.
- Talwar, V., Lee, K., Bala, N. & Lindsay, R. C. L. (2002). Children's conceptual knowledge of lying and its relation to their actual behaviors : Implications for court competence examinations. *Law & Human Behavior*, 26 (4), 395-415.
- Talwar, V., Lee, K., Bala, N., & Lindsay, R. C. L. (2004). Children's lie-telling to conceal a parent's transgression: Legal implications. *Law & Human Behavior*, 28 (4), 411-435.
- 楯 誠・新井邦二郎.(2002).幼児の「あざむき」研究の概観. *筑波大学心理学研究*, 24, 227-235.
- 楯 誠・新井邦二郎.(2004). 「うそ」に対する子どもの認識に関する研究の動向. *筑波大学心理学研究*, 28, 43-53.

- Trowbridge, B. (2003). Psychologists' role in evaluating child witness. *American Journal of Forensic Psychology*, **21** (3), 27-70.
- 上原泉. (1998). 再認が可能になる時期とエピソード報告開始時期の関係-縦断的調査による事例報告-. *教育心理学研究*, **46**, 271-279.
- Uemiya, A., & Naka, M. (2010). The development of the understanding of truth and lies from preschoolers to undergraduate students. Poster presented at the conference on theoretical perspectives on autobiographical memory, Aarhus, Denmark, June, 13-16.
- Wheeler v. U.S., 159 U.S. 523 (1895).
- Wimmer, H., Gruber, S., & Perner, J. (1984). Young children's conception of lying: Lexical realism-Moral subjectivism. *Journal of Experimental Child Psychology*, **37**, 1-30.
- Wimmer, H., Gruber, S., & Perner, J. (1985). Young children's conception of lying: Moral intuition and the denotation and connotation of "to lie". *Developmental Psychology*, **21** (6), 993-995.
- Wimmer, H., & Perner, J. (1983). Beliefs about beliefs: Representation and constraining function of wrong beliefs in young children's understanding of deception. *Cognition*, **13** (1), 103-128.
- 吉田寿夫・古城和敬・加来秀俊. (1982). 児童の自己呈示の発達に関する研究. *教育心理学研究*, **30**, 120-127.

謝 辞

本学位論文は、北海道大学大学院文学研究科の博士後期課程在学中に行った研究をまとめたものです。執筆にあたり、多くの方々からご指導、ご支援を賜りました。ここに記して深く御礼申し上げます。

指導教官である仲眞紀子先生には、研究計画、学会発表、論文執筆など研究者としての基本を一から懇切丁寧にご指導いただきました。また、しっかりとした基礎知識、専門知識を持つことの大切さ、そして、これらの知識を実務や社会に還元していくことの意義など、研究者が社会の一員として担うべき責務について、多くを教えていただきました。先生のもとで学位論文を執筆できましたことは、私にとって大きな意味を持ちます。深く御礼申し上げます。

北海道大学大学院文学研究科心理システム科学講座の安達真由美先生、社会システム科学講座の櫻井義秀先生には、本稿の審査におきまして、丁寧に、細部にわたりご指導をいただきました。先生方には、学位論文の基本から、本研究の今後の可能性についてまでの広い範囲にわたり貴重なご意見をいただきました。厚く御礼申し上げます。

大学院での研究生生活を共にしてきた仲研究室的皆さまには、本論文の執筆のみならず、精神的にもいつも支えていただきました。榎洋一さん、丹藤克也さん、石崎千景さんには、いつも親身になって、研究計画、データ分析、論文執筆などの相談に乗っていただき、ご指導いただきました。山崎優子さん、瀧川真也さん、尾山智子さん、名畑康之さん、井上愛弓さん、杉野佑太さんには研究面だけでなく、挫けそうになるたびに励ましていただき、幾度となく助けていただきました。武田知明さん、田鍋佳子さん、親家泉さんには、実験材料の作成や実験参加者の募集において、甚大なるご協力をいただきました。御礼申し上げます。

また、本研究の調査及び実験にご協力いただきました参加者の皆様、保護者の皆様、学校関係者の皆様、そして、ベネッセコーポレーションの皆様に心より御礼申し上げます。

最後に、長い学生生活を支えてくれた両親、いつも応援してくれていた祖父、よき理解者でいてくれる祖母、同じ研究者としていつも相談に乗ってくれる夫、そして何より、本論文を書き上げたこの思い出深い時期にお腹の中にいた息子の存在は、本稿の執筆において大きな心の支えとなりました。私の研究に常に理解を示し、見守ってくれた家族に感謝します。

2016年3月

上宮 愛

付録

付録 1

調査のお願いおよび承諾書

研究テーマ 幼児による真実と嘘の理解

「本当に見たんだよ!」「(おどけて)嘘でした〜」等々、嘘、本当(真実)という言葉は、子どもの日常生活のなかでよく見られます。また、しつけ場面や、子どもから説明をもとめるときにも「嘘を言ってはいけませんよ」「本当のことを話してね」といった表現がよく用いられます。けれども子どもはどの程度、嘘や本当を理解し、区別しているのでしょうか。理解していない子どもに「本当のことを言ってね」と頼んでも意味が通じないかもしれません。もしもそうだとすれば、どのように説明すれば、子どもは嘘と本当の違いを理解することができるのでしょうか。

私たちの研究室では、子どもと大人のコミュニケーションの研究を行ってきました。その一環として、子どもが本当(真実)と嘘をどのように認識、区別しているのか、どうすれば区別できるのかを明らかにしたいと考えています。具体的には人形を用いた課題を行い、幼児に嘘と真実の区別や説明を求めます。幼児の嘘と真実の区別を明らかにすることは、教育、しつけ、価値観の形成に大きく関わる大切な問題だと思われまます。研究の趣旨をご理解くださり、本研究にご協力くださいますよう、切にお願い申し上げます。

研究責任者

仲 真紀子 北海道大学 文学研究科 人間システム科学専攻 心理システム科学 教授

連絡先: xxxxxxxxxxxxxxxx (Tel & Fax) 011-xxx-xxxx

打越 愛 北海道大学文学研究科 人間システム科学専攻 心理システム科学 博士課程在籍

連絡先: xxxxxxxxxxxxxxxx (Tel) 090-xxxx-xxxx

1. 本調査は、幼児の一般的な認知活動について調査するものです。個人の能力や性格を測定するものではありません。
2. 調査中であっても、幼児がやりたくなくなったら、ただちに終了します。
3. 調査に参加していただく場合には、同意書に署名をしていただきます。ただし、調査後にデータを使用してほしくないといったことが起きた場合には、そのデータは用いません。
4. 本研究の結果は統計的に処理し、個人を特定できるような分析は行いません。個人にご迷惑がかかることは一切ありません。また、幼児は言葉で答えず、うなづいたり、首を振ったり、指さして答えることがよくあります。そのため、ビデオで回答を記録させていただきます。録画した内容は、研究者のみが分析のためにのみ用います。個人にご迷惑がかかることは一切ありません。
5. 本調査の結果はできるだけすみやかに分析し、貴保育所/保育園にご報告いたします。

この他、ご質問等があれば何でもお答えいたします。

承諾書

本調査について、上記の内容を確認しました。調査の意義を認め、自主的に参加することを承諾します。

年 月 日

署名: _____

シナリオ A1

【条件】

同定課題

1. 本当⇒青
2. 嘘⇒ピンク
3. 本当⇒緑
4. 嘘⇒黄色

善悪判断課題

1. 嘘⇒お母さん
2. 本当⇒おまわりさん

青字⇒ヤン君のセリフ・動き

赤字⇒参加者

【ごあいさつ】

こんにちは。

こっちに来て、この椅子に座ってもらえるかな。

(座ってもらう)

私の名前は打越愛といいます。

〇〇くん・ちゃんですね？

今日はよろしくね。

今日は私のお友達に来てるんだけど紹介するね。ヤン君です。

僕は、ヤン君です。〇〇くん・ちゃん、どうぞよろしく。

今からお姉さんがいくつか〇〇くん・ちゃんに聞きたいことがあるから、ヤン君と一緒にそれに答えてもらえるかな？

質問してもいいかな？嫌になったら途中でやめてもいいからね？

それと、ヤン君とお話している様子を、このビデオにとらせてもらいます。

何か、わからないことはあるかな？

それでは、はじめね。

【練習】

いまからお姉さんがカードを選んで、〇〇くん・ちゃんに見せるので、カードの絵が何か教えてね。わからない場合は、わからないって言ってね。

【同定課題】

ここに、びっくり扉という扉があります。このびっくり扉の向こうには何かが隠れてるよ。はじめに、ヤン君が扉の中にあるものを見て、それが何か言います。その後、〇〇くん・ちゃんにも扉の中を見てもらって、ヤン君が言ったことが嘘か、本当かお姉さんに教えてね。ヤン君は時々嘘を言ったり、本当のことを言ったりするから気をつけてね。

1. じゃあ、ヤン君1つ目の青のびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、ライオンだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

2. じゃあ、ピンクのびっくり扉にいてみようかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、アヒル（ウサギ）だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

3. 次は、緑のびっくり扉だよ。

(ヤン君が開いてみる)

これは、キリンだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

4. じゃあ、黄色のびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、サル（ゾウ）だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

ありがとう。じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【弁別課題】

ここに、2つのびっくり扉があります。

今から、さっきみたいに〇〇くん・ちゃんにびっくり扉を開いてもらって、中に何が入っているかヤン君に教えてあげてください。それで、その2つが同じものか、違うものか、ヤン君に教えてあげてね。

練習

じゃあ、2つの扉を開いてくれるかな？

(参加者が開いてみる)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

じゃあ、_____と_____は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして_____と_____は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

嘘と本当

じゃあ、今度はこっちのびっくり扉だよ。2つとも開いてみて。

(参加者が開いてみる)

女の子/男の子が2人いるね？

この女の子/男の子は嘘をついています。

こっちの女の子/男の子は本当のことを話しています？

じゃあ、嘘と本当は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして嘘と本当は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【善悪判断・定義課題】

嘘

この人はヤン君のお母さんです。(カードを見せる)

お母さんはヤン君が公園でお友達と何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は嘘をつきます。

ヤン君は、嘘をついたんだけど、嘘ってなにかな？

(参加者が答える)

嘘をつくことよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、嘘をつくとうなるの？

(参加者が答える)

お母さんは、ヤン君が嘘をついたと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

本当

この人はヤン君の町のおまわりさんです。(カードを見せる)

おまわりさんはヤン君がお友達と公園で何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は本当のことを話します。

ヤン君は、本当のことを話したんだけど、本当ってなにかな？

(参加者が答える)

本当のことを話すことはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、本当のことを話すとうなるの？

(参加者が答える)

おまわりさんは、ヤン君が本当のことを話したと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

そうなのかー。なるほどなあ。

【嘘の基準を明確化する課題】

今から、紙芝居を見てもらうからね。紙芝居が終わったらヤン君の質問に答えてね。
この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

ケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱に移そうとしているのを教室に戻ってきた花子さんは見てしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

【行動課題】

今からお姉さんが〇〇くん・ちゃんに大事なお話があります。お姉さんが〇〇くん・ちゃんにお話をしている間、ヤン君には少しの間向こうに行っていてもらいます。

ヤン君、じゃあ、お姉さん、〇〇くん・ちゃんに大事なお話があるから少しの間向こうで待っていてくれるかな？

うん。わかった。じゃあ、〇〇くん・ちゃんまた後でねー。

(ヤン君消える)

〇〇くん・ちゃん、ここに2つの箱があるんだけど、両方に飴玉が一個ずつ入ってるんだよ。あまり飴玉食べ過ぎたら虫歯になっちゃうから、もし、ヤン君が帰ってきて、箱の中に何が入ってるか聞かれたら、1つ目は本当のことを教えてあげてもいいけど、2つ目は嘘を言ってね。いいかなあ？

じゃあ、今からヤン君をこっちの呼ぶからね？

ヤン君もういいよー戻ってきてー。

はーい。〇〇くん・ちゃんお待たせー。

あれー、こんなところに箱があるよ。さっきまではなかったのにね。

〇〇くん・ちゃん2つ箱があるけど、こっちの箱の中には何が入ってるのか知ってる？

(参加者答える)

じゃあ、こっちの箱にはー？

(参加者答える)

〇〇くん・ちゃん協力してくれてありがとうね。

【終わりに】

今日は、〇〇くん・ちゃんにいろんなことを教えてもらって僕は本当に嬉しいです。

どうも、ありがとう。

じゃあ、これでヤン君とお姉さんとのお話の時間はおしまいです。

〇〇くん・ちゃんに少しお願いがあるんだけど、しばらくの間今日お姉さんやヤン君とここで話したことをお友達には話さないでね。

本当にありがとうね。

シナリオ A2

【条件】

同定課題

1. 嘘⇒青
2. 本当⇒ピンク
3. 嘘⇒緑
4. 本当⇒黄色

善悪判断課題

1. 本当⇒お母さん
2. 嘘⇒おまわりさん

青字⇒ヤン君のセリフ・動き

赤字⇒参加者

【ごあいさつ】

こんにちは。

こっちに来て、この椅子に座ってもらえるかな。

(座ってもらう)

私の名前は打越愛といいます。

〇〇くん・ちゃんですね？

今日はよろしくね。

今日は私のお友達に来てるんだけど紹介するね。ヤン君です。

僕は、ヤン君です。〇〇くん・ちゃん、どうぞよろしく。

今からお姉さんがいくつか〇〇くん・ちゃんに聞きたいことがあるから、ヤン君と一緒にそれに答えてもらえるかな？

質問してもいいかな？嫌になったら途中でやめてもいいからね？

それと、ヤン君とお話している様子を、このビデオにとらせてもらいます。

何か、わからないことはあるかな？

それでは、はじめね。

【練習】

いまからお姉さんがカードを選んで、〇〇くん・ちゃんに見せるので、カードの絵が何か教えてね。わからない場合は、わからないって言ってね。

【同定課題】

ここに、びっくり扉という扉があります。このびっくり扉の向こうには何かが隠れてるよ。はじめに、ヤン君が扉の中にあるものを見て、それが何か言います。その後、〇〇くん・ちゃんにも扉の中を見てもらって、ヤン君が言ったことが嘘か、本当かお姉さんに教えてね。ヤン君は時々嘘を言ったり、本当のことを言ったりするから気をつけてね。

1. じゃあ、ヤン君1つ目の青のびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、ネズミ (ライオン) だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

2. じゃあ、ピンクのびっくり扉にいてみようかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、ウサギだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

3. 次は、緑のびっくり扉だよ。

(ヤン君が開いてみる)

これは、クマ(キリン)だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

4. じゃあ、黄色のびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、ゾウだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

ありがとう。じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【弁別課題】

ここに、2つのびっくり扉があります。

今から、さっきみたいに〇〇くん・ちゃんにびっくり扉を開いてもらって、中に何が入っているかヤン君に教えてあげてください。それで、その2つが同じものか、違うものか、ヤン君に教えてあげてね。

練習

じゃあ、2つの扉を開いてくれるかな？

(参加者が開いてみる)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

じゃあ、_____と_____は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして_____と_____は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

嘘と本当

じゃあ、今度はこっちのびっくり扉だよ。2つとも開いてみて。

(参加者が開いてみる)

女の子/男の子が2人いるね？

この女の子/男の子は嘘をついています。

こっちの女の子/男の子は本当のことを話しています？

じゃあ、嘘と本当は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして嘘と本当は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【善悪判断・定義課題】

本当

この人はヤン君のお母さんです。(カードを見せる)

お母さんはヤン君が公園でお友達と何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は本当のことを話します。

ヤン君は、本当のことを話したんだけど、本当ってなにかな？

(参加者が答える)

本当のことを話すのはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、本当のことを話すとどうなるの？

(参加者が答える)

お母さんは、ヤン君が本当のことを話したと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

嘘

この人はヤン君の町のおまわりさんです。(カードを見せる)

おまわりさんはヤン君がお友達と公園で何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は嘘をつきます。

ヤン君は、嘘をついたんだけど、嘘ってなにかな？

(参加者が答える)

嘘をつくことはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、嘘をつくるとどうなるの？

(参加者が答える)

おまわりさんは、ヤン君が嘘をついたと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

そうなのかー。なるほどなあ。

【嘘の基準を明確化する課題】

今から、紙芝居を見てもらうからね。紙芝居が終わったらヤン君の質問に答えてね。

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

ケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱に移そうとしているのを教室に戻ってきた花子さんは見てしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

【行動課題】

今からお姉さんが〇〇くん・ちゃんに大事なお話があります。お姉さんが〇〇くん・ちゃんにお話をしている間、ヤン君には少しの間向こうに行っててもらいます。

ヤン君、じゃあ、お姉さん、〇〇くん・ちゃんに大事なお話があるから少しの間向こうで待っててくれるかな？

うん。わかった。じゃあ、〇〇くん・ちゃんまた後でねー。

(ヤン君消える)

〇〇くん・ちゃん、ここに2つの箱があるんだけど、両方に飴玉が一個ずつ入ってるんだよ。あまり飴玉食べ過ぎたら虫歯になっちゃうから、もし、ヤン君が帰ってきて、箱の中に何が入ってるか聞かれたら、1つ目は本当のことを教えてあげてもいいけど、2つ目は嘘を言ってね。いいかなあ？

じゃあ、今からヤン君をこっちの呼ぶからね？

ヤン君もういいよー戻ってきてー。

はーい。〇〇くん・ちゃんお待たせー。

あれー、こんなところに箱があるよ。さっきまではなかったのにね。

〇〇くん・ちゃん2つ箱があるけど、こっちの箱の中には何が入ってるのか知ってる？

(参加者答える)

じゃあ、こっちの箱にはー？

(参加者答える)

〇〇くん・ちゃん協力してくれてありがとうね。

【終わりに】

今日は、〇〇くん・ちゃんにいろんなことを教えてもらって僕は本当に嬉しいです。

どうも、ありがとう。

じゃあ、これでヤン君とお姉さんとのお話の時間はおしまいです。

〇〇くん・ちゃんに少しお願いがあるんだけど、しばらくの間今日お姉さんやヤン君とここで話したことをお友達には話さないでね。

本当にありがとうね。

シナリオ B1

【条件】

同定課題

1. 嘘⇒ピンク
2. 本当⇒黄色
3. 本当⇒青
4. 嘘⇒緑

善悪判断課題

1. 嘘⇒先生
2. 本当⇒おまわりさん

青字⇒ヤン君のセリフ・動き

赤字⇒参加者

【ごあいさつ】

こんにちは。

こっちに来て、この椅子に座ってもらえるかな。

(座ってもらう)

私の名前は打越愛といいます。

〇〇くん・ちゃんですね？

今日はよろしくね。

今日は私のお友達に来てるんだけど紹介するね。ヤン君です。

僕は、ヤン君です。〇〇くん・ちゃん、どうぞよろしく。

今からお姉さんがいくつか〇〇くん・ちゃんに聞きたいことがあるから、ヤン君と一緒にそれに答えてもらえるかな？

質問してもいいかな？嫌になったら途中でやめてもいいからね？

それと、ヤン君とお話している様子を、このビデオにとらせてもらいます。

何か、わからないことはあるかな？

それでは、はじめね。

【練習】

いまからお姉さんがカードを選んで、〇〇くん・ちゃんに見せるので、カードの絵が何か教えてね。わからない場合は、わからないって言ってね。

【同定課題】

ここに、びっくり扉という扉があります。このびっくり扉の向こうには何かが隠れてるよ。はじめに、ヤン君が扉の中にあるものを見て、それが何か言います。その後、〇〇くん・ちゃんにも扉の中を見てもらって、ヤン君が言ったことが嘘か、本当かお姉さんに教えてね。ヤン君は時々嘘を言ったり、本当のことを言ったりするから気をつけてね。

1. じゃあ、ヤン君1つ目のピンクのびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、アヒル(ウサギ)だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

2. じゃあ、黄色のびっくり扉にいてみようかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、ゾウだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

3. 次は、青のびっくり扉だよ。

(ヤン君が開いてみる)

これは、ライオンだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

4. じゃあ、緑のびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、クマ(キリン)だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

ありがとう。じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【弁別課題】

ここに、2つのびっくり扉があります。

今から、さっきみたいに〇〇くん・ちゃんにびっくり扉を開いてもらって、中に何が入っているかヤン君に教えてあげてください。それで、その2つが同じものか、違うものか、ヤン君に教えてあげてね。

練習

じゃあ、2つの扉を開いてくれるかな？

(参加者が開いてみる)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

じゃあ、_____と_____は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして_____と_____は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

嘘と本当

じゃあ、今度はこっちのびっくり扉だよ。2つとも開いてみて。

(参加者が開いてみる)

女の子/男の子が2人いるね？

この女の子/男の子は嘘をついています。

こっちの女の子/男の子は本当のことを話しています？

じゃあ、嘘と本当は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして嘘と本当は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【善悪判断・定義課題】

嘘

この人はヤン君の先生です。(カードを見せる)

先生はヤン君が公園でお友達と何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は嘘をつきます。

ヤン君は、嘘をついたんだけど、嘘ってなにかな？

(参加者が答える)

嘘をつくことはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、嘘をつくとうなるの？

(参加者が答える)

先生は、ヤン君が嘘をついたと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

本当

この人はヤン君の町のおまわりさんです。(カードを見せる)

おまわりさんはヤン君がお友達と公園で何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は本当のことを話します。

ヤン君は、本当のことを話したんだけど、本当ってなにかな？

(参加者が答える)

本当のことを話すことはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、本当のことを話すとうなるの？

(参加者が答える)

おまわりさんは、ヤン君が本当のことを話したと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

そうなのかー。なるほどなあ。

【嘘の基準を明確化する課題】

今から、紙芝居を見てもらうからね。紙芝居が終わったらヤン君の質問に答えてね。

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

ケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱に移そうとしているのを教室に戻ってきた花子さんは見てしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

【行動課題】

今からお姉さんが〇〇くん・ちゃんに大事なお話があります。お姉さんが〇〇くん・ちゃんにお話をしている間、ヤン君には少しの間向こうに行っててもらいます。

ヤン君、じゃあ、お姉さん、〇〇くん・ちゃんに大事なお話があるから少しの間向こうで待っててくれるかな？

うん。わかった。じゃあ、〇〇くん・ちゃんまた後でねー。

(ヤン君消える)

〇〇くん・ちゃん、ここに2つの箱があるんだけど、両方に飴玉が一個ずつ入ってるんだよ。あまり飴玉食べ過ぎたら虫歯になっちゃうから、もし、ヤン君が帰ってきて、箱の中に何が入ってるか聞かれたら、1つ目は本当のことを教えてあげてもいいけど、2つ目は嘘を言ってね。いいかなあ？

じゃあ、今からヤン君をこっちの呼ぶからね？

ヤン君もういいよー戻ってきてー。

はーい。〇〇くん・ちゃんお待たせー。

あれー、こんなところに箱があるよ。さっきまではなかったのにね。

〇〇くん・ちゃん2つ箱があるけど、こっちの箱の中には何が入ってるのか知ってる？

(参加者答える)

じゃあ、こっちの箱にはー？

(参加者答える)

〇〇くん・ちゃん協力してくれてありがとうね。

【終わりに】

今日は、〇〇くん・ちゃんにいろんなことを教えてもらって僕は本当に嬉しいです。

どうも、ありがとう。

じゃあ、これでヤン君とお姉さんとのお話の時間はおしまいです。

〇〇くん・ちゃんに少しお願いがあるんだけど、しばらくの間今日お姉さんやヤン君とここで話したことをお友達には話さないでね。

本当にありがとうね。

シナリオ B2

【条件】

同定課題

1. 本当⇒ピンク
2. 嘘⇒黄色
3. 嘘⇒青
4. 本当⇒緑

善悪判断課題

1. 本当⇒先生
2. 嘘⇒おまわりさん

青字⇒ヤン君のセリフ・動き

赤字⇒参加者

【ごあいさつ】

こんにちは。

こっちに来て、この椅子に座ってもらえるかな。

(座ってもらう)

私の名前は打越愛といいます。

〇〇くん・ちゃんですね？

今日はよろしくね。

今日は私のお友達に来てるんだけど紹介するね。ヤン君です。

僕は、ヤン君です。〇〇くん・ちゃん、どうぞよろしく。

今からお姉さんがいくつか〇〇くん・ちゃんに聞きたいことがあるから、ヤン君と一緒にそれに答えてもらえるかな？

質問してもいいかな？嫌になったら途中でやめてもいいからね？

それと、ヤン君とお話している様子を、このビデオにとらせてもらいます。

何か、わからないことはあるかな？

それでは、はじめね。

【練習】

いまからお姉さんがカードを選んで、〇〇くん・ちゃんに見せるので、カードの絵が何か教えてね。わからない場合は、わからないって言ってね。

【同定課題】

ここに、びっくり扉という扉があります。このびっくり扉の向こうには何かが隠れてるよ。はじめに、ヤン君が扉の中にあるものを見て、それが何か言います。その後、〇〇くん・ちゃんにも扉の中を見てもらって、ヤン君が言ったことが嘘か、本当かお姉さんに教えてね。ヤン君は時々嘘を言ったり、本当のことを言ったりするから気をつけてね。

1. じゃあ、ヤン君1つ目のピンクのびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、ウサギだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

2. じゃあ、黄色のびっくり扉にいてみようかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、サル（ゾウ）だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

3. 次は、青のびっくり扉だよ。

(ヤン君が開いてみる)

これは、ネズミ（ライオン）だよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

4. じゃあ、緑のびっくり扉を開けてくれるかな？

(ヤン君が開いてみる)

これは、キリンだよ。

じゃあ、〇〇くん・ちゃんの番だよ。扉の中をのぞいてみて、ヤン君が本当のことを言っているのか、嘘を言っているのか教えてね。

(参加者が扉を開ける)

ヤン君は、嘘をついてますか？
それとも本当のことを言ってますか？

(参加者が答える)

ありがとう。じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【弁別課題】

ここに、2つのびっくり扉があります。

今から、さっきみたいに〇〇くん・ちゃんにびっくり扉を開いてもらって、中に何が入っているかヤン君に教えてあげてください。それで、その2つが同じものか、違うものか、ヤン君に教えてあげてね。

練習

じゃあ、2つの扉を開いてくれるかな？

(参加者が開いてみる)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

これは何かわかるかな？

(参加者が答える)

じゃあ、_____と_____は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして_____と_____は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

嘘と本当

じゃあ、今度はこっちのびっくり扉だよ。2つとも開いてみて。

(参加者が開いてみる)

女の子/男の子が2人いるね？

この女の子/男の子は嘘をついています。

こっちの女の子/男の子は本当のことを話しています？

じゃあ、嘘と本当は同じですか、違いますか？

(参加者が答える)

どうして嘘と本当は違う・同じなの？

(参加者が答える)

そっかー、よくわかった。ありがとう。

じゃあ、次は少しまた違った質問をするよ。

【善悪判断・定義課題】

本当

この人はヤン君の先生です。(カードを見せる)

先生はヤン君が公園でお友達と何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は本当のことを話します。

ヤン君は、本当のことを話したんだけど、本当ってなにかな？

(参加者が答える)

本当のことを話すのはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、本当のことを話すとどうなるの？

(参加者が答える)

先生は、ヤン君が本当のことを話したと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

嘘

この人はヤン君の町のおまわりさんです。(カードを見せる)

おまわりさんはヤン君がお友達と公園で何をしてたのかを知りたがってるんだけど、ヤン君は嘘をつきます。

ヤン君は、嘘をついたんだけど、嘘ってなにかな？

(参加者が答える)

嘘をつくことはよいことかな？悪いことかな？

(参加者が答える)

どうしてそう思うのかな？

(参加者が答える)

じゃあ、嘘をつくるとどうなるの？

(参加者が答える)

おまわりさんは、ヤン君が嘘をついたと知ったら怒るかな？喜ぶかな？

(参加者が答える)

そうなのかー。なるほどなあ。

【嘘の基準を明確化する課題】

今から、紙芝居を見てもらうからね。紙芝居が終わったらヤン君の質問に答えてね。

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

この女の子は花子さんです。

この男の子はケンちゃんです。

花子さんとケンちゃんは同じ幼稚園のお友達です。

花子さんは、今日おうちからお人形を持ってきました。

それを、丸い箱にしまっておきました。

その後花子さんは、教室から出て行きました。

それを見ていたケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱の中に移してしまいました。

ケンちゃんが花子さんのお人形を四角い箱に移そうとしているのを教室に戻ってきた花子さんは見てしまいました。

1. 教室に戻ってきた花子さんは、お人形がどこにあると答えますか？

(参加者答える)

2. 実際にはどちらの箱にお人形が入っていますか？

(参加者答える)

3. もし、花子さんがお人形は丸い箱の中にあると答えたら、花子さんは嘘をついていることになりますか？

(参加者答える)

【行動課題】

今からお姉さんが〇〇くん・ちゃんに大事なお話があります。お姉さんが〇〇くん・ちゃんにお話をしている間、ヤン君には少しの間向こうに行っててもらいます。

ヤン君、じゃあ、お姉さん、〇〇くん・ちゃんに大事なお話があるから少しの間向こうで待っててくれるかな？

うん。わかった。じゃあ、〇〇くん・ちゃんまた後でねー。

(ヤン君消える)

〇〇くん・ちゃん、ここに2つの箱があるんだけど、両方に飴玉が一個ずつ入ってるんだよ。あまり飴玉食べ過ぎたら虫歯になっちゃうから、もし、ヤン君が帰ってきて、箱の中に何が入ってるか聞かれたら、1つ目は本当のことを教えてあげてもいいけど、2つ目は嘘を言ってね。いいかなあ？

じゃあ、今からヤン君をこっちの呼ぶからね？

ヤン君もういいよー戻ってきてー。

はーい。〇〇くん・ちゃんお待たせー。

あれー、こんなところに箱があるよ。さっきまではなかったのにね。

〇〇くん・ちゃん2つ箱があるけど、こっちの箱の中には何が入ってるのか知ってる？

(参加者答える)

じゃあ、こっちの箱にはー？

(参加者答える)

〇〇くん・ちゃん協力してくれてありがとうね。

【終わりに】

今日は、〇〇くん・ちゃんにいろんなことを教えてもらって僕は本当に嬉しいです。

どうも、ありがとう。

じゃあ、これでヤン君とお姉さんとのお話の時間はおしまいです。

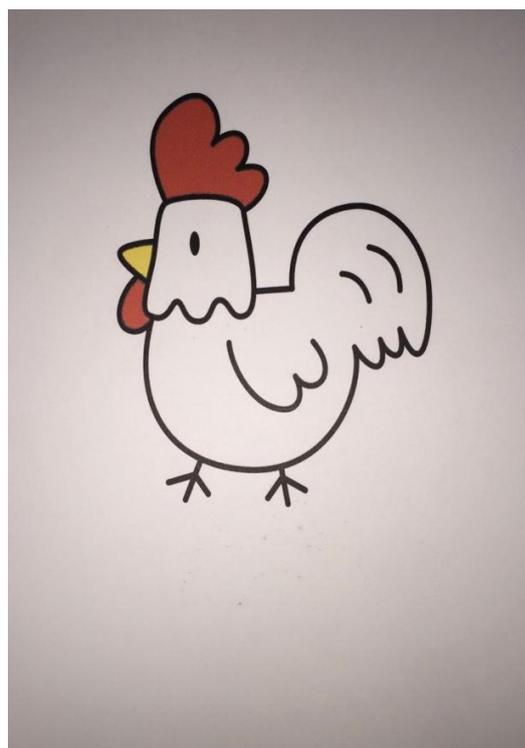
〇〇くん・ちゃんに少しお願いがあるんだけど、しばらくの間今日お姉さんやヤン君とここで話したことをお友達には話さないでね。

本当にありがとうね。

付録3 パペット (ヤンくん)



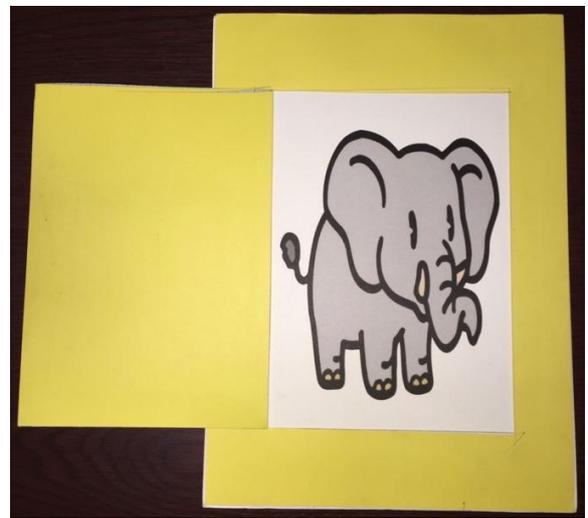
付録4 練習問題



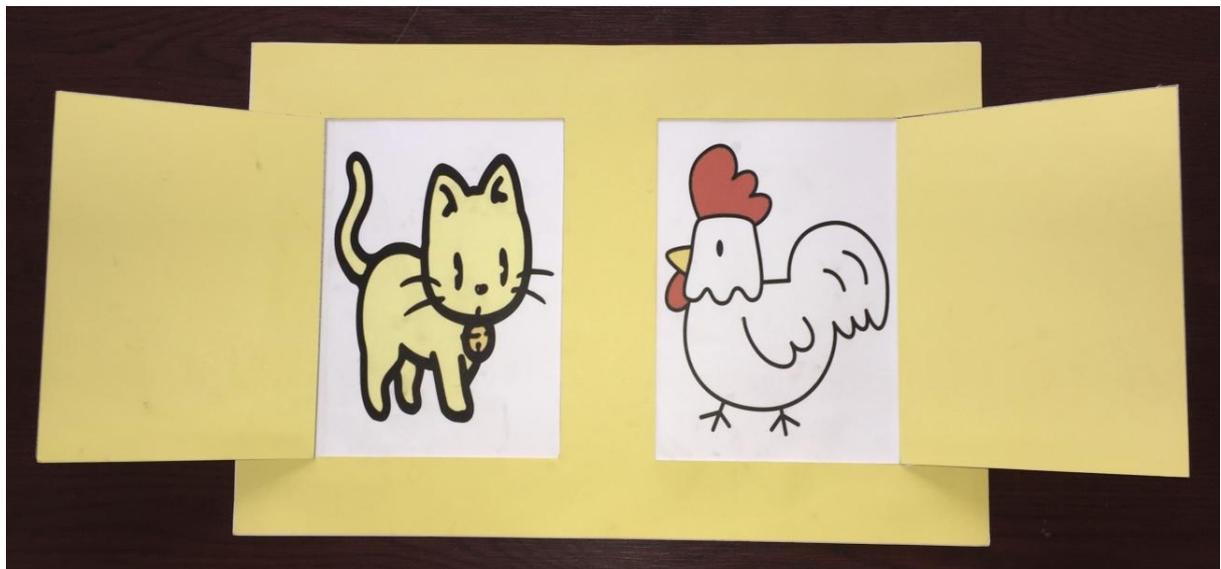
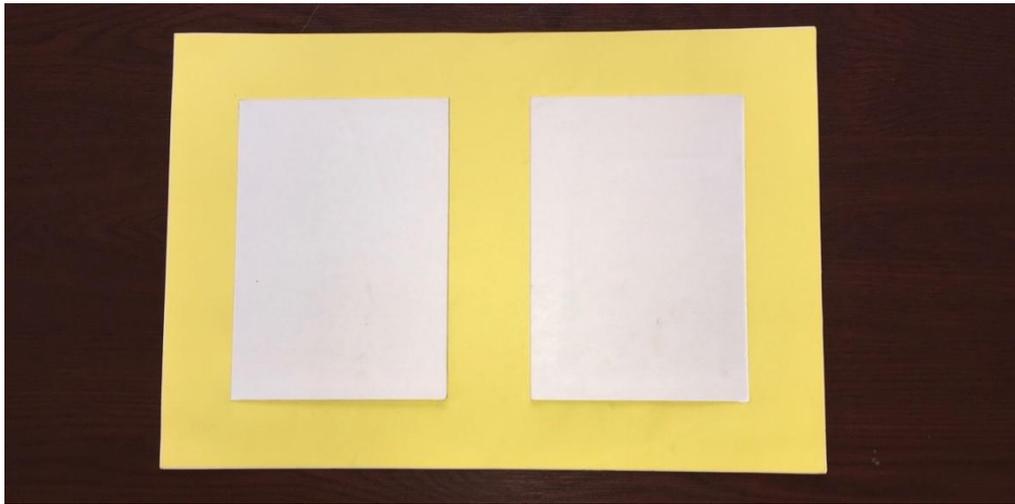


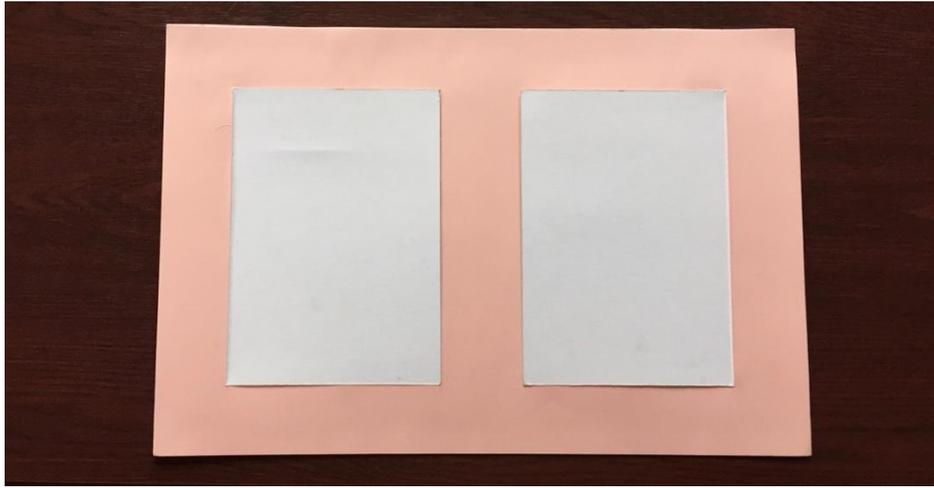
付録5 同定課題 びっくり扉

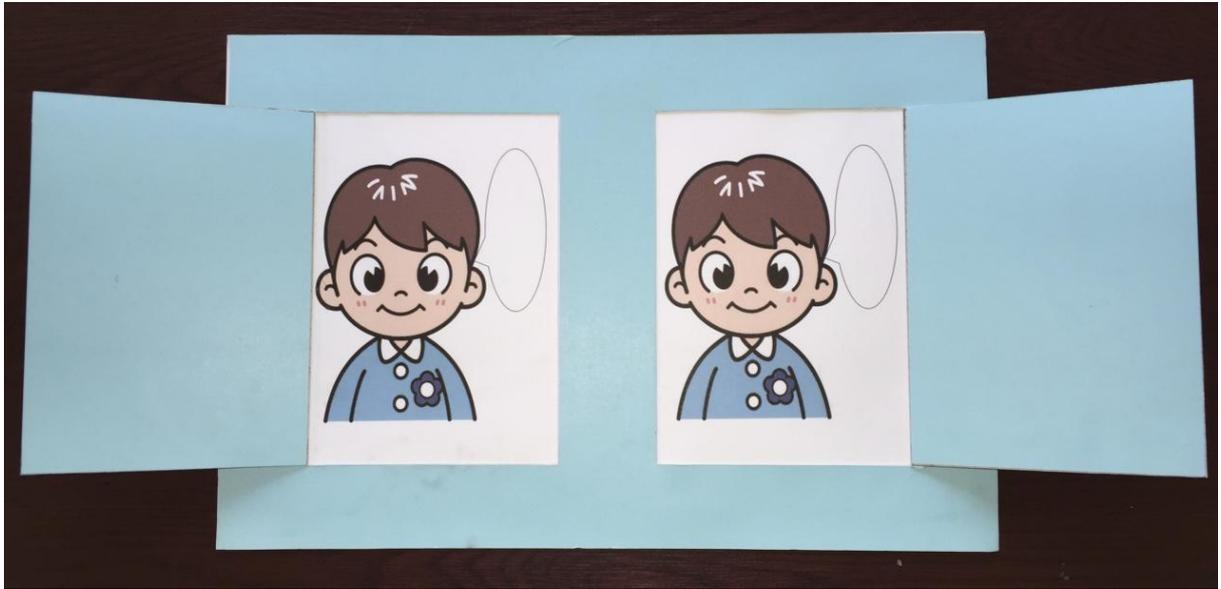
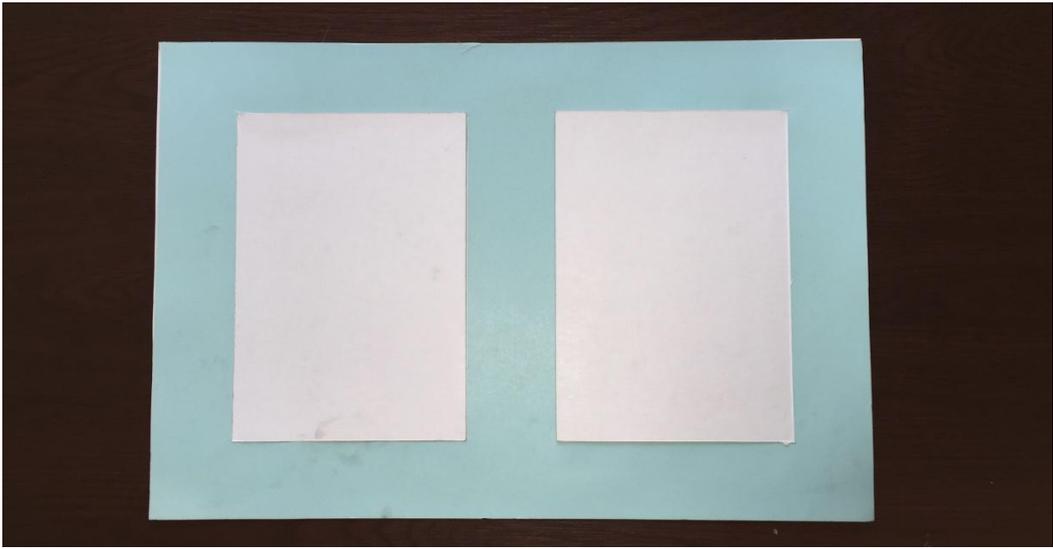




付録6 弁別課題



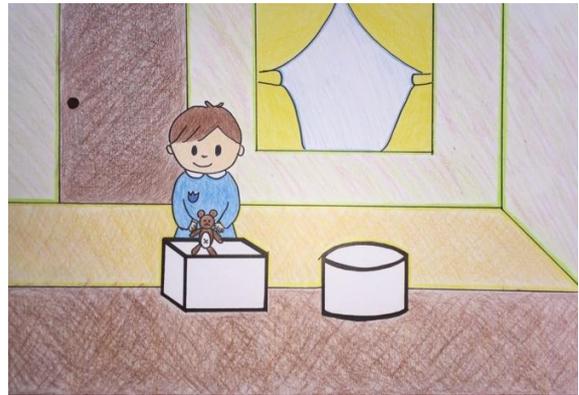
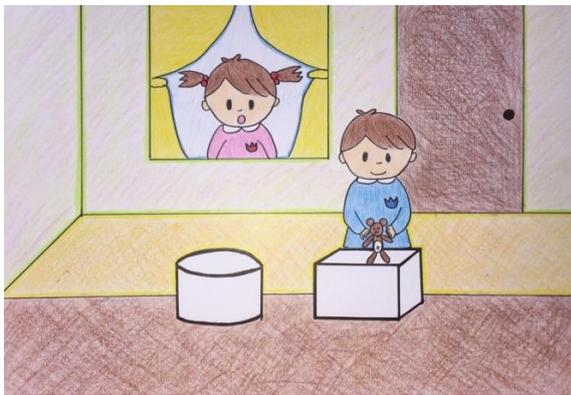




付録7 定義課題



付録8 嘘の基準を明確化する課題



付録9 場面ごとの絵

お世辞



謙遜



冗談



利己的な嘘



利他的な嘘



A グループ教示

【あいさつ】

皆さん、こんにちは。

お姉さんの名前は_____です。

今日は、お姉さんと「嘘と本当」についてお勉強をしましょう。

みなさんは、嘘とか本当ってわかるかな？

じゃあ、冗談って何か知ってるかな？

じゃあ、嘘と間違いの違いは解るかな？

お姉さんは、みなさんがどういうときにそれが「本当」だとか「嘘」だと思えるのかを知りたいです。

お姉さんがいまから紙芝居を読みます。

(黒板の解答用紙を指差しながら説明)

紙芝居に出てきた主人公が言ったことが「本当のこと」なのか「嘘」なのか「冗談（ふざけて言った）」なのか「間違っって言った」のか、それ以外かを答えてもらいます。

この質問には正しい答えも、間違っった答えもありません。

みなさんは思ったとおりのことを正直に書いてね。

また、お友達と相談しないで自分で考えて答えを書いてね。

では、「名前」と書いてあるところにお名前を書いてくれるかな。

次に、女の子は女の子のほうに、男の子は男の子のほうを丸で囲んでください。

最後にお誕生日を書いてください。

【練習問題】

それでは、練習問題をやってみたいと思います。今からお姉さんがお話を読むので、よく聞いててくださいね。

花子さんは、チョコレートが大好きです。

けんちゃんは、花子さんにチョコレートをあげました。

花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えました。

ア. のところをみてください。

花子さんはチョコレートが大好きなんだよね。そして、花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えましたが、花子さんがけんちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イ. のところをみてください。

(「悪い」から順番に指差す)

これは、怒っているお顔でしょう？これは、少し怒っているでしょう？これは、ふつうの顔で
しょ？これは、少し笑っているでしょう？これはにっこり笑っているでしょう？

悪いと思ったらこれ (選択肢を指差す)

少し悪いと思ったらこれ (選択肢を指差す)

どちらでもないと思ったらこれ (選択肢を指差す)

少しよいと思ったらこれ (選択肢を指差す)

よいと思ったらこれに丸印をつけてください。(選択肢を指差す)

花子さんはチョコレートが大好きなんだよね。 花子さんは花子さんは、チョコレートが大好き
なので、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えましたが、花子さんがけんち
ゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよ
いことですか、それとも、よいことですか？

自分の思った答えに丸印をつけてください。

答えは必ず、1つだけ選んでくださいね。

お友達と相談しないで、自分の思った答えを書いてね。

こんな感じでやっていきますが、何か質問はありますか？

となりの人や周りの人に自分の答えは内緒にしてください。答えは声にださないでね。

それでは、次に1番のところから始めます。

【発話1】

りょうちゃんはクッキーを焼きました。

そのクッキーはとてもまずい味でした。

りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーをあげました。

そして、りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーはどうか聞きました。

よっちゃんはクッキーがまずいと思っているのに、「おいしい」といいました。

アのところをみてください。

りょうちゃんの作ったクッキーはまずかったんだよね。そして、よっちゃんはクッキーがまずいと思っているのに、「おいしい」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

りょうちゃんの作ったクッキーはまずかったんだよね。そして、よっちゃんはクッキーがまずいと思っているのに、「おいしい」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話 2】

よっちゃんは運動会で一等賞になりました。

よっちゃんは、一等賞になれたことをとてもうれしく思いました。

よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね」といいました。

よっちゃんは、足がおそいと思っているのに、「うん、速いの。」といいました。

アのところをみてください。

よっちゃんは、一等賞になったんだよね。それで、よっちゃんは、足がおそいと思っているのに、「うん、速いの。」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

よっちゃんは一等賞になったんだよね。それで、よっちゃんは足がおそいと思っているのに、「うん、速いの。」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話3】

よっちゃんは、お父さんと一緒に庭にいました。

すると、葉っぱがお父さんの背中に落ちました。

よっちゃんは、クモが落ちてきたと思って、「クモが背中についているよ。」といいました。

アのところをみてください。

お父さんの背中には葉っぱが落ちてきたんだよね。それで、よっちゃんは、クモが落ちてきた
と思って、「クモが背中についているよ。」といいましたが、よっちゃんがお父さんに言ってい
るのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

お父さんの背中には葉っぱが落ちてきたんだよね。それで、よっちゃんは、クモが落ちてきた
と思って、「クモが背中についているよ。」といいましたが、よっちゃんがお父さんに言ったこ
とは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、
それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話4】

りょうちゃんは、教室でボール遊びをして遊んでいました。

りょうちゃんは間違っ、ボールを窓ガラスに当てて割ってしまいました。

先生に誰が窓を割ったのか聞かれて、

りょうちゃんは窓を割ったと思っているのに、「私は、窓を割っていません。」といいました。

アのところをみてください。

りょうちゃんは窓を割ってしまったんだよね。それで、りょうちゃんは窓を割ったと思っ
ているのに、「私は、窓を割っていません。」といいましたが、りょうちゃんが先生に言っ
ているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っ、言っ、と思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

りょうちゃんは窓を割ってしまったんだよね。それで、りょうちゃんは窓を割ったと思っ
ているのに、「私は、窓を割っていません。」といいましたが、りょうちゃんが先生に言っ
たことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいこと
ですか、それとも、よいことですか？自分の思っ、答へに丸印をつけてください。

【発話5】

よっちゃんはりょうちゃんと買い物に出かけました。2人はお店に入りましたが、店員さんはいませんでした。カウンターにはお金がおいてありました。よっちゃんはそれを盗ってポケットの中に入れました。店の奥から店員さんがやってきて、お金がなくなっているのに気づき、おまわりさん呼びました。

りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとっていないと思っているのに、「よっちゃんがとった。」
といました。

アのところをみてください。

よっちゃんはお金をとったんだよね。それで、りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとっていない
と思っているのに、「よっちゃんがとった。」といましたが、りょうちゃんが店員さんに
言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外で
すか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

よっちゃんはお金をとったんだよね。それで、りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとってい
ないと思っているのに、「よっちゃんがとった。」といましたが、りょうちゃんが店員さんに

言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいこと
ですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

これで終わりです。みなさんありがとうございました。

Bグループ教示

【あいさつ】

皆さん、こんにちは。

お姉さんの名前は_____です。

今日は、お姉さんと「嘘と本当」についてお勉強をしましょう。

みなさんは、嘘とか本当ってわかるかな？

じゃあ、冗談って何か知ってるかな？

じゃあ、嘘と間違いの違いは解るかな？

お姉さんは、みなさんがどういうときにそれが「本当」だとか「嘘」だと思えるのかを知りたいです。

お姉さんがいまから紙芝居を読みます。

(黒板の解答用紙を指差しながら説明)

紙芝居に出てきた主人公が言ったことが「本当のこと」なのか「嘘」なのか「冗談(ふざけて言った)」なのか「間違っって言った」のか、それ以外かを答えてもらいます。

この質問には正しい答えも、間違っった答えもありません。

みなさんは思ったとおりのことを正直に書いてね。

また、お友達と相談しないで自分で考えて答えを書いてね。

では、「名前」と書いてあるところにお名前を書いてくれるかな。

次に、女の子は女の子のほうに、男の子は男の子のほうを丸で囲んでください。

最後にお誕生日を書いてください。

【練習問題】

それでは、練習問題をやってみたいと思います。今からお姉さんがお話を読むので、よく聞いててくださいね。

花子さんは、チョコレートが大好きです。

けんちゃんは、花子さんにチョコレートをあげました。

花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えました。

ア. のところをみてください。

花子さんはチョコレートが大好きなんだよね。そして、花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えましたが、花子さんがけんちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イ. のところをみてください。

(「悪い」から順番に指差す)

これは、怒っているお顔でしょう？これは、少し怒っているでしょう？これは、ふつうの顔で
しょ？これは、少し笑っているでしょう？これはにっこり笑っているでしょう？

悪いと思ったらこれ (選択肢を指差す)

少し悪いと思ったらこれ (選択肢を指差す)

どちらでもないと思ったらこれ (選択肢を指差す)

少しよいと思ったらこれ (選択肢を指差す)

よいと思ったらこれに丸印をつけてください。(選択肢を指差す)

花子さんはチョコレートが大好きなんだよね。 花子さんは花子さんは、チョコレートが大好き
なので、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えましたが、花子さんがけんち
ゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよ
いことですか、それとも、よいことですか？

自分の思った答えに丸印をつけてください。

答えは必ず、1つだけ選んでくださいね。

お友達と相談しないで、自分の思った答えを書いてね。

こんな感じでやっていきますが、何か質問はありますか？

となりの人や周りの人に自分の答えは内緒にしてください。答えは声にださないでね。

それでは、次に1番のところから始めます。

【発話1】

りょうちゃんはクッキーを焼きました。

そのクッキーはとてもまずい味でした。

りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーをあげました。

そして、りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーはどうか聞きました。

よっちゃんはクッキーがおいしいと思っていて、「おいしい」といいました。

アのところをみてください。

りょうちゃんの作ったクッキーはまずかったんだよね。そして、よっちゃんはクッキーがおいしいと思っていて、「おいしい」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言っているのは、
本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違って言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

りょうちゃんの作ったクッキーはまずかったんだよね。そして、よっちゃんはクッキーがおいしいと思っていて、「おいしい」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言ったことは、
悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話2】

よっちゃんは運動会で一等賞になりました。

よっちゃんは、一等賞になれたことをとてもうれしく思いました。

よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね」といいました。

よっちゃんは、足が速いと思っているのに、「いいえ、遅いの。」といいました。

アのところをみてください。

よっちゃんは、一等賞になったんだよね。それで、よっちゃんは、足が速いと思っているのに、「いいえ、遅いの。」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

よっちゃんは一等賞になったんだよね。それで、よっちゃんは足が速いと思っているのに、「いいえ、遅いの。」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話3】

よっちゃんは、お父さんと一緒に庭にいました。

すると、葉っぱがお父さんの背中に落ちました。

よっちゃんは、クモが落ちてきたと思っているのに、「葉っぱが背中についているよ。」と
いい
ました。

アのところをみてください。

お父さんの背中には葉っぱが落ちてきたんだよね。それで、よっちゃんは、クモが落ちてきた
と思っているのに、「葉っぱが背中についているよ。」といいましたが、よっちゃんがお父さん
に言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外
ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

お父さんの背中には葉っぱが落ちてきたんだよね。それで、よっちゃんは、クモが落ちてきた
と思っているのに、「葉っぱが背中についているよ。」といいましたが、よっちゃんがお父さん
に言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいこ
とですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話5】

よっちゃんはりょうちゃんと買い物に出かけました。2人はお店に入りましたが、店員さんはいませんでした。カウンターにはお金がおいてありました。よっちゃんはそれを盗ってポケットの中に入れました。店の奥から店員さんがやってきて、お金がなくなっているのに気づき、おまわりさん呼びました。

りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとったと思っているのに、「よっちゃんはとっていない。」
といました。

アのところをみてください。

よっちゃんはお金をとったんだよね。それで、りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとったと
思っているのに、「よっちゃんはとっていない。」といましたが、りょうちゃんが店員さんに
言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外で
すか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っ言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

よっちゃんはお金をとったんだよね。それで、りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとったと
思っているのに、「よっちゃんはとっていない。」といましたが、りょうちゃんが店員さんに

言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいこと
ですか、それとも、よいことですか？

自分の思った答えに丸印をつけてください。

これで終わりです。みなさんありがとうございました。

Cグループ教示

【あいさつ】

皆さん、こんにちは。

お姉さんの名前は_____です。

今日は、お姉さんと「嘘と本当」についてお勉強をしましょう。

みなさんは、嘘とか本当ってわかるかな？

じゃあ、冗談って何か知ってるかな？

じゃあ、嘘と間違いの違いは解るかな？

お姉さんは、みなさんがどういうときにそれが「本当」だとか「嘘」だと思えるのかを知りたいです。

お姉さんがいまから紙芝居を読みます。

(黒板の解答用紙を指差しながら説明)

紙芝居に出てきた主人公が言ったことが「本当のこと」なのか「嘘」なのか「冗談(ふざけて言った)」なのか「間違っって言った」のか、それ以外かを答えてもらいます。

この質問には正しい答えも、間違っった答えもありません。

みなさんは思ったとおりのことを正直に書いてね。

また、お友達と相談しないで自分で考えて答えを書いてね。

では、「名前」と書いてあるところにお名前を書いてくれるかな。

次に、女の子は女の子のほうに、男の子は男の子のほうを丸で囲んでください。

最後にお誕生日を書いてください。

【練習問題】

それでは、練習問題をやってみたいと思います。今からお姉さんがお話を読むので、よく聞いててくださいね。

花子さんは、チョコレートが大好きです。

けんちゃんは、花子さんにチョコレートをあげました。

花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えました。

ア. のところをみてください。

花子さんはチョコレートが大好きなんだよね。そして、花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えましたが、花子さんがけんちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イ. のところをみてください。

(「悪い」から順番に指差す)

これは、怒っているお顔でしょう？これは、少し怒っているでしょう？これは、ふつうの顔で
しょ？これは、少し笑っているでしょう？これはにっこり笑っているでしょう？

悪いと思ったらこれ (選択肢を指差す)

少し悪いと思ったらこれ (選択肢を指差す)

どちらでもないと思ったらこれ (選択肢を指差す)

少しよいと思ったらこれ (選択肢を指差す)

よいと思ったらこれに丸印をつけてください。(選択肢を指差す)

花子さんはチョコレートが大好きなんだよね。 花子さんは、チョコレートが大好きなので、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えましたが、花子さんがけんちゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？

自分の思った答えに丸印をつけてください。

答えは必ず、1つだけ選んでくださいね。

お友達と相談しないで、自分の思った答えを書いてね。

こんな感じでやっていきますが、何か質問はありますか？

となりの人や周りの人に自分の答えは内緒にしてください。答えは声にださないでね。

それでは、次に1番のところから始めます。

【発話1】

りょうちゃんはクッキーを焼きました。

そのクッキーはとてもまずい味でした。

りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーをあげました。

そして、りょうちゃんは、よっちゃんにクッキーはどうか聞きました。

よっちゃんはクッキーがおいしいと思っているのに、「まずい」といいました。

アのところをみてください。

りょうちゃんの作ったクッキーはまずかったんだよね。そして、よっちゃんはクッキーがおいしいと思っているのに、「まずい」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

りょうちゃんの作ったクッキーはまずかったんだよね。そして、よっちゃんはクッキーがおいしいと思っているのに、「まずい」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話 2】

よっちゃんは運動会で一等賞になりました。

よっちゃんは、一等賞になれたことをとてもうれしく思いました。

よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね」といいました。

よっちゃんは、足が遅いと思っていて、「いいえ、遅いの。」といいました。

アのところをみてください。

よっちゃんは、一等賞になったんだよね。それで、よっちゃんは、足が遅いと思っていて、「いいえ、遅いの。」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

よっちゃんは一等賞になったんだよね。それで、よっちゃんは足が遅いと思っていて、「いいえ、遅いの。」といいましたが、よっちゃんがりょうちゃんに言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？

自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話3】

よっちゃんは、お父さんと一緒に庭にいました。

すると、葉っぱがお父さんの背中に落ちました。

よっちゃんは、葉っぱが落ちてきたと思っているのに、「クモが背中についているよ。」と
いい
ました。

アのところをみてください。

お父さんの背中には葉っぱが落ちてきたんだよね。それで、よっちゃんは、葉っぱが落ちてき
たと思っているのに、「クモが背中についているよ。」といいましたが、よっちゃんがお父さん
に言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外
ですか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っって言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

お父さんの背中には葉っぱが落ちてきたんだよね。それで、よっちゃんは、葉っぱが落ちてき
たと思っているのに、「クモが背中についているよ。」といいましたが、よっちゃんがお父さん
に言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいこ
とですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

【発話5】

よっちゃんはりょうちゃんと買い物に出かけました。2人はお店に入りましたが、店員さんはいませんでした。カウンターにはお金がおいてありました。よっちゃんはそれを盗ってポケットの中に入れました。店の奥から店員さんがやってきて、お金がなくなっているのに気づき、おまわりさん呼びました。

りょうちゃんは、よっちゃんはお金をとってないと思っていて、「よっちゃんはとっていない。」
といました。

アのところをみてください。

よっちゃんはお金をとったんだよね。それで、りょうちゃんは、よっちゃんはお金をとってない
と思っていて、「よっちゃんはとっていない。」といましたが、りょうちゃんが店員さんに
言っているのは、本当ですか、嘘ですか、冗談ですか、間違いですか、それともこれら以外で
すか？

本当だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

嘘だと思ったらこれ（選択肢を指差す）

冗談（ふざけていった）と思ったらこれ（選択肢を指差す）

間違っ言ったと思ったらこれ（選択肢を指差す）

これらのどれでもなければ、その他に丸印を入れてください。（選択肢を指差す）

イのところをみてください。（選択肢を指差す）

よっちゃんはお金をとったんだよね。それで、りょうちゃんは、よっちゃんはお金をとってない
と思っていて、「よっちゃんはとっていない。」といましたが、りょうちゃんが店員さんに

言ったことは、悪いことですか、少し悪いことですか、どちらでもないですか、少しよいことですか、それとも、よいことですか？自分の思った答えに丸印をつけてください。

これで終わりです。みなさんありがとうございました。

付録1 1

【1年生 A グループ回答用紙】

こたえのようし

なまえ： _____

おとこ・おんな

おたんじょう日： _____ がつ _____ にち

れん しゅ う	花子さんは、チョコレートがだいすきだとおもっていて、 けんちゃんに「わたしはチョコレートがだいすきな。」といいました。
ア.	1.ほんとう () 2.うそ () 3.じょうだん () 4.まちがい () 5.そのた ()
イ.	わるい すこしわるい どちらでもない すこしよい よい 1 () 2 () 3 () 4 () 5 () ----- ----- ----- -----     

1	よっちゃんは、クッキーがまずいとおもっているのに、「おいしい」といいました。																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

2	よっちゃんは、足がおそいとおもっているのに、「うん、はやいの。」といいました。																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

3	<p>よっちゃんは、クモがおちてきたとおもって、 「クモがせなかについているよ。」といました。</p>																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

4	<p>りょうちゃんは、まどをわったとおもっているのに、 「わたしは、まどをわっていません。」といました。</p>																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがおかねをとっていないとおもっているのに、 「よっちゃんがとった。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()</p>																				
イ.	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>わるい</td> <td>すこしわるい</td> <td>どちらでもない</td> <td>すこしよい</td> <td>よい</td> </tr> <tr> <td>1 ()</td> <td>2 ()</td> <td>3 ()</td> <td>4 ()</td> <td>5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

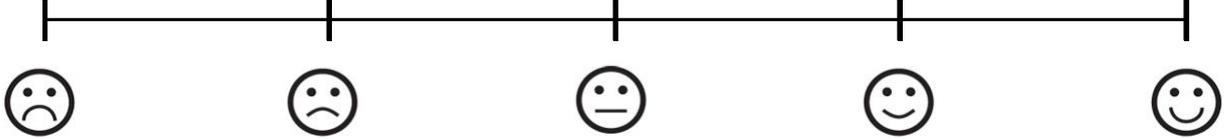
【1年生 B グループ回答用紙】

こたえのようし

なまえ： _____

おとこ・おんな

おたんじょう日： _____ 月 _____ 日

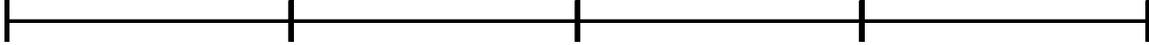
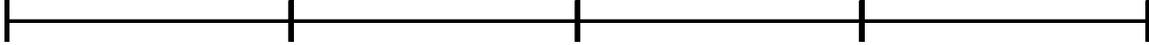
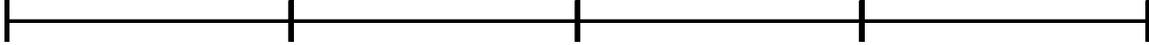
れん しゅ う	花子さんは、チョコレートがだいすきだとおもっていて、 けんちゃんに「わたしはチョコレートがだいすきな。」といました。
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()
イ.	わるい すこしわるい どちらでもない すこしよい よい 1 () 2 () 3 () 4 () 5 () 

1	よっちゃんは、クッキーがおいしいとおもっていて、「おいしい」といいました。																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

2	よっちゃんは、足がはやいとおもっているのに、「いいえ、おそいの。」といいました。																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

3	<p>よっちゃんは、クモがおちてきたとおもっているのに、 「はっぱがせなかについているよ。」といました。</p>																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

4	<p>りょうちゃんは、まどをわっていないとおもっていて、 「わたしは、まどをわっていません。」といました。</p>																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがおかねをとったとおもっているのに、 「よっちゃんはとっていない。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()</p>																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">  </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
																					
																					

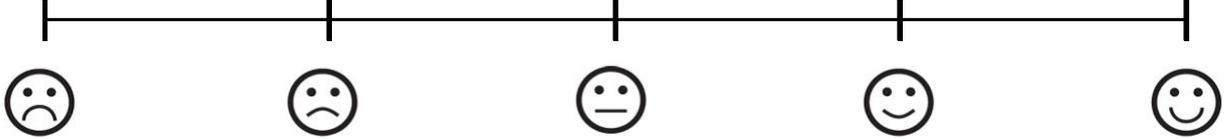
【1年生Cグループ回答用紙】

こたえのようし

なまえ： _____

おとこ・おんな

おたんじょう日： _____月 _____日

れん しゅ う	花子さんは、チョコレートがだいすきだとおもっていて、 けんちゃんに「わたしはチョコレートがだいすきな。」といました。
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()
イ.	わるい すこしわるい どちらでもない すこしよい よい 1 () 2 () 3 () 4 () 5 () 

1	よっちゃんは、クッキーがおいしいとおもっているのに、「まずい」といいました。																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足がおそいとおもっていて、「いいえ、おそいの。」といいました。																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

3	<p>よっちゃんは、はっぱがおちてきたとおもっているのに、 「クモがせなかについているよ。」といました。</p>																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

4	<p>りょうちゃんは、まどをわっていないとおもっているのに、 「わたしが、まどをわかりました。」といました。</p>																				
ア.	1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">わるい</td> <td style="text-align: center;">すこしわるい</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">すこしよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがおかねをとってないとおもっていて、 「よっちゃんはとっていない。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. ほんとう () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. そのた ()</p>																				
イ.	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>わるい</td> <td>すこしわるい</td> <td>どちらでもない</td> <td>すこしよい</td> <td>よい</td> </tr> <tr> <td>1 ()</td> <td>2 ()</td> <td>3 ()</td> <td>4 ()</td> <td>5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
わるい	すこしわるい	どちらでもない	すこしよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

【3年生 A グループ回答用紙】

かいとう用紙

名前： _____

男・女

おたん生日： _____ 月 _____ 日

練習	花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、 けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="text-align: center;">悪い</td><td style="text-align: center;">少し悪い</td><td style="text-align: center;">どちらでもない</td><td style="text-align: center;">少しよい</td><td style="text-align: center;">よい</td></tr><tr><td style="text-align: center;">1 ()</td><td style="text-align: center;">2 ()</td><td style="text-align: center;">3 ()</td><td style="text-align: center;">4 ()</td><td style="text-align: center;">5 ()</td></tr><tr><td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td></tr><tr><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr></table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

1	よっちゃんは、クッキーがまずいと思っているのに、「おいしい」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足がおそいと思っているのに、「うん、速いの。」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

3	<p>よっちゃんは、クモが落ちてきたと思って、 「クモがせなかについているよ。」といました。</p>																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

4	<p>りょうちゃんは、まどをわったと思っているのに、 「私は、まどをわっていません。」といました。</p>																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとっていないと思っているのに、 「よっちゃんがとった。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()</p>																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 20%;">悪い</td> <td style="text-align: center; width: 20%;">少し悪い</td> <td style="text-align: center; width: 20%;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center; width: 20%;">少しよい</td> <td style="text-align: center; width: 20%;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
																					

【3年生 B グループ回答用紙】

かいとう用紙

名前： _____

男・女

おたん生日： _____ 月 _____ 日

練習	花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、 けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="text-align: center;">悪い</td><td style="text-align: center;">少し悪い</td><td style="text-align: center;">どちらでもない</td><td style="text-align: center;">少しよい</td><td style="text-align: center;">よい</td></tr><tr><td style="text-align: center;">1 ()</td><td style="text-align: center;">2 ()</td><td style="text-align: center;">3 ()</td><td style="text-align: center;">4 ()</td><td style="text-align: center;">5 ()</td></tr><tr><td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td></tr><tr><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr></table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

1	よっちゃんは、クッキーがおいしいとっていて、「おいしい」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足が速いと思っているのに、「いいえ、おそいの。」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

3	<p>よっちゃんは、クモが落ちてきたと思っているのに、 「葉っぱがせなかについているよ。」といました。</p>																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

4	<p>りょうちゃんは、まどをわっていないとっていて、 「私は、まどをわっていません。」といました。</p>																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとったと思っているのに、 「よっちゃんはとっていない。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()</p>																				
イ.	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>悪い</td> <td>少し悪い</td> <td>どちらでもない</td> <td>少しよい</td> <td>よい</td> </tr> <tr> <td>1 ()</td> <td>2 ()</td> <td>3 ()</td> <td>4 ()</td> <td>5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> ----- </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	-----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

【3年生 C グループ回答用紙】

かいとう用紙

名前： _____

男・女

おたん生日： _____ 月 _____ 日

練習	花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table border="0"><tr><td>悪い</td><td>少し悪い</td><td>どちらでもない</td><td>少しよい</td><td>よい</td></tr><tr><td>1 ()</td><td>2 ()</td><td>3 ()</td><td>4 ()</td><td>5 ()</td></tr><tr><td colspan="5"> ----- ----- ----- ----- ----- </td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

1	よっちゃんは、クッキーがおいしいと思っているのに、「まずい」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足がおそいと思っていて、「いいえ、おそいの。」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

3	<p>よっちゃんは、葉っぱが落ちてきたと思っているのに、 「クモがせなかについているよ。」といました。</p>																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

4	<p>りょうちゃんは、まどをわっていないと思っているのに、 「私が、まどをわかりました。」といました。</p>																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとってないと思っていて、 「よっちゃんはとっていない。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()</p>																				
イ.	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>悪い</td> <td>少し悪い</td> <td>どちらでもない</td> <td>少しよい</td> <td>よい</td> </tr> <tr> <td>1 ()</td> <td>2 ()</td> <td>3 ()</td> <td>4 ()</td> <td>5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> ----- </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	-----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

【5年生 A グループ回答用紙】

回答用紙

名前： _____

男・女

お誕生日： _____ 月 _____ 日

練習	花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」といました。																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table border="0"><tr><td>悪い</td><td>少し悪い</td><td>どちらでもない</td><td>少しよい</td><td>よい</td></tr><tr><td>1 ()</td><td>2 ()</td><td>3 ()</td><td>4 ()</td><td>5 ()</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td colspan="5">—————</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

1	よっちゃんは、クッキーがまずいと思っているのに、「おいしい」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足がおそいと思っているのに、「うん、速いの。」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

3	よっちゃんは、クモが落ちてきたと思って、 「クモが背中についているよ。」といました。																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

4	りょうちゃんは、窓を割ったと思っているのに、 「私は、窓を割っていません。」といました。																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとっていないと思っているのに、 「よっちゃんがとった。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()</p>																				
イ.	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>悪い</td> <td>少し悪い</td> <td>どちらでもない</td> <td>少しよい</td> <td>よい</td> </tr> <tr> <td>1 ()</td> <td>2 ()</td> <td>3 ()</td> <td>4 ()</td> <td>5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

【5年生 B グループ回答用紙】

回答用紙

名前： _____

男・女

お誕生日： _____ 月 _____ 日

練習	花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、 けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table border="0"><tr><td>悪い</td><td>少し悪い</td><td>どちらでもない</td><td>少しよい</td><td>よい</td></tr><tr><td>1 ()</td><td>2 ()</td><td>3 ()</td><td>4 ()</td><td>5 ()</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
																					

1	よっちゃんは、クッキーがおいしいとっていて、「おいしい」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足が速いと思っているのに、「いいえ、おそいの。」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

3	よっちゃんは、クモが落ちてきたと思っているのに、 「葉っぱが背中についているよ。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

4	りょうちゃんは、窓を割っていないとっていて、 「私は、窓を割っていません。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとったと思っているのに、 「よっちゃんはとっていない。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()</p>																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()										
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
																					

【5年生Cグループ回答用紙】

回答用紙

名前： _____

男・女

お誕生日： _____ 月 _____ 日

練習	花子さんは、チョコレートが大好きだと思っていて、 けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」といました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="text-align: center;">悪い</td><td style="text-align: center;">少し悪い</td><td style="text-align: center;">どちらでもない</td><td style="text-align: center;">少しよい</td><td style="text-align: center;">よい</td></tr><tr><td style="text-align: center;">1 ()</td><td style="text-align: center;">2 ()</td><td style="text-align: center;">3 ()</td><td style="text-align: center;">4 ()</td><td style="text-align: center;">5 ()</td></tr><tr><td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td></tr><tr><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr></table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- ----- -----																					
																					

1	よっちゃんは、クッキーがおいしいと思っているのに、「まずい」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

2	よっちゃんは、足がおそいと思っていて、「いいえ、おそいの。」といいました。																				
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																				
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	----- ----- ----- -----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	
----- ----- ----- -----																					
																					

3	<p>よっちゃんは、葉っぱが落ちてきたと思っているのに、 「クモが背中についているよ。」といました。</p>																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

4	<p>りょうちゃんは、窓を割っていないと思っているのに、 「私が、窓を割りました。」といました。</p>																									
ア.	1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()																									
イ.	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">悪い</td> <td style="text-align: center;">少し悪い</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">少しよい</td> <td style="text-align: center;">よい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 ()</td> <td style="text-align: center;">2 ()</td> <td style="text-align: center;">3 ()</td> <td style="text-align: center;">4 ()</td> <td style="text-align: center;">5 ()</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">—————</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()						—————									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																						
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																						
—————																										
																										

5	<p>りょうちゃんは、よっちゃんがお金をとってないと思っていて、 「よっちゃんはとっていない。」といました。</p>																				
ア.	<p>1. 本当 () 2. うそ () 3. じょうだん () 4. まちがい () 5. その他 ()</p>																				
イ.	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>悪い</td> <td>少し悪い</td> <td>どちらでもない</td> <td>少しよい</td> <td>よい</td> </tr> <tr> <td>1 ()</td> <td>2 ()</td> <td>3 ()</td> <td>4 ()</td> <td>5 ()</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> ----- </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()	-----									
悪い	少し悪い	どちらでもない	少しよい	よい																	
1 ()	2 ()	3 ()	4 ()	5 ()																	

付録 1 2

調査の内容についてのご説明

研究責任者

仲 真紀子 北海道大学 文学研究科 人間システム科学専攻 心理システム科学 教授

連絡先：〒060-0810 札幌市北区 xxxxxxxxxxxxxxxx (Tel & Fax) xxx-xxx-xxxx

上宮 愛 北海道大学文学研究科 人間システム科学専攻 心理システム科学 博士課程在籍

連絡先：〒060-0810 札幌市北区 xxxxxxxxxxxxxxxx (Tel) xxx-xxx-xxxx

研究テーマ 真実と嘘の理解

私たちの研究室では、子どもと大人のコミュニケーションの研究を行っています。その一環として、子どもや大人が本当（真実）と嘘をどのように認識、区別しているのかを明らかにしたいと考えています。このような研究は海外では多くされておりますが、日本ではほとんど行われていないのが現状です。本研究では、日本人が真実や嘘の理解をどのように理解しているかを検討することを目的としております。

調査内容

対象者：大学生

内容：短い物語を 2 種類読み、質問（物語 2 種類×4 項目）に回答する形式のものです。物語は主人公がある出来事を体験するといった内容のものです。それぞれの物語に 4 つずつ質問が割り当てられており、質問の内容は、主人公の発話が「真実」であるか、「嘘」であるかを判断し、その項目の内容がどの程度望ましい、もしくは、望ましくない行為であるかを評定するものです。最後に、「真実」や「嘘」について、5 項目の質問に自由記述の形式で回答していただきます。この他、年齢・性別・学年を記入していただきます。

調査にご協力いただくに当たってのお約束

1. 本調査への参加は、(当然のことながら)任意です。答えてもよいと思われる方にのみご記入をお願いします。また、参加する、しないは成績には全く影響はありません。
2. 本調査は、一般的な認知活動について調査するものです。個人の能力や性格を測定するものではありません。また、個別の反応について「よい悪い」を判断するものではありません。
3. 本研究の結果は統計的に処理し、個人を特定できるような分析は行いません。個人にご迷惑がかかることは一切ありません。

差し支えなければ以下の項目にご記入ください

実施日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 (満 _____) 歳

性別： 男 ・ 女 学部・学年： _____ (_____) 学部 (_____) 年

【嘘場面（大学生調査用紙）】

前のページに示した例題を参考に以下の物語を読んで、それぞれの項目に回答して下さい。

りょうちゃんは、教室でボール遊びをして遊んでいました。りょうちゃんは手を滑らせ、ボールが窓ガラスに当たり、窓を割ってしまいました。先生に誰が窓を割ったのか聞かれたときりょうちゃんは…。

1	りょうちゃんは窓を割ったとっていて、先生に「自分が窓を割った。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
2	りょうちゃんは窓を割っていないと思っているのに、先生に「自分が窓を割った。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
3	りょうちゃんは窓を割っていないとっていて、先生に「自分は窓を割っていない。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
4	りょうちゃんは窓を割ったと思っているのに、先生に「自分は窓を割っていない。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											

りょうちゃんは、教室でボール遊びをして遊んでいました。しばらくして、りょうちゃんは教室から出て行きました。りょうちゃんが教室に戻ってくると教室の窓が割れていました。先生に誰が窓を割ったのか聞かれたときりょうちゃんは…。

1	りょうちゃんは窓を割ったとっていて、先生に「自分が窓を割った。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- ----- -----															
2	りょうちゃんは窓を割っていないと思っているのに、先生に「自分が窓を割った。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- ----- -----															
3	りょうちゃんは窓を割っていないとっていて、先生に「自分は窓を割っていない。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- ----- -----															
4	りょうちゃんは窓を割ったと思っているのに、先生に「自分は窓を割っていない。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- ----- -----															

【お世辞場面（大学生調査用紙）】

前のページに示した例題を参考に以下の物語を読んで、それぞれの項目に回答して下さい。

よっちゃんはクッキーを焼きました。そのクッキーはとてもまずい味でした。よっちゃんはりょうちゃんにクッキーをあげました。そして、よっちゃんはりょうちゃんにクッキーはどうか聞きました。りょうちゃんは…。

1	りょうちゃんはまずいと思っていて、よっちゃんに「まずい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
2	りょうちゃんはおいしいと思っっているのに、よっちゃんに「まずい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
3	りょうちゃんはおいしいと思っっていて、よっちゃんに「おいしい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
4	りょうちゃんはまずいと思っっているのに、よっちゃんに「おいしい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											

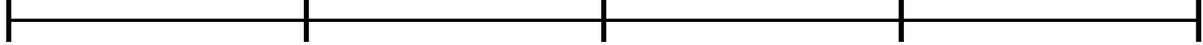
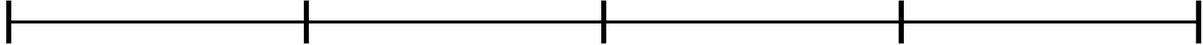
よっちゃんはクッキーを焼きました。そのクッキーはとてもおいしくできました。よっちゃんはりょうちゃんにクッキーをあげました。そして、よっちゃんはりょうちゃんにクッキーはどうか聞きました。りょうちゃんは…。

1	りょうちゃんはまずいと思っている、よっちゃんに「まずい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- -----															
2	りょうちゃんはおいしいと思っているのに、よっちゃんに「まずい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- -----															
3	りょうちゃんはおいしいと思っている、よっちゃんに「おいしい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- -----															
4	りょうちゃんはまずいと思っているのに、よっちゃんに「おいしい」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5	----- ----- ----- -----			
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
----- ----- ----- -----															

【謙遜場面（大学生調査用紙）】

前のページに示した例題を参考に以下の物語を読んで、それぞれの項目に回答して下さい。

よっちゃんは徒競走で1位になりました。よっちゃんは、1位になれたことをとてもうれしく思いました。よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね」といいました。よっちゃんは…。

1	よっちゃんは自分で足が速いと思っていて、りょうちゃんに「うん、速いの。」と答えた。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						
2	よっちゃんは自分で足が遅いと思っっているのに、りょうちゃんに「うん、速いの。」と答えた。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						
3	よっちゃんは自分で足が遅いと思っっていて、りょうちゃんに「いいえ、遅いの。」と答えた。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						
4	よっちゃんは自分で足が速いと思っっているのに、りょうちゃんに「いいえ、遅いの。」と答えた。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						

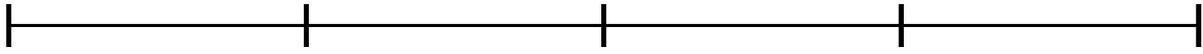
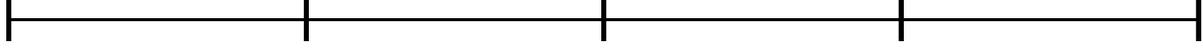
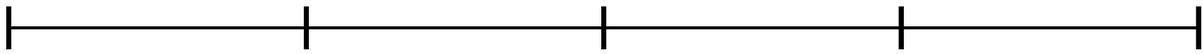
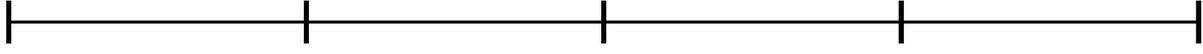
よっちゃんは徒競走でビリになりました。よっちゃんは、ビリになったことをとても恥ずかしく思いました。よっちゃんを見てりょうちゃんが、「すごいね。とても足が速いね」といいました。よっちゃんは…。

1	よっちゃんは自分で足が速いと思っていて、りょうちゃんに「うん、速いの。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
2	よっちゃんは自分で足が遅いと思っっているのに、りょうちゃんに「うん、速いの。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
3	よっちゃんは自分で足が遅いと思っっていて、りょうちゃんに「いいえ、遅いの。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											
4	よっちゃんは自分で足が速いと思っっているのに、りょうちゃんに「いいえ、遅いの。」と答えた。														
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()														
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> </td> </tr> </table>	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4	5				
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい											
1	2	3	4	5											

【冗談場面（大学生調査用紙）】

前のページに示した例題を参考に以下の物語を読んで、それぞれの項目に回答して下さい。

よっちゃんは、ガーデニングをしているお父さんと一緒に庭にいました。
すると、葉っぱがお父さんの背中に落ちました。よっちゃんは…。

1	よっちゃんは葉っぱが落ちたと思って、 お父さんに「葉っぱが背中についてるよ。」と言った。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						
2	よっちゃんはクモが落ちたと思っているのに、 お父さんに「葉っぱが背中についてるよ。」と言った。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						
3	よっちゃんはクモが落ちたと思って、 お父さんに「クモが背中についてるよ。」と言った。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						
4	よっちゃんは葉っぱが落ちたと思っているのに、 お父さんに「クモが背中についてるよ。」と言った。									
	真実() 嘘() お世辞() 冗談() 謙遜() 間違い/誤り() 利他的な嘘() その他()									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">望ましくない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましくない</td> <td style="text-align: center;">どちらでもない</td> <td style="text-align: center;">やや望ましい</td> <td style="text-align: center;">望ましい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> 	望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい	1	2	3	4
望ましくない	やや望ましくない	どちらでもない	やや望ましい	望ましい						
1	2	3	4	5						

調査の内容についてのご説明

研究テーマ 【子どもによる真実と嘘の理解】

私どもの研究室では、子どもと大人のコミュニケーションの研究を行っています。その一環として、子どもが本当のこと（真実）と嘘とをどのように区別し、理解しているのかを調査したいと考えました。子どもが何を真実と考え、何を嘘と考えているかは、事故や事件について「本当のこと」を報告したり、医者に自分の病状を正確に説明するなど、真実を話すことが求められるコミュニケーションの場において重要です。また、教育やしつけとも関わる大切な問題です。下記をお読みくださり、ぜひ本研究にご協力くださいますよう、切にお願い申し上げます。

研究責任者

仲 真紀子 北海道大学大学院 文学研究科 人間システム科学専攻 心理システム科学 教授

連絡先：〒060-0810 札幌市北区 xxxxxxxxxxxxxxxx (Tel & Fax) xxx-xxx-xxxx

上宮 愛 北海道大学大学院 文学研究科 人間システム科学専攻 心理システム科学 博士課程在籍

連絡先：〒060-0810 札幌市北区 xxxxxxxxxxxxxxxx (Tel) xxx-xxx-xxxx

調査内容

対象者：中学生（お子様）とその保護者（主にお母様）

アンケート：中学生用アンケートと保護者用アンケートの2種類があります。それぞれ A4 用紙 4 ページです。

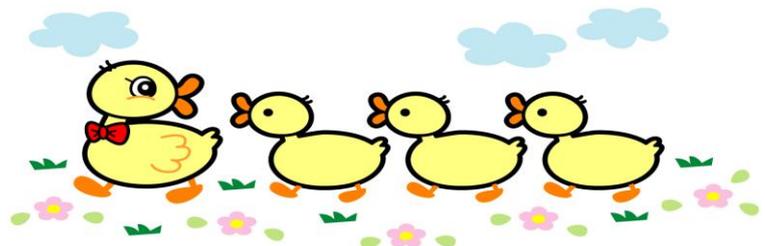
【中学生用】短い物語を読んでいただき、そこに登場する人物の言葉（会話文）が本当のこと（真実）か嘘か、それ以外かを判断して回答していただきます。また、その言葉が物語の状況においてどの程度よいか、悪いかを「1：悪い」～「5：よい」の5段階で判断していただきます。物語は2種類、会話文は8つあります。最後に、真実とはどのようなものか、嘘とはどのようなものか、自由記述で回答していただきます。

【保護者用】短い物語を読んでいただき、そこに登場する主人公の言葉（会話文）が本当のこと（真実）か嘘か、それ以外かを判断して回答していただきます。また、その言葉が物語の状況においてどの程度よいか、悪いかを「1：悪い」～「5：よい」の5段階で判断していただきます。物語は2種類、会話文は8つあります。最後に、真実や嘘に関するしつけ方針について、5項目、お尋ねします。その他、年齢・性別・学年・ごきょうだいの有無についてお尋ねします。

回答いただいたアンケート用紙は、中学生用と保護者用を一緒にして同封の封筒で投函してください（切手は不要です）。**12月末まで**にお送りいただけましたら幸いです。

調査にご協力いただくに当たってのお約束

1. 本調査への参加は、（当然のことながら）任意です。答えてもよいと思われる方のみご記入をお願いします。
2. 本調査は、中学生の一般的な認知活動について調査するものです。個人の能力や性格を測定するものではありません。また、個別の子どもの反応について「よい悪い」を判断するものではありません。
3. 本研究の結果は統計的に処理し、個人を特定できるような分析は行いません。個人にご迷惑がかかることは一切ありません。
4. 本調査は無記名で行われるため、個別の結果をお返すことはできません。どうぞご了承ください。
5. 本調査によって回収されたデータは6年間保管され、その後はシュレッダーにかけられます。また電子化されたデータも同様に消去されます。
6. 本調査の結果はできるだけすみやかに分析し、ご報告いたします。



【中学生調査フェイスシート】

子ども版調査用紙

調査用紙へは、ご両親に手伝ってもらわずに、ご自分の思うとおりの回答をご記入ください。

- アンケート回答日： _____ 年 _____ 月 _____ 日
- 性別：(男・女)
- 年齢： _____ 歳
- 生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日・学年 _____ 年

-----アンケートの回答の仕方-----

最初に の中のお話を読んでください。このお話の続きが、その下の に書かれています。下の例題では、花子さんが「私はチョコレートが大好きなの」と言っています。この言葉が①本当のこと(真実)だと思いか、②嘘だと思いか、③お世辞(おせじ)だと思いか、④冗談(じょうだん)だと思いか、⑤謙遜(けんそん:自分をへりくだってみせること)だと思いか、⑥間違い(まちがひ)だと思いか、それとも⑦他の人を守るための嘘だと思いか判断して、当てはまると思うものを○で囲んでください(下の例題では、例として、①真実に○がついています)。①～⑦以外の意味があると思ったら、その内容を()に書いてください。また、この言葉がお話の状況においてどのくらいよいと思うか、悪いと思うか、「1:悪い」～「5:よい」の中で当てはまると思う番号を○で囲んでください(下の例題では、例として、4に○がついています)。

例題

今日は花子さんの誕生日です。けんちゃんは、花子さんにプレゼントをあげようと考えました。迷ったあげく、けんちゃんは花子さんにチョコレートをあげました。

花子さんは、チョコレートが大好きなので、けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えました。				
①真実	②嘘	③お世辞(おせじ)	④冗談(じょうだん)	⑤謙遜(けんそん)
⑥間違い(まちがひ)	⑦他の人を守るための嘘	その他()		
悪い 1	少し悪い 2	どちらでもない 3	少しよい 4	よい 5
----- ----- ----- ----- -----				



【保護者調査フェイスシート】

保護者版調査用紙

心理学では、他の影響がない状態で子どもの反応を記録することを目指しています。そのため、お子様用の調査用紙は、ご両親がお手伝いされることなく、お子様ご自身でご回答いただけますようお願い申し上げます。

- アンケート回答日：_____年__月__日
- 回答いただいた保護者の方：(男・女) 生年月日_____年__月__日 ご職業(_____)
- 回答いただいたお子様：
(男・女) 生年月日_____年__月__日 小学校・中学校・その他(_____) 学年__年
- その他のお子様(アンケートに回答いただいた方を除く)：
(男・女) 生年月日_____年__月__日 保育所／幼稚園・小学校・中学校・高校・短大・大学・その他(_____)
(男・女) 生年月日_____年__月__日 保育所／幼稚園・小学校・中学校・高校・短大・大学・その他(_____)
(男・女) 生年月日_____年__月__日 保育所／幼稚園・小学校・中学校・高校・短大・大学・その他(_____)
(男・女) 生年月日_____年__月__日 保育所／幼稚園・小学校・中学校・高校・短大・大学・その他(_____)
- 同居のご家族：父方祖父・父方祖母・母方祖父・母方祖母・その他(_____)

-----アンケートの回答の仕方-----

最初に の中のお話を読んでください。このお話の続きが、その下の に書かれています。下の例題では、花子さんが「私はチョコレートが大好きなの」と言っています。この言葉が①本当のこと(真実)だと思いか、②嘘だと思いか、③お世辞(おせじ)だと思いか、④冗談(じょうだん)だと思いか、⑤謙遜(けんそん:自分をへりくだってみせること)だと思いか、⑥間違い(まちがひ)だと思いか、それとも⑦他の人を守るための嘘だと思いか判断して、当てはまると思うものを○で囲んでください(下の例題では、例として、①真実に○がついています)。①～⑦以外の意味があると思ったら、その内容を()に書いてください。また、この言葉がお話の状況においてどのくらいよいと思うか、悪いと思うか、「1：悪い」～「5：よい」の中で当てはまると思う番号を○で囲んでください(下の例題では、例として、4に○がついています)。

例題

今日は花子さんの誕生日です。けんちゃんは、花子さんにプレゼントをあげようと考えました。迷ったあげく、けんちゃんは花子さんにチョコレートを受けました。

花子さんは、チョコレートが大好きなので、 けんちゃんに「私はチョコレートが大好きなの。」と答えました。				
①真実	②嘘	③お世辞(おせじ)	④冗談(じょうだん)	⑤謙遜(けんそん)
⑥間違い(まちがひ)	⑦他の人を守るための嘘	その他()		
悪い 1	少し悪い 2	どちらでもない 3	少しよい 4	よい 5
----- ----- ----- ----- -----				

